西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第60集

堂ヶ嶋遺跡　寺　崎遺跡
上　妻遺跡　法　元遺跡
童子丸遺跡　石　貫遺跡

妻北地区下水道敷設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

― 本文編 ―

２０１１

宮崎県西都市教育委員会

序

古く、日向国の中心地であった西都市には多くの文化財が分布しております。これらの貴重な文化財を後世に伝えるのは我々の責務であり、本市では文化財の保護、活用に努めてきていますが、各種の開発事業によって影響を受ける埋蔵文化財・遺跡については、記録保存のための発掘調査を行っています。

西都市教育委員会では、平成16～20年度公共下水道事業に伴い、西都市大字三宅、童子丸、右松所在の堂ヶ嶋遺跡、法元遺跡、童子丸遺跡、上妻遺跡、石貫遺跡、寺崎遺跡の発掘調査を行いました。本書は、その遺跡調査報告書です。

過去5年間の調査では、石器・古墳時代後期・奈良時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡を構成すると考えられる柱穴掘方・土地区画と考えられる溝状遺構・それに伴う古代の土器破片・瓦片が出土しました。

特に、古墳時代後期の集落と推測される遺構や、平安時代の土師器や瓦が出土する溝状遺構など、周辺に所在する重要遺跡と同時期の遺構が広範囲に確認されたことが注目できます。

この地域は、西都原古墳群の支群や古代日向国の政治的拠点である日向国府跡が所在する箇所であり、西都市内で最も多くの歴史的情報を有する遺跡群です。

そのため、今回の調査により得られた成果は、西都市の古代を理解するためには極めて重要なものであります。

本報告が学術的な研究のみでなく、社会教育や学校教育の面にも広く活用されるとともに、埋蔵文化財に対する理解と認識を深めるための一助となれば幸いです。

なお、調査にあたってご指導・ご協力いただいた、西都市上下水道課、宮崎県教育庁文化財課、また発掘調査・整理作業にたずさわっていただいた方々、並びに地元の方々に心から感謝申し上げます。

平成23年3月30日

西都市教育委員会

教育長　綾　寛光

例　言

1. 本書は、西都市教育委員会が西都市上下水道課下水道係の委託を請け、平成16年度から平成20年度実施した妻北地区に所在する遺跡の発掘調査報告書である。
2. 現地調査は、平成16年7月19日から平成21年2月12日まで行った。
3. 発掘調査は、西都市教育委員会が主体となり実施した。
4. 調査は、平成16～18年度を蓑方政幾・津曲大祐が、平成19年度を津曲、黒木裕平が、平成20年度を津曲が担当した。
5. 調査及び図面作成は、蓑方・黒木・津曲が行い発掘調査者全員で補助した。
6. 遺物の実測・拓影は蓑方・津曲が行い、遺物の浄書は津曲が行った。
7. 本書の執筆は蓑方・津曲が、編集は津曲が行った。
8. 本書に使用した方位は、座標北（G.N.）と磁北(M.N.)である。
9. 本書に使用した標高は、海抜絶対高である。
10. 報告書に用いた色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局他監修の『新版標準土色帳』に準拠した。
11. 調査地点は調査年度－路線名－調査地点番号で記号化した。また、起債事業の路線名は補助事業と区別するためにアルファベットで示した。
12. 本書に使用した遺構記号は、SA＝竪穴住居跡・SB＝掘立柱建物・SC＝土坑・SD＝土壙墓・SE＝溝状遺構・SH＝柱穴も含めたピット(小穴)・SI＝集石遺構・SJ＝竈・SO＝消失円墳周溝・SP＝土器埋設炉・SPP＝地床炉・SZ＝性格不明の掘方・竪穴状遺構である。
13. 本書の執筆にあたり、土師器に関して宮崎県埋蔵文化財センターの今塩屋毅行氏に、石製品に関しては宮崎県立西都原考古博物館の藤木聡氏に、陶磁器に関して、宮崎県立西都原考古博物館の福田泰典氏・宮崎県文化財課の掘田孝博氏に御指導を賜った。
14. 本書に掲載した調査地点や出土遺物は、調査において、性格が明らかで時期特定が可能な資料と遺構として重要なものを中心にした。全てを網羅したものではない。

目次

第Ⅰ章序説
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　調査の体制……1
第Ⅱ章　遺跡の位置と歴史的環境
　第１節　立地・第２節　歴史的環境……2
　第３節　妻北地区に所在する遺跡の調査履歴…3
第Ⅲ章　各遺跡の調査
　第１節　調査区の設定と概要……6
　第２節　堂ヶ嶋遺跡の調査……6
　第３節　寺崎遺跡の調査……15
　第４節　上妻遺跡の調査……18
　第５節　法元遺跡の調査……20
　第６節　童子丸遺跡の調査……29
　第７節　石貫遺跡の調査……37
第Ⅳ章　総括……41
表目次
Tab.1　調査地点一覧……51
Tab.2　土製品観察表・Tab.3　土錘観察表……61
Tab.4　土器類観察表……62
Tab.5　石器・石製品観察表……76
Tab.6　銭貨観察表・Tab.7　鉄製品観察表……77
報告書抄録

第Ⅰ章序説

第1節　調査に至る経緯

当地区に所在する遺跡の発掘調査については、妻北下水道敷設事業に伴い実施したものであり、平成16年度事業からの継続事業である。内容は現在、市道、県道として利用されている道路に下水道管を敷設する工事で、工事区域に隣接して西都原古墳群の支群や日向国府跡が所在し、周辺地での埋蔵文化財調査例が多くあるため、事業主である西都市都市計画課(当時)と協議した結果、遺構・遺物が出土した場合の現状保存が困難であると判断し、記録保存を目的とした本調査を実施した。

第2節　調査の体制

事業主体	西都市役所　都市計画課　下水道係(平成16～17年度)	
	西都市役所　上下水道課　下水道係(平成18～20年度)	
調査主体	教育長	黒木康郎(平成16年度)
	教育長	三ヶ尻茂樹(平成17～20年度)
	課長	森康雄(平成16年度、文化課)
	課長	伊達博敏(平成17年度、文化課)
	課長	伊達博敏(平成18年度、社会教育課)
	課長	荒川昭英(平成19年度、社会教育課)
	課長	泊宗利(平成20年度、社会教育課)
	課長補佐	村岡満徳(平成16～17年度、文化課)
	課長補佐	楠瀬寿彦(平成18～19年度、社会教育課)
	課長補佐	蓑方政幾(平成20年度、社会教育課)
	主幹兼係長	蓑方政幾(平成19年度、社会教育課)
	係長	蓑方政幾(平成16～17年度、文化課)
	係長	蓑方政幾(平成18年度、社会教育課)
	係長	江藤和彦(平成20年度、社会教育課)
	主査	重永浩樹(平成16～17年度、文化課)
	主査	重永浩樹(平成18年度、社会教育課)
	主任主事	筌瀬明宏(平成19～20年度、社会教育課)
	主任主事	黒木裕平(平成19～20年度、社会教育課)
	主事	筌瀬明宏(平成16～18年度、文化課)
調査担当	係長	蓑方政幾(平成16～17年度)
	主幹	蓑方政幾(平成18年度)
	主任主事	黒木裕平(平成19年度)
	主事	津曲大祐(平成16～17年度、文化課)
	主事	津曲大祐(平成18～20年度、社会教育課)

発掘作業　　緒方タケ子・押川ツル・金丸美保・黒木トシ子・児玉征子・篠原時江・関治代
　　長谷川クミエ・疋田はる子・横山ナオ子・浜田スミ
整理作業　　奥野和子・狩野由美・黒木文子・中原昭美・奈須真紀子・長谷川明美・吉留直美

第Ⅱ章　遺跡の立地と歴史的環境

第1節　立地

本調査区は、宮崎県西都市の中心に位置する。現在の西都市街地からは直線距離にして約1kmである。

九州山地から東に伸びる丘陵が一ツ瀬川により浸食され流域に沿い沖積平野を形成し、その平野を挟んで洪積世台地が南南東に伸びる。一ツ瀬川からみて西側が国特別史跡西都原古墳群の広がる西都原台地である。本調査区は西都原台地の東側から南東に広がる中間台地で、標高は約20mの位置にあり、西都原台地との比高差は約30mである。

このように当地域の地形は九州山地から伸びる丘陵が河川の浸食により形成された平野と八つ手状に伸びる洪積世台地から成り、その台地上や台地縁辺に遺跡が集中するといった特徴がある。

第2節　歴史的環境

西都原台地上を中心に縄文時代から近世にかけて多くの遺跡が所在する。

主要な遺跡を概観すると、まず台地上の東西4.0km、南北2.0kmの範囲に広がる国指定特別史跡・西都原古墳群があげられる。古墳時代前期から終末期までの古墳群であり、その構成の通時性と同時期における多様性、良好な遺存状況は稀有の事例であり、宮崎平野部の古墳時代を理解する上で多くの情報を持つものである。

この西都原台地は古墳群により有名であるが、その台地の北西端には縄文時代早期の集石遺構が確認され、台地中央部には縄文時代後・晩期、弥生時代中期末～後期前半の住居跡が確認されており、古墳時代以前から当地域の生活遺構が所在する。また台地東北端には弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての集落である新立遺跡があり、台地南端部の寺原地区には古墳時代の集落が所在することが予想される。

また、台地の東側から南東側にかけて、約30m下った標高には中間台地が広がっており、遺跡が集中する。その中間台地の北側に位置する寺崎地区には日向国府跡、南東側に位置する国分地区には日向国分尼寺跡(推定)、南に日向国分寺跡が所在する。その他、西都原古墳群の支群も点在し、堂ヶ嶋地区、国分地区においては平成12～13年度に地下式横穴墓群も調査された。

同地域内である堂ヶ嶋地区、童子丸地区、刎田地区を中心に6～7世紀以降の住居跡も多く確認されることから、当地域は複数時期に亘り墓域や集落域として利用されて現在に到る広域の複合遺跡として評価することができよう。

本調査区もこの中間台地で、下水道管埋設部分のみを対象とするため、狭く長いものになり、個々の地点で検出された遺構の性格を決定づけるに十分でないが、調査地点が広範囲にわたるため、各地区における遺構、遺物出土状況から複合遺跡内をさらに詳細に把握する根拠を得ることができるものと考える。

第3節　妻北地区に所在する遺跡の調査履歴

1. 堂ヶ嶋遺跡

西都原245～247号墳の周辺から昭和36年に堂ヶ嶋1号地下式横穴墓、昭和44年に2号地下式横穴墓が天井の陥没により発見された[1]。その後、平成7年度に西都原古墳群の指定地拡大に伴う確認調査により、周溝から円墳下に掘削された地下式横穴墓の竪坑のみが調査されている。

平成2年度には、遺跡所在確認調査事業に伴い、妻北地区の酒元遺跡を含めた7遺跡が確認調査されており、堂ヶ嶋遺跡(L地点)からは、V字溝・溝状遺構・変形土坑・柱穴が検出された[2]。

平成12～13年度にかけては、西都市妻北土地区画整理事業に伴う仮設住宅建設予定地の約3000㎡が調査され、消失円墳2基、地下式横穴墓21基、土壙墓4基、住居跡6軒、集石遺構2基、溝状遺構や柱穴群が検出された(堂ヶ嶋第2遺跡)[3]。時期は、6世紀後半～7世紀前半の地下式横穴墓群で、円墳下に複数の地下式横穴墓が掘削される例や、宮崎平野部における地下式横穴墓終焉の様相が明らかになった。竪穴住居跡も検出され、弥生時代後期や古墳時代の時期が確認されている。

公共下水道事業に伴う本発掘調査と並行して、平成17年から行われている稚児ヶ池通線道路改良工事や平成20年度に宅地分譲に伴う発掘調査が行われ、弥生時代中期末～後期初頭の住居跡や6世紀後半～7世紀の住居跡や平安時代の周溝状遺構などが確認されている。

2. 寺崎遺跡

寺崎遺跡とその周辺の調査に関しては、西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第52集に詳細がまとめられていることから、概略と近年の調査を記す[4]。

古くは、日向考古調査団(1948年)の調査で、稚児ヶ池の東側が調査されている。竪穴住居跡や経塚などが検出されたと報告されている[5]。出土遺物として土師器・須恵器・陶磁器・硯・和鏡などが挙げられ、土師器は、古墳時代や平安時代の特徴をもつものであるが、硯は平安時代に遡るものではなく、後世のものである。

宮崎県教育委員会により、昭和63年度～平成2年度にかけて行われた「国衙・郡衙・古寺跡等詳細分布調査」[6]、平成3～7年度にかけて実施された「国衙・郡衙・古寺範囲確認調査」[7]において、寺崎遺跡付近が官衙遺跡の中心と推定され、平成8～12年度の5ヶ年計画で「国衙・郡衙・古寺跡等保存整備基礎調査」として寺崎遺跡で国衙政庁を特定するための確認調査が実施された。

平成10年度に検出された二面庇付東西棟建物跡が正殿跡と推定され、宮崎県教育委員会が中心部を日向国衙跡として確定した。多量の古瓦や畿内系土器、円面硯、墨書土器等が出土した[8]。

平成17年7月に日向国府跡として国指定史跡となり、今後も保存整備のため確認調査が実施される予定である。

平成2年度の西都市教育委員会により実施された遺跡所在確認調査事業でE地点として寺崎遺跡が調査された[9]。この調査では、6世紀後半の竪穴住居跡や奈良・平安時代と推定される溝状遺構、柱穴群が確認されている。

昭和48年の西都市立妻北小学校プール建設工事に伴い出土した木簡は重機掘削中に採集したものである。そのため、地形的に日向国府跡と連続する妻北小学校は、国府関連遺構が存在することが推測されていたが、平成17年度に妻北小学校校舎建て替え工事に伴い試掘調査を行ったところ、9世紀後半～10世紀にかけての遺構が一部残っていることが判明し、本発掘調査を実施した。

結果として、竪穴住居跡や平安時代の溝状遺構、時期の特定は難しいが掘立柱建物(側柱)、中世

における地鎮とみられる古銭を埋納したピットなどが検出された。

特に溝状遺構(SE1)は日向国府跡と同時期であり、何らかの区画を行っている可能性があり、今後その延長や方向など、性格が注目される遺構である[10]。

平成19年度には、道路新設に伴い日向国府跡北西側に位置する箇所が発掘調査され、竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡1棟、土坑3基、溝状遺構5条と多数のピットが検出された。竪穴住居跡は、7世紀代のもので、土坑は弥生時代後期、7世紀末葉の土器が出土するものが確認されている。

古瓦や9世紀代の須恵器も出土しており、国府跡と同時期の遺構も含まれている。

また同年、日向国府跡の西側に通る平田・童子丸線拡幅の是非及び今後の道路改良の方向性を検討するため、国府指定範囲に隣接する8箇所にトレンチを設定し、確認調査を行った。

第6トレンチで日向国府跡の南側築地塀雨落ち溝に類似した溝状遺構、第8トレンチにおいても築地塀の雨落ち溝に連なる可能性がる溝2条と築地塀に付設する簡易な門の可能性がある1対の柱穴が検出されている[11]。

3.上妻遺跡

前述した平成2年度に西都市教育委員会によって実施した確認調査で、I地点として上妻遺跡が調査されている。この調査地点では、地表下0.2mで硬質の層と敷石遺構を検出しており、「版築状遺構」と報告されている。この遺構からは、肥後系の複弁12葉蓮華文軒丸瓦が出土した。

出土遺物は、古瓦が半分以上を占め、格子目叩文が主体であり、寺崎遺跡や日向国分寺跡とは様相を異にしている[12]。

平成4年度には、県教育委員会による「国衙・郡衙・古寺範囲確認調査」の一環で、A・B地区の2箇所が確認調査された[13]。A地区からは、豊後国金剛宝戒寺出土と同范の単弁八葉蓮華文軒丸瓦や格子目・縄目叩の瓦が出土した。

B地区からは、南北に小砂利を敷いた、幅0.95mの道路状遺構と推定されるものが検出された。

4.法元遺跡

前述の西都市教育委員会が実施した平成2年度の確認調査におけるK地点が法元遺跡内である[14]。

竪穴住居跡、土坑、柱穴、平成4年度の県教育委員会による上妻遺跡B地区で検出された小砂利を敷き詰めた遺構に連なると考えられる同様な遺構が検出されている。小砂利に混ざって格子目叩文の瓦破片が出土している。

平成19年度には、宅地分譲に伴う道路新設で発掘調査が行われた[15]。

特徴的なのは、表土を除去すると、約20cmの遺物包含層が堆積していた。平安時代の土師器破片を中心に、縄文時代晩期、6世紀後半、7世紀、中世、近世陶磁器破片を多く含む。

この中には、円面硯、風字硯破片や畿内系土師器などが含まれ、注目される。

遺物包含層除去後、地山は確認できず、精査を続けると、複数の竈跡と考えられる粘土・焼土が検出された。さらに精査すると非常に遺構密度が高く、ほとんど地山が残っていない状況で、多数の竪穴住居跡が重複していることが確認された。竪穴住居跡の時期は、6世紀後半、7世紀、8世紀末が現段階で確認できる。これらの住居群が廃絶された後に掘削された溝状遺構は、9世紀末～10世紀前半のものである。古墳時代後期～平安時代に至るまで、居住域として利用された結果として捉えることができる。

5. 童子丸遺跡

平成2年度に西都市教育委員会が実施した確認調査におけるAa地点とAb地点、B地点、C地点が童子丸遺跡にあたる[16]。

Aa 地点では、古墳の周溝と葺石を検出している。また、溝状遺構・柱穴群が検出され、遺物から奈良・平安時代の遺構と推測されている。横縄叩文の平瓦の出土も確認された。

Ab 地点では、近世の配石遺構、柱穴や不整形の遺構が検出された。不整形の遺構は住居跡が重複している可能性が高い。出土遺物から奈良・平安時代が推定されている。

B 地点では、当地区に所在する、上園1号墳の周溝確認を意図してトレンチを設定したが、明確に古墳に伴う周溝状遺構は確認できていない。

溝状遺構・柱穴・円形土坑・配石遺構を検出しているが、遺物から中近世が推定されている。

C 地点では、童子丸遺跡の北端に近い畑地にトレンチを設定した。

竪穴住居跡・溝状遺構・土坑・柱穴を検出したと報告されている。住居跡の時期は、出土遺物から6世紀後半と考えられる。

平成3年度に、宮崎県教育委員会による「国衙・郡衙・古寺跡等範囲確認調査」の一環で童子丸遺跡が3箇所調査された[17]。前述の平成2年度の西都市教育委員会の調査で横縄叩文の平瓦が出土したことから、国府域の北限を確認するために行われた。

第1～3地点で、古墳時代の竪穴住居跡が検出され、柱穴群も検出されたが、古瓦など平安時代の遺物は出土しなかった。奈良時代に遡る土師器や須恵器も出土しなかったことが報告されている。

6. 石貫遺跡

童子丸遺跡と同じく、平成2年度に西都市教育委員会が実施した確認調査におけるD地点が石貫遺跡にあたる[18]。他の調査地点と同様に畑地にトレンチを設定して掘削を行っているが、溝状遺構・柱穴が検出されている。奈良・平安時代の遺構と報告されている。

註

(1) 九州前方後円墳研究会編『九州の横穴墓と地下式横穴墓　第Ⅱ分冊　-資料編-』2001

(2) 西都市教育委員会編「上妻遺跡・石貫遺跡・寺崎遺跡・法元遺跡・酒元遺跡・堂ヶ嶋遺跡・童子丸遺跡　平成2年度遺跡所在確認調査事業に伴う発掘調査報告書」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第14集』

(3) 筌瀬明宏編「堂ヶ嶋第2遺跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第33集』

(4) 蓑方政幾編「寺崎遺跡　西都市立妻北小学校建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第52集』

(5) 駒井和愛・桜井清彦「宮崎県児湯郡西都市寺原及び寺崎の遺跡」『高千穂阿蘇』神道文化会 1960

(6) 宮崎県教育委員会編『国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ』1991

(7) 宮崎県教育委員会編『国衙・郡衙・古寺跡等範囲確認調査概要報告書Ⅲ』1994『同　Ⅳ』1995

(8) 宮崎県教育委員会編「寺崎遺跡」『国衙跡保存整備基礎調査報告書』2001

(9) 註2文献

(10) 註4文献

(11) 西都市教育委員会編「市内遺跡発掘調査概要報告書XⅢ」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第49集』2007

(12) 註2文献

(13) 宮崎県教育委員会編『国衙・郡衙・古寺跡当範囲確認概要調査報告書』1994・註8文献

(14) 註2文献

(15) 西都市教育委員会編『西都原古墳研究所・年報』第24号　2007

(16) 註2文献

(17) 宮崎県教育委員会編『国衙・郡衙・古寺跡等範囲確認調査概要報告書　Ⅰ』1992

(18) 註2文献

第Ⅲ章　　各遺跡の調査

第１節　　調査区の設定と概要

1、調査区の設定

調査区は下水道敷設工事の工区に沿って設定した。一部の工区を慎重工事とした以外は本調査をおこなった。

調査区は、現在、アスファルト舗装された道路、生活道として使用されている通路にあたる。

各調査区の位置関係と調査区番号は付図 1～3 に示した。

各調査区と各遺跡の関係は、付図 4 に示した。

総延長 9888.5m、総調査面積は 8722.5 ㎡である。

2、調査の方法

調査は協議の結果、作業の安全性を考慮し、幅 0.8m～1m、現地表面から約 1m までの深さを対象にする。調査対象の下水道敷設路線が現在道路であるため、周辺地住民の生活に及ぼす影響を最小限に抑える必要があることから、調査は基本的に 1 日で完結する形態をとった。

そのため、1 日に進む延長は 1 日で調査を終了し、埋め戻しが完了して現況に復旧できる範囲が適当であり、約 10m を基本単位として調査に臨むこととなった。しかし、遺構や遺物が集中して複数日調査が必要な場合は鉄板で仮復旧して調査を継続する。逆に後世の削平等で遺構が残っていない地点については復旧が可能な範囲で調査延長を延ばした。

第２節　　堂ヶ嶋遺跡の調査

・調査区の概要

堂ヶ嶋遺跡は、西都原 81 号墳等が所在する西都原東側縁辺下に広がる遺跡である。

今回、総延長 2863.9m、総調査面積 2515.7 ㎡を調査した。

・遺構と遺物(Fig3～14)

平成 16 年度

16-5 区:調査方法は調査区を 10 地点に分け現地表面から 1m の深さを調査対象とし、重機で路盤を掘削、除去し調査した。旧地形が旧河道に沿う後背湿地で、舗装路盤が約 50cm～70cm と厚く敷設されており、その下層には、黒色の泥質層が堆積し、遺構は確認できなかった。

5-1 地点にのみ地山が残り、2 地点において湿地との境が確認できた。そこから調査地点終点まで黒色泥質の層が堆積しており、対岸の地山は確認できなかったため、現在の逢初川の中心に約 100m 以上に渡って湿地帯が広がっていたと考えられる。

遺構は確認できなかったが、黒色泥層からは土師器、陶磁器等の破片が出土している。

周辺には古墳時代後期～奈良・平安期の住居跡や日向国府跡も近く、生活域として評価されているため、当時の廃棄場として考えることができる。

5-11～15 地点

本調査区は地形的に、13 地点から徐々に登り、15 地点へ、最終的には 19 地点まで至っている。その比高差約 1.85mを測る。

5-12 地点：遺構は検出できなかったが、アスファルト舗装及び路盤を除去すると黒褐色埋土になり、その下に黒褐色泥層が現れる。西側調査区でも同じような状況であり、旧河道であると思われ、その状況が、15 地点まで続くことが確認できる。

5-15 地点：本地点が旧河道の左岸にあたる部分と思われ、自然層が急に上がっているのが確認できる。なお、本地点でのみアカホヤ火山灰層が確認でき、その深さは 0.74mを測る。

遺物は、土師器・須恵器・磁器等が出土しているが、小片であり、時期等の特定は難しい。

5-16～19 地点

本調査区の南側に隣接して円墳（西都原古墳群第 260 号）が所在しており、この円墳の SO が確認される可能性があった。

地形的に 16 地点から 19 地点まで緩やかに登っている。15 地点で確認できたアカホヤ火山灰層はここでは確認できず、16 地点では黒褐色土を掘り下げるとすぐに礫層が現れ、17～19 地点では、明黄褐色ロームが検出面で、その下が礫層であった。つまり、15 地点周辺では自然地形は残ったままで土が堆積し、16 地点から 19 地点にかけては、削平されていることを示している。

5-16 地点：SE を 1 条検出した。幅 0.5mで、検出面からの深さ 0.16mを測る。

遺物は、土師器・須恵器・磁器・陶器・丸瓦等が出土している。

5-18・19 地点：SE らしき遺構を検出した。幅 0.5mで、検出面からの深さ 0.06mを測る。本地点では円墳の SO が確認できる可能性があり、慎重に掘削を進めたが検出することはできなかった。それは、円墳の西側が一段高く、これが元々の地形だとすると本地点は前述したように削平されているからだと思われる。

遺物は、土師器・須恵器・磁器・陶器等が出土している。これらの中には、時期的には 8 世紀末～9 世紀の高台の付いた土師器椀、その他、青磁や染付等が含まれている。

5-20・21 地点：旧河道上に位置すると考えられ、埋め立ての客土と泥層のみで、遺構は検出できない。

平成 17 年度

4-1～7 地点

検出面は黄褐色ローム層で、地表下 0.72mを測る。4 区の西側 2/3 部分で、傾斜地である。アカホヤ火山灰層は遺存しておらず、周辺も含めてかなり削平されているようである。さらに、道路中央部分には水管が通っており、掘削されていることから、ほとんどの地点が調査不可能であつた。遺構は検出できなかった。

遺物は、1 地点から磁器・染付等が出土した。

4-8～10 地点

8～10 地点は、現状は平坦で、両サイドに畑地が広がっており、道路部分は一段高くなっている。調査の結果、8 地点から検出面がかなり深くなり、9 地点では約 2.20m（重機で確認）を測る。そして、9 地点の東側から 10 地点にかけては浅くなり約 1.00mとなっている。もともとは河道であっ

たようで、畑地の両サイド（東側と西側）には水路があり、北の石貫地区から湧水が南流している。8 地点から土師器・須恵器が出土している。

5-1～6 地点

1 地点は、浅いところに水管が通っており、調査不可能であり、2 地点も同様なことから、1・2 地点は来年度下水道工事に合わせて調査することとなった。3～6 地点については、検出面がわりと浅く、水管がサイドに片寄っていることから調査可能であった。

調査の結果、アカホヤ火山灰層は遺存していなかったものの、6 地点にて SC を検出した。遺物は、土師器・須恵器・陶磁器等が出土している。

5-6 地点：検出面は褐色ローム層で、地表下 0.40mを測る。本対象区のいちばん北側にあたる。SC のプランは方形あるいは長方形で、北東隅部分を検出した。検出面からの深さは約 0.60mを測る。共伴遺物はなく、時期的なことは不明である。

遺物は、一括として、土師器・須恵器・陶磁器等が出土している。

B-1 地点:市道 301 号線から入った枝線で、SZ が検出された。性格は分からないが、埋土から遺物が少量出土した。

B-2～5 地点

本調査区は市道 301 号から西に延びた袋小路の里道で、標高は約 22.5mである。

調査の結果、短い距離であったが SA を 5～6 軒や SH 等を検出した。

B-2 地点：検出面は褐色ローム層で、地表下 0.94mを測る。SH を 3 基検出した。SH はすべて円形で、径 0.30～0.40m、検出面からの深さ 0.28～0.43mを測る。

遺物は、一括で土師器・須恵器・陶磁器等が出土している。

B-3・4 地点：検出面はアカホヤ火山灰層で、地表下 0.90mを測る。3 地点から 4 地点にかけて SA を 3 軒、3 地点で SH を 6 基検出した。3 地点の SA1 は、南辺と南東隅部分で、検出面から床面までの深さ 0.18mを測る。SA2（3 地点～4 地点にかけて検出）は南西隅と東辺で、一辺約 3.20mの方形プランと推定される。検出面から床面までの深さ 0.12～0.15 を測る。

4 地点の SA1 は、東辺と西辺で、一辺約 4.15m、検出面から床面までの深さ 0.13mを測る。いずれも主柱は検出できなかった。遺物は SA 内から土師器・須恵器、SH からも土師器・須恵器等が出土している。

B-5 地点：検出面はアカホヤ火山灰層で、地表下 0.80mを測る。遺構が重複しているためはっきりしないが SA を 2 軒、SE を 1 条、SH を 2 基検出した。SE は幅 0.75～1.00m・検出面からの深さ 0.14mを測る。SH はすべて円形で、径 0.35m・深さ 0.15～0.51mを測る。遺物は土師器・須恵器等が出土している。

B-6～12 地点

西都原古墳群第 260 号の西側から法元公民館まで延びている市道で、地形的には平坦で、標高 20.28m前後である。

B-6・7 地点：検出面はアカホヤ火山灰層で、地表下 0.30mを測る。6 地点から 7 地点にかけて消失円墳のものと推定される二重 SO を検出した。いずれも南側が急で、北側が緩やかに傾斜している。6 地点（内側）の SO は幅 3.70m・検出面からの深さ 0.94m、7 地点（外側）の SO は幅 4.00m・検出面から深さ 0.85mを測る。

遺物は、土師器・須恵器・陶磁器・古瓦等が出土しているが、小片で、時期を特定する資料に乏しい。

B-8・9 地点：8 地点から SH を 4 基、9 地点から SH を 4 基検出した。いずれも円形で、径 0.25～0.40m、検出面からの深さ 0.03～0.30mを測る。遺物は 9 地点の SH から土師器が出土している。

B-10 地点：検出面は褐色ローム層で、地表下 0.22mを測る。本地点には隣接して西都原古墳群第 260 号が所在しており、この古墳の SO が確認されるのではと期待したが、残念ながら関連した遺構を検出することはできなかった。遺構としては SE を 1 条検出した。東西に延びたもので、幅 2.15m・現存長 0.80m・検出面からの深さ 0.34mを測る。

B-12 地点：市道 301 号と 299 号の合流地点から西へ 65.0m、北西に延びた短い里道で、調査の結果、旧河道の右岸と思われる地形を確認した。

B-13～21 地点：調査の結果、旧河道の右岸と思われる地形を検出した。遺物はわずかに 21 地点から陶磁器椀等が出土しているのみである。

B-16 地点：検出面は褐色ローム層で、地表下 1.07mを測る。ここでは河道の右岸（17-B-12 地点で確認した旧河道の対岸）と思われる地形を確認した。

B-22～28 地点：22 地点では古墳時代前期後半の SA と考えられる掘方を検出し、埋土中から小型丸底壷を含む、土師器破片が出土した。土師器は複合口縁壷破片や高坏破片などが出土し、ほとんどが祭祀用の器種であることから祭祀関係の遺構が付近にあるものと推測される。

23 地点にかけて SZ を検出し、24 地点では SB を構成すると柱穴掘方を検出した。25 地点では SA1 軒を検出した。推定で一辺約 5m、深さ約 0.3m の掘方である。26 地点では SA2 軒を検出した。一辺約 3m、深さ約 0.1m のものともう 1 軒は一辺約 4.8m、深さ約 0.2m を測り、SJ を伴う。土師器、須恵器破片が多く出土した。22 地点のみ古墳時代前期の遺構で、他の調査地点では、7 世紀後半、平安時代の遺構が確認された。

B-29・30、56～58 地点：市道 299 号上で 29、30 地点、56、57 地点はもともと谷状の地形で自然の流路であったと考えられ、黒色泥層が堆積し、上層は道路敷設時の客土に覆われており、遺構・遺物はなかった。58 地点のみ、地山が残り、SA と考えられる掘方が 2 軒検出できた。切り合いにより範囲は不明確だが、掘方の深さは約 0.2m、遺物の出土はほとんどない。

B-31～39 地点：市道 259 号で、東西に延びており、西から東に向かって緩やかに傾斜している。標高は 31 地点で 26.7m、39 地点で 25.07m、比高差 1.63mを測る。

調査の結果、遺構・遺物は検出できなかったが、もともとは旧河道を利用した水田であったと思われる地形を確認することができた。

B-31～33 地点：検出面は褐色ローム層で、地表下 0.50mである。南側に現存長約 20.0m、深さ 0.07mの SE を検出した。遺物が共伴しておらず、時期は不明であるが埋土から古いものではないと思われる。

B-35 地点：検出面は褐色ローム層で、地表下 0.50mである。この地点から落ち込み（段差）が見られ、36 地点では地表下 0.84m、39 地点では約 1.50mにもなる。地元の人の話では、もともと水田だったところで、それを埋め立てて現況になったとのことである。

B-40～46 地点：市道 295 号で、北に延びており、本地点周辺は 39 地点のように以前は水田ではないが、かなり削平を受けており、遺構等は検出することができなかった。検出面は黄褐色土で、地表下 0.60mを測る。遺物は出土しなかった。

B-47～52 地点:46 地点から北に延びる袋小路の里道で、本地点もかなり削平を受けており、アカホヤ火山灰層は全く確認することはできなかった。また、中央部には水管が埋設されており、遺構等は検出できなかった。検出面は黄褐色土で、地表下 0.65mを測る。遺物は出土しなかった。

B-53～55 地点:市道 365 号で、53 地点では礫が多く入る SZ を検出した。深さは検出面より約 30 cmで、遺物が多く混じる。54 地点はアカホヤ火山灰層の上に 9 世紀後半～10 世紀の遺物包含層が堆積していた。SH が検出できた。55 地点では同じく遺物包含層があり、SE と SH 群が検出できた。SE1 は幅 1.3m で 2 段の掘方で深さ約 0.3m を測る。

平成 18 年度

3-1～4 地点：現在の地形は平坦であるが、アスファルトの下は盛土され、さらに、その下は砂質で礫を含んだ層になっており、全体的にかなり削平を受けていた。

遺構・遺物等は確認することはできなかった。

3-5・6 地点：昨年度 5 区の 1・2 地点部分で、道路中央部に水管が通っており、下水道工事に合わせて調査することとなったところである。

SE を 1 条検出した。SE1 は、現存長 4.00m、幅 0.70m、検出面からの深さ 0.22mを測る。遺物は、土師器・陶器等がわずかに出土している。

3-7・8 地点：確認調査でアカホヤ火山灰層が確認されたところの本調査で、地形的には西から東への下り傾斜で、その比高差 2.18mを測る。

7～8 地点にかけて SE を 2 条検出した。東西に延びているもので、SE1 は、現存長 13.00m・幅不明・検出面からの深さ 0.24m、SE2 は、現存長 13.50m・幅不明・検出面からの深さ 0.10mを測る。遺物は土師器・須恵器・陶器等が出土している。時期は遺物及び埋土の状態から近世と思われる。

3-12～16 地点:12 地点は道路敷設時に削平を受けており、遺構はなかった。13 地点と 14 地点で埋まった時期が近世と考えられる SE1 を検出した。幅は 0.7～1m、深さは検出面から約 10cm である。15 地点では地形が東側に傾斜しているのを確認した。地形変化点であろう。

16 地点からは、地形が上がり、SE や、SH 群を確認した。一部、柱穴と考えられるものがあり、SB 所在する可能性がある。時期は重複していて、平安時代から江戸時代のものがあると推定される。

3-17～23 地点:稚児ケ池住宅 5 号棟から市道 299 号が合流する地点までで、地形的には緩やかな登り傾斜で、16 地点で標高 26.36m、22 地点で 27.23m、最終地点の 40 地点では 27.47mである。

3-17 地点：SH14 基を検出した。いずれも円形で、径 0.20～0.45m、検出面からの深さ 0.08～0.25mを測る。遺物は出土していない。

3-18 地点：SA と SC を検出した。SA1 は北辺のみで、遺物も全く出土していないことから時期は判断がつかない。検出面からの深さ 0.17mを測る。遺物は、陶器が出土している。

3-19 地点：SE を 1 条検出した。幅約 2.70m、深さ 0.17mと浅い。遺物は、陶磁器が出土している。

3-23 地点：SE を 1 条検出した。幅約 5.00m、深さ 1.28mと深く、小さな谷状の地形となっている。遺物は出土していない。

3-24～26 地点:平成 13 年度の区画整理事業に伴う確認調査（42 地点）で消失円墳の SO（西側約半分程度）を確認した地点の東側地域である。

このデータを基に復元すると、墳丘径 12.50m、SO を含めると約 16.70mの円墳となる。SO は、

幅 2.20m、深さ 0.49mを測る。遺物は陶器 1 点（26 地点）のみでほとんど出土していないが、平成 13 年度の調査で、周溝から土師器甕 1 点と数点の土師器片が出土しており、これらから堂ケ嶋第 2 遺跡の年代と同時期（6 世紀末～7 世紀初頭）に比定されている。

3-27～31 地点:27・28 地点はアカホヤ火山灰層が検出面であったが、29 地点～31 地点は谷状になっているようでかなり深く、1.10m以上掘削しても検出面を確認できなかった。遺構・遺物は確認できなかった。

3-28 地点:SE2 条を検出した。東西に並行して延びている。SE1 は幅 2.35m、検出面からの深さ 0.40m、SE2 は幅 1.65m、検出面からの深さ 0.29mを測る。遺物は陶磁器等が出土している。

3-31 地点：SE 1 条と SH4 基を検出した。SE は、東西に延びており、幅 0.60m、検出面からの深さ 0.21mを測る。SH は、いずれも円形で、径 0.25～0.50mを測る。遺物は出土しない。

3-32～38 地点:32 地点ではアカホヤ火山灰層は確認できたが、33～38 地点では確認できなかった。全体的に褐色土が検出面であり、かなり削平を受けているようである。

3-32 地点：SZ1 基･SH3 基を検出した。SZ は楕円形状で、壁面の状況から SA の可能性は薄いことから判断した。SH は、いずれも楕円形状で、深さ 0.18～0.41mを測る。遺物は土師器が一括であるが、まとまって出土している。

3-33 地点：SH を 2 基検出した。いずれも円形で、径 0.30～0.40m、検出面からの深さ 0.11～0.21mを測る。遺物は出土していない。

3-34 地点：SH を 1 基検出した。円形で、径 0.45m、検出面からの深さ 0.18mを測る。遺物は出土していない。

3-39・40 地点:本地点では 1.20m以上掘削しても多量の山砂利を含んだ黄色褐色土であり、埋め立てられたようである。地元の方々の話では、前は水田で、それを埋め立てたということである。遺構・遺物は確認できなかった。

C-1～6 地点:1～2 地点は西都原古墳群 256 号墳に隣接し、周溝の存在が予想された。1～2 地点にかけて掘方があり、2 地点で地山の立ち上がりを検出したが、その掘方内から出土する遺物は平安時代のもので、古墳時代に遡る遺物は出土しない。1 地点では深さ約 0.8～1mで地山に到達し、2 地点にかけて続くが、急に地山が立ち上がる。1 地点の埋土から長沙窯陶瓷の破片が出土した。

3 地点でも SE を確認した。幅 1.2m、深さ 0.7mを測る。

4～6 地点では削平により、遺構は検出されなかった。

E-2～4 地点: 現在、グランドゴルフ場として使用されている市有地で、掘削は易かった。

遺構は現地表面から約 0.4mで検出される。2 地点では、SE を検出し、幅 1.2m、深さ 0.3mを測る。他に、SH と近世の SD を確認した。SD 1・SD2 からは、寛永通宝が出土した。

3～4 地点では南北に軸を取る SE を 2 条確認し、他に SH、SD を検出した。特に 3 地点で検出した SE は幅 1m、深さ 0.2mを測り、削平状況を考えるとかなりしっかりした掘方である。SE 埋土内からの出土遺物は土師器埦の破片や瓦の破片が含まれることから平安時代で、日向国府跡と併行する時期である。

平成 19 年度

1-1～6・14～20 地点：市道 294 号上で、SE・SA・SH 群を検出した。時期は 6 世紀後半～7 世紀、

奈良・平安時代にあたる。調査範囲全体に遺構が確認できる。

特に古墳時代後期～終末期段階にあたるSAが注目できる。1-2地点から検出されると、後の調査地点でも続けて検出された。道路拡幅に伴う調査で道路脇を掘削したところ同時期のSAが検出され、平成13年度に行った確認調査においても近辺でSA群が平面検出されており、周囲に集落が広がることが推定できる。

SAは重複することなく検出されており、ほぼ同時期の遺構群と考えられよう。

2地点で検出されたSAと考えられる掘方は1辺6.1m、深さ0.3mを測る。土師器の甕が破片で多く出土した。

3・5・6地点においてもSAが検出されており、SPをもつものがある。出土遺物は土師器の破片が多い。6地点では2軒検出された。

14地点と20地点でもSAと考えられる遺構が検出された。特に20地点では土師器を中心に多くの土器破片が出土し、須恵器も共伴している。1辺4.8m・深さ約0.3mを測る掘方である。床構造も貼床がほどこされており、共通性がある。

15・18・19地点はSHが集中して検出された。15地点ではSBが想定できる箇所がある。

1-7～13地点:市道293号上で、1－1～6・14～20地点の西側に入る枝線にあたる。SE・SC・SA・SH群を検出した。

7地点～10地点まではSH群やSEが検出されており、一部はSBを構成する可能性がある。

11地点～13地点では連続してSAと考えられる遺構が検出され、合計4軒のSAを検出した。11地点の掘方が1辺5.8m、深さ0.1mを測り、12地点の掘方は5.2m、深さ0.2mである。13地点では2軒のSAと考えられる掘方が検出され、それぞれ1辺6.7mと4.4mの幅を測り、深さは約0.25mである。土師器甕・高坏等に須恵器坏破片が共伴している。

A-1～3地点：稚児ヶ池の西岸になる。アカホヤ火山灰層が良好に残存しており、現地表面から約90cmで遺構が検出できる。1地点ではSCが検出され、土師器坏が完形で出土した。調査区の壁にかかって遺構が出土したので全体は分からない。2地点ではSH群、3地点ではSEとSZを検出した。いずれも平安時代の遺構である。

A-4～17地点：294号から西都原台地に向かい入る枝線で、アカホヤ火山灰層は良好に残存するが、遺構密度は低い。現地表面から約50cmで検出した。4地点ではSHが5基検出され、須恵器破片などが出土した。その他の調査地点は地山の残存状況は良いが、遺構はSHやSC・SEが検出されるに止まる。

周辺でのSAの検出例が多いことから、多くの遺構が検出されることが予想されたが、西都原台地麓に向かい、空白地が広がっている可能性が高い。

A-18～20地点:294号から東側に入る袋小路で、地山が良好に残る。多くのSH群が検出された。SHの中にはしっかりした掘方をもつものがあり、SBを構成する可能性があるが、はっきり柱穴列と判断できるものはない。土師器破片等が埋土から出土した。19地点では、幅1.5m・深さ0.4mのしっかりしたSEが検出された。

A-21～23地点：市道294号上で最も北側になる。21地点の北側は水路になっており、そこで地形は下り、旧河道になる。幅0.8mのSEが検出された。23地点では地形も安定し、SAと考えられる掘方を検出した。1辺約9m・深さ0.2mを測り、土師器甕等が破片で出土した。

A-24～29 地点：市道 294 号から西都原の麓に向かう枝線である。アカホヤ火山灰層が良好に残るが、遺構密度は低い。28～29 地点は地形が急激に落ち、谷状になる。約 1.5m で地山にあたると考えられる。294 号に向かい次第に地形は上がっていくものと推測できる。

A-30～38 地点：西都原古墳群堂ヶ嶋支群が所在する。35 地点で西都原 248 号墳の横を調査したが SO と考えられる遺構は検出されなかった。墳丘の南側で ST の竪坑が検出されたこともあり、関係遺構の検出が予測されたが、不整形な SH が検出されたのみである。

37 地点では西都原 245 号墳の横にあたり、SO と考えられる掘方を検出した。道路敷設時に墳丘が削平を受けるが、この掘方を SO 端部と仮定すると径 18m ほどの円墳になると考えられる。

A-39～41 地点：西都原の麓から市道 293 号に延びる狭幅の枝線である。周囲に水路があることから湿地帯と予想していたが、地山が良好に残存する。40～41 地点で SA と考えられる掘方を 2 軒検出した。1 辺 5m～8m で検出面からの深さは約 20cm である。土師器の破片が出土した。

A-45～50 地点：谷状を呈した地形の落ちを確認した。市道 294 号の標高から急に地形が落ちている。数条の SE が検出されたが、多くは自然流路と考えられ、地形を侵食して逢初川や稚児ヶ池に流れ込んだものである。

平成 20 年度

2-1～2 地点:市道 291 号を石貫神社の鳥居前から南に折れる市道 293 号上にあたる。
現地表面から約 40cm で遺構を検出できる。

1 地点は水道管敷設時の掘削で撹乱を受けるが、調査区西側に向かい掘方が検出された。性格は不明であるが、深さ約 0.2m と浅い。土師器破片が出土した。

2 地点では、水道管敷設時の撹乱は調査区外に逸れた。2 時期の掘方があるが、SA が検出された。SJ と考えられる遺構も付帯する。

長さは長軸で 8.5m と大型で、中心に SJ と考えられる焼土と粘土の塊が検出された。
掘方の深さは約 0.2～0.3m を測る。土師器破片や須恵器破片が多く出土した。土師器の甕の特徴から 6 世紀後半～7 世紀前半のものと考えられる。

2-3～7 地点:稚児ヶ池団地の横を西都原台地に向かい抜ける里道の坂道である。市道 296 号に繋がる。

地形は大きく削平された後、土砂などが堆積した地層で、遺構、遺物は出土しなかった。

2-8～12 地点:稚児ヶ池通線から、西都原の麓へ向かう里道で、昨年度調査を実施する予定であったが、調査途中において個人と市営の水道管が現地表面から約 30cm の浅い地点で調査範囲において確認された。水道管が確認された面は遺構検出面に到底及ばない掘削深であり、調査には、さらに深い掘削が必要であったことから、協議の結果、水道管切り替え後に調査をすることとなり、本年度調査に変更された箇所である。

北側にかけて地形が落ちており、西都原台地から流れ出る湧水の道として侵食された谷状の地形を形成している。調査路線はちょうどその岸辺を上がる地形になる。

地山は残存しており、8～9 地点にかけて検出面が深くなる。9 地点において SZ を検出し、土師器破片や須恵器高坏の脚部が出土した。

10 地点～12 地点までは、さらに地山が深く落ち込み、検出面が現地表面より 1m 以上になり、

遺構遺物は確認されなかった。

2-13～15 地点：西都原台地の麓に沿うように延びる市道 292 号上になる。掘削すると、現地表面から約 0.6m で地山を検出できる。地形は東側に向かい次第に低くなっている。

13 地点では東側に向けて、2 条の SE と SH 群が検出された。

14～15 地点にかけて地形はさらに落ちていき、現地表面から 1m 以上の深さに沈む。

湧水が起こり、現在も水路があることから、旧水路に重なるものと考えられる。

2-16～18 地点：稚児ヶ池通線から東側に折れる里道で、砂利舗装が行われている。

2-8～12 地点と同じく、給水管と水道管が浅くに敷設されており、今年度調査に変更した部分である。現地表面から約 70cm で地山に至り、遺構が検出できる。地元の地主の話では、過去に果樹園として利用されていた土地であるらしく、現代における果樹植栽時の掘削土坑が多く、均等な間隔で検出され、ビニル袋やテープ等のゴミも入る。

16 地点では、その撹乱の中、SH が確認された。

17 地点では、現代の撹乱のほか、幅 0.6m の浅い SE や SH が多く確認されるが、建物を構成するとは考えにくい。

18 地点では、撹乱に加え、長軸 0.7m から 1.2m の SC を 4 基確認した。掘方の深さは約 0.5m としっかりした掘方である。近世の SC であると考えられる。

A-1～3 地点：市道 293 号から北に入る袋小路で、地山は現地表面から約 60cm で検出された。

1 地点では、SH と切りあう SZ が検出された。深さは約 0.2m である。

土師器破片等の遺物が出土した。掘方の一部は 2 地点にかかる。

2 地点では前地点で確認された掘方が続き、その立ち上がりが検出された。埋土中から土師器破片が出土した。掘り方の幅は 1 地点から測ると 4.5m である。SA の可能性がある。

この遺構の横に隣接してもう一軒 SA と考えられる遺構が検出された。掘方の長軸は 6m、深さ 0.2m を測る。土師器が多く出土した。

3 地点では、地山が上がってきており、遺構検出面が浅くなった。SH が複数検出されたが、その内 2 基は対になり、SB を構成する可能性がある。

A-4～6 地点：293 号上で、石貫神社側から旧川道をはずして、調査を行った。

現地表面から約 0.5m で検出した。調査区は水道管の敷設時に半分近くを掘削されており、4 地点では遺構は確認できなかった。

5 地点では SH が 7 基検出され、土器破片などが出土した。対になり SB を構成するようなものにはならなかった。

6 地点でも半分近くは撹乱を受けていたが、SZ を検出した。周辺での SA の検出例が多いことから、SA の可能性がある。この地点周辺は、居住域としての性格が強い。

A-7～8 地点：稚児ヶ池団地から西都原麓に向けて上る里道で、西都原 81 号墳の麓に至る。

地形が大幅に削平され、その上に崩落土が乗っており、遺構・遺物は確認されなかった。

崩落土を除去すると礫層上層の地層が残っていた。

宅地造成時に大きく削平されており、給水管の敷設などもおこなわれている。

稚児ヶ池通線にかけて地形は傾斜しており、次第に削平の影響はなくなるものであろう。

A-9～11 地点：西都原台地の麓に沿って延びる市道 292 号上である。旧地形は残っているが、

水路の近くでもあり、湧水がある。

現地表面から約 0.5m で遺構検出面に到る。

9 地点では、切り合う 2 条の SE を検出した。検出面において幅約 0.4m、深さ約 0.2m を測る。埋土は黒色土で、アカホヤ火山灰層と考えられる地山に掘り込まれている。側溝跡か。

10 地点では、幅 6.3m、深さ約 0.4m の大型の SE の掘り方が検出された。下層付近では湧水もあり、砂粒を含む。台地から流れ出る湧水、雨水の排水路と推測される。SH も 1 基検出した。

11 地点は、西都原台地に登る坂道である。傾斜とともに層が変化するが、遺構・遺物は検出されなかった。

第 3 節　　寺崎遺跡の調査

・調査区の概要

寺崎遺跡は、堂ヶ嶋遺跡の稚児ヶ池を挟んだ東側に位置する。

今回、総延長 680.1m、総調査面積 571.8 ㎡を調査した。

・遺構と遺物(Fig. 15～20)

平成 16 年度

D-1～3 地点:1～3 地点は 3 区の南側調査区と同じく、旧川道内と思われ、土が幾層にも堆積している。それは 2 地点で I 層が明褐色土、II 層が黒褐色土、III 層が灰褐色土、IV 層が黒色土となっているが、深さ約 1.0m以下は水が湧き出てくるため調査不可能で、底面までは確認できなかった。

D-4～5 地点:県教育委員会によって日向国府跡と確定された範囲の南東部に隣接している。5 地点から緩やかに下り始め、4 地点は傾斜地で、3 地点で平坦になり、市道 301 号線と合流している。特に 5 地点では、日向国府跡に関連した遺構や遺物を確認できることが期待されたが、本調査区周辺はかなり削平されていた。なお、5 地点と 3 地点との比高差は 2.06mで、傾斜角 20 度である。

遺物は、いずれの地点からも出土しなかったが、周辺には土師器をはじめ、須恵器・陶器・磁器、それに布目瓦を含む多量の古瓦が散布しており、日向国府跡あるいは関連施設の遺構の存在が想定される。

D-19 地点: 市道 301 号線から入り込んだ袋小路で延長約 50m を測る。アカホヤ火山灰層が現地表面から約 0.8～1m ほどの深さで残存しており、SA が 2 軒検出できた。

SA1 は、住居内の壁際に SP が検出された。土師器長胴甕を伴っており、7 世紀後半の良好な共伴資料となる。SP の位置が特徴的である。SP に使用された 172 は、7 世紀前半の特徴をもつ。

また、SA1 からは、方頭鏃も出土した。祭祀に伴うものか。

平成 18 年度

E-1 地点:16-D-19 地点の西側になり、アカホヤ火山灰層が検出面である。

SC と SH 群を確認した。土師器などの遺物が出土した。

平成 19 年度

2-1～3 地点:現地表面から約 0.7m で遺構を検出できる。東西に横切る SE を各地点で検出した。

幅は3～5mと広いものがある。2地点や3地点で調査区東側に沿って掘方が検出される。一旦、東側に逸れては部分的に現れる。

2-4～5地点:4地点では南北方向に伸びるSEを検出した。検出面がかなり下層で、削平された状態である。幅0.6m・深さ約0.2mを測る掘方である。

2-7～10地点:路盤が厚く、旧路面が現路盤の下にあり、かなり地形が削平されているので、遺構検出面は現地表面から約0.7mである。

地山は細かい砂利を含む礫層に近い質感である。この範囲では調査区の東側や西側に沿って10～15m・深さ0.2mの掘方が検出された。埋土はやや締まっており、遺物は龍泉窯系青磁碗の破片やⅣ類の白磁破片が出土する。性格は不明である。

2-11～13地点：11地点においてSBを構成するとみられる2間のSHが検出された。SH埋土中央に白色粘土が入っており、柱痕跡と考えられる。奈良・平安期の遺構である可能性が高く、位置が日向国府跡指定範囲の北側にあたり、近接することから、同時期の建物が所在していた可能性をもつ。SHの掘方は径0.4m、土層で確認できる柱痕跡は径0.15～0.2mである。

2-14～17地点：日向国府跡指定範囲の西側に位置するが、道路敷設時の掘削により、地山は残っていなかった。その上、西側に埋設してある水道管の掘方が調査区の半分以上を占めるようになり、残存部分も路盤と客土を除去すると礫層になる。

B-1～2地点：昨年度の18-E-2地点から南に向かい延長した部分である。SH群と近世のSDを検出した。地山は現地表面から約0.8mで検出できる。SDからは寛永通宝が出土した。

昨年度の調査でも検出されていることから、周囲に近世のSD群が広がるものと考えられる。

B-3～12地点：市道1199号上で、現地表面から約0.8mで地山に至り、次第に深くなる。終点の12地点では、地山は現地表面から1.2mを測る。

3～5地点にかけて約15mの長さで地形が約0.5m落ち込み、再び立ち上がる。性格は不明。

6～8地点にかけて調査区の東側に掘方が検出された。SEになるか不明であるが、自然の傾斜ではない。埋土中からは中世の遺物が出土している。検出面から深さ0.3mを測る。

12地点において、最も地山は深くなり、SZから須恵器の破片が出土した。

平成20年度

1-1～7地点：市道1199号から西(稚児ヶ池)に向かい延びる里道で、舗装などは行われていないが、部分的に砂利等が敷設されている。現幅員は非常に狭く、調査は困難を極めた。

検出された遺構はSE(南北方向)・SA・SC・SH群を検出した。時期は奈良・平安時代、近世にあたる。特に西側半分に遺構が確認できる。

1-2地点からは遺構は確認できなかった。地山を検出した面は浅く、約50cmの掘削で検出される黄褐色(10YR5/6)の粘土質の層で、昨年度、市道1195号で検出した地山と同じ土である。

この地域における地層堆積状況から考えると、アカホヤ火山灰層よりも2～3層ほど下層に堆積する土が地山として確認できるので、旧地形はかなり削平をうけていることが予想される。

3地点において、調査範囲の南辺に掘方が確認された。地形の落ち込みである可能性もある。明確な遺物は出土していない。

4地点において、南北方向にSEを確認した。検出面における幅は約0.7m、深さ約0.3mを測

るが、現地表面の削平を考慮に入れ、南側の土層壁面の観察によると最低でも幅 1m、さらに大きな SE を形成するものと考えられる。平成 18 年度調査の 18-E-3 地点で確認された平安時代の SE や平成 19 年度道路新設作業に伴う寺崎遺跡発掘調査において確認されていた南北方向に掘削された SE との関係が注目される。平安期の地割など区画溝である可能性をもつ。

5 地点では SH 群と SC と考えられる遺構が検出された。出土遺物は須恵器や縄文晩期の土器破片が出土している。

6 地点では 5 地点終点に確認されていた SC の掘方、SA と考えられる方形の掘方と、SH 群が確認された。最も遺構密度の高い地点である。SA と考えられる掘方は辺 3.6m ほどでやや小規模なものである。掘方の深さは約 0.2m である。土師器・須恵器・石器等を出土している。

1-8～9 地点:市道 1199 号から東側に伸びる袋小路で、SC・SA・SH 群を検出した。

8 地点は、中央に水道管が敷設されており、撹乱が著しい。SC と SH を確認した。SC に関しては掘方の規模が、長軸で約 1.9m を測り、深さは約 0.2m である。土師器破片等が出土した。

9 地点は SA か平地式住居跡と考えられる遺構が検出され、多くの須恵器や土師器が出土した。

掘方の長軸は約 4.3m で、深さ約 0.2m を測る。9 世紀末～10 世紀前半と考えられる土師器埦等が出土しており、日向国府跡の中心的な時期と対応することから、同時期の遺構がこの周辺に所在することが分かった。

上層からは、12 世紀後半以降の土師器・皿(211・213)が出土しており、周辺で出土する陶磁器の時期に該当するため、中世の遺構が存在する可能性が高い。

B-1 地点：市道 1199 号から西側に延びる里道上で、1-7 地点の続きにあたる。現地表面から約 0.5m で地山にいたる。地山は粘土質の黄褐色土で、硬くしまる。稚児ヶ池に向かい延びる SE を確認した。埋土は黒褐色土でアカホヤ塊を含み、砂利も多く含む。排水路として機能していた可能性がある。

遺物も土師器破片などが出土したが、上層の遺物包含層からは弥生時代の磨製石斧も出土した。この調査地点の北側に位置する平成 19 年度道路新規敷設工事に伴う調査区でも弥生時代中期末の遺構が確認されたことから、周辺に弥生時代の遺構も広がるものと推測される。

B-2～5 地点：市道 1199 号から東側に延びる里道で、1-9 地点の続きにあたる。2 地点では現地表面から約 0.5m で遺構検出できる。SH、SE が検出できた。1-9 地点では、土師器を多く出土する SA1 が検出されていることから、関連する遺構かもしれない。土師器等の破片が出土した。

1-9 地点と同じく、中世の土師器・皿も出土している。

3 地点では地山は深くなり、地表面から約 0.8m で検出できる。SC2 基と SE、SH を検出した。SC1 は長軸 1m、深さ 0.2m の掘方で、1 基からは完形に近い土師器埦が出土した。9 世紀後～10 世紀前半代のものと考えられる。1-9 地点で確認された SA1 から出土した遺物と同時期で、同時代遺構が広がっているものと考えられる。SH1 基からも同時期の土師器が出土している。

4 地点においても遺構検出面は深く、地表面から約 0.8m である。遺構密度は高く、SE2 条と SC1 基、SH が検出された。出土遺物はいずれも、平安時代前期に相当する時期のもので、土師器破片を多く出土した。

SE1 の幅は約 1.3m と 1.2m を測り、掘方の深さは約 0.2m である。検出面での幅であることから、実際はさらに広いものと推測され、しっかりした溝である。位置関係をしっかり記録し、

どのくらいまで掘削が延びているのかを検討することで地割の方向など得られる情報は多い。

平成 16 年度に調査を行った、法元遺跡の調査地点でも同様の規模の SE が確認されており、出土遺物の時期も同じことから、続いている可能性もある。

5 地点においても遺構密度は高く、SH 群や細い SE を確認した。検出面から湧水があり、調査が困難であった。

いずれの地点でも遺構密度が高く、特に、平安時代前半の遺構が集中する点は、日向国府跡と同時期であることからも重要である。

B-6 地点：B-5 地点を北に行き、市道 1199 号から西側に入る里道である。遺構検出面は深く、約 0.9m である。SE2 条と SC1 基、SH を検出した。

SE1 は幅 1.2m 深さ約 0.2m のものが 1 条と近世以降の掘削と考えられるもの(SE2)が 1 条である。SC1 は長軸 1m を測り、深さは 0.2m ほどである。

遺物は少なく、時期を特定するのは難しい。

第 4 節　　上妻遺跡の調査

・調査区の概要

上妻遺跡は、寺崎遺跡・法元遺跡の東側に広がる遺跡である。遺跡の南部には、式内社である都萬神社が鎮座する。

今回、総延長 464.4m、総調査面積 399.64 ㎡を調査した。

・遺構と遺物(Fig.21～22)

平成 17 年度

6-1・4 地点:市道 311 号線上で、台地から下る路線である。4 地点では遺物包含層が検出できたが、造成時の客土であった。東側に下ると地形が落ちており、地層は残らないことから、部分的に掘削を行い、土層を確認するに留めた。路盤下は礫層である。遺構はなかった。

6-2・3 地点:都萬神社の北側にある枝線で、上層は削平されていたが、3 地点において、SH や SC を確認した。SC は 0.9×0.5m を測り、底面に礫を敷いていた。

D-1 地点:国道 219 号線から入る枝線で、8m ほどの調査であるが、SC を検出した。後世の撹乱が多く、遺構ははっきりしないが、地山は良好に残っていた。路盤と地山の間に遺物包含層がある。土師器破片、須恵器破片が多く出土した。

D-2 地点:都萬神社の南側にあたり、造成時に盛土されており、遺構・遺物は確認できなかった。

平成 18 年度

D-1・2 地点:多くの礫を含む土で盛土されており、その深さは 1.20m を測る。その下は褐色ローム層で、一部分アカホヤ火山灰層が遺存していた。遺構としては、SH らしきものを 1 基検出したのみである。遺物は 2 地点から土師器・須恵器・磁器等が出土している。

D-3・4 地点:盛土が厚いが、土器や瓦片を含んだ包含層が確認できる。しかし、その下は礫層及び

明黄褐色土となっており、かなり削平されたうえに盛土されたことが窺える。

遺物は土師器・須恵器・磁器・陶器・瓦片等が出土している。特に瓦は4地点に集中している。凸面の叩きには格子目叩きと縄目叩きとがあるが、圧倒的に格子目叩きが多い。格子目叩きも正格子目叩きと斜格子目叩きとがある。

平成19年度

D-1～4地点:1地点から水道管敷設時の掘方で撹乱を受け、調査範囲の約半分は撹乱を受けていた。2地点ではSEかと思われる掘方が2条検出されたが、検出面自体が礫層直上に堆積する層なので、かなり削平されており、掘方は浅い。性格を特定することは出来ない。

格子目叩き文が残る瓦破片が出土した。

昨年度や過去の確認調査において、奈良時代に遡る瓦が出土しており、寺院や官衙関連の遺構があると推測されている遺跡であることから、この周辺にも遺構が伸びている可能性が高くなった。

平成20年度

3-1～6地点:都万建設の敷地前から掘削した。1地点では、遺構検出面は深く、現地表面から約0.9～1mの深さで、小石を含む人工的整地層を確認した。その層に掘りこまれたSEと考えられる掘方を2条検出した。そのうち北側のSE1から、土師器破片が多く出土した。

この整地層と考えられる層は面的に広がりを見せるかは確認できない。調査地点南半分では層にしまりがなく、はっきりと認識できず、この層を除去するとアカホヤ火山灰層が検出できる。地表面から約1.2～1.3mを測る深さである。

2地点から4地点までは、用水路埋設時の撹乱で、すでに掘削され埋められており、埋土から遺物が出土するが、遺構や地山は残っていなかった。

2地点の起点においてSHを検出した。

5地点からは地山が残り、遺構が検出できる。検出面は深く、地表面から約1.2mでアカホヤ火山灰層の地山となる。

6地点ではSHとSEを検出した。SBを構成するほどのものではない。

3-7～8地点:3-2地点から東側の民家にぬける里道である。7地点では地表面から約0.9mで遺構を検出したが、西側にむかい地形はくだり、検出面は深くなる。

SHやSC、SEが検出された。一部、粘土が集中して出土する部分があり、SJ付のSAが所在する可能性があるが、はっきりした掘方もなく、平地式の建物の可能性がある。

8地点では、遺構検出面は地表面から約1mの深さである。SAの可能性がある掘方が検出された。掘方の深さは約0.2mである。他にSHが検出された。

出土遺物の一部に、格子目叩き文の古瓦があることから8世紀に上る遺構が所在する可能性がある。

第5節　法元遺跡の調査

・調査区の概要

法元遺跡は、寺崎遺跡の北側にあり、更に北には童子丸遺跡が位置する。

今回、総延長1760.7m、総調査面積1573.36㎡を調査した。

・遺構と遺物(Fig.23～Fig.35)

平成16年度

3-1～6地点

1～6地点は3区の南側調査区で、標高17.7m前後、東側には法元遺跡、西側には寺崎遺跡が所在する台地に挟まれた低地である。特に、西側台地上の寺崎遺跡には日向国府跡が所在する最重要地域であり、県教育委員会によって正殿及び脇殿等が確認されている。

3-1地点：現地表面より深さ1.30mを測る。路盤の下は4層に分層でき、1層のみがしまっており、2～4層は粒子が細かいものの、しまりがない。下層に行くほど粘質を帯び、時間が経つと湧水するため、長時間の調査は不可能である。底には砂や丸礫等が確認される。

遺物は、土師器が最も多く、その他、須恵器・磁器・陶器等が出土している。この中には、日向国府跡が造営された時期のものも含まれているようであるが、中世から近世のものも含まれている。なお、遺物は層毎に取り上げているが、一番下層からも新しい時期のものが出土することから、時期特定は困難と思われる。

3-4地点：現地表面より深さ1.23mを測る。堆積状況は3-1地点と同じで、旧河道の延長と思われる。

遺物は土師器・須恵器・陶磁器に加え、瓦が出土している。

3-6地点：3区の最南端の調査区である。ここでも路盤から下は4層に分層され、現地表面から深さ1.14mで礫層を検出。遺物は、土師器・須恵器・磁器・陶器等が出土している。

3-7～11地点

本調査区は、地形的に南側調査区よりも高く、標高は約20.8mで、その比高差3.1mを測る。調査は、アカホヤ火山灰層を検出面として遺構の確認を行った。

3-8地点：法元地区の中心交差点部分で、周辺には住宅が密集している。調査の結果、SAを2軒、SEを2条、SH等を検出した。この中で、東側のSA1は方形プランのもので、張出しを有しているものと思われる。地表面から検出面の深さ0.64m、検出面から底面の深さ0.27mを測る。西側のSA2は一辺だけで不明な点が多い。検出面からの深さ0.21mを測る。

遺物は土師器・須恵器が出土している。土師器埦は、時期は9世紀末～10世紀前半と推定される。

SEは2条検出しているが、SAを切った形で、平行している。SE1・SE2とも幅0.6～0.8m、深さ浅く0.04～0.08mを測る。時期は不明である。

3-9地点：SHを13基検出した。すべて円形プランで、径0.30～0.60m、検出面からの深さ0.10～0.58mを測る。

遺物は、土師器・須恵器等が出土しているが、共伴していないため時期は不明である。SBの存在は想定されるが、狭い範囲の調査のため、規模等を特定するには至らなかった。

3-10 地点：SA を 2 軒・SH・SC 等を検出した。SA1・SA2 両方とも一辺のみで断定はできないが、SA の可能性が高い。この遺構から土師器埦や甑の把手等が出土している。時期は 9 世紀頃と思われる。SC 及び SH については、時期は不明である。

3-11 地点：SE を 1 条検出した。東西方向に延び、幅 1.4m、検出面からの深さ 0.32mを測る。

3-12～14 地点

3 区の北側調査区で、調査区の南西 11mには西都原古墳群の支群である第 260 号墳と東 30mには第 259 号墳が所在している。いずれも円墳であるが、第 259 号墳の方はかなり削平されているようで、小さくなっている。

3-12 地点：消失円墳の裾部に残る葺石が確認された。葺石は長さ 20～30ｃｍ・厚さ 10ｃｍの大きい石を根石にして、その上に長さ 0.1～0.2m・厚さ 0.03～0.08mの平らな石を水平に突き刺すように丁寧に積み上げている。残念ながら、葺石の積み上げは、高さ 0.4m程しか確認できず、その上部分は削平されている。

SO は、そこに当たる部分がかなり撹乱を受けていることから、確認することはできなかった。

遺物は、土師器・須恵器・磁器・陶器等が出土している。この中で、須恵器は甕形土器や埦、つまみが付いた蓋坏等が出土している。

3-14 地点：本調査地点でも消失円墳の葺石が確認された。3-12 地点の反対側部分で、それを復元すると径 26.2mの墳丘が存在していたことになる。葺石は、全体的に 3-12 地点のものと比較して小さく、長さ 0.08～0.1m・厚さ 0.03～0.08mで、根石も確認できなかった。積み上げ方も雑であった。

SO は、本調査地点では確認できた。幅 3.3m・深さ 0.33mで、SO までを含めて復元すると、径 32.8mの円墳となる。なお、これを基に図面上で復元すると、本調査地点の東側に所在する西都原古墳群第 259 号墳は、この消失円墳が小さくなって残っている古墳である可能性が高いことが判明した。

遺物は、土師器・須恵器等が出土しているが、須恵器がその他と比較してわりと多い。甕形土器・蓋坏・横瓶・埦等が出土している。しかし、これらは、3-12 地点のものも含めて 8 世紀～9 世紀にかけてのものが主体で、消失円墳の時期を特定する遺物は、少なく、古墳時代に遡る遺物は、6 世紀後半の土師器壺である。

これまで、西都原古墳群第 259 号墳や 5 区周辺の古墳についてトレンチ調査を行ったが、関連した遺構や遺物が検出されなかったため、不明な点が多く、時期も特定できなかった。この消失円墳の検出は、周辺古墳を解明する手掛かりになるかもしれないもので、注目される。

4-1～3 地点：4 区は、3 区（市道 301 号線）の北側と南側調査区に挟まれた中央部分で、調査地点は 4-1 地点から 31 地点の総計 31 地点ある、最も長い区間である。

地形的には、両サイドを台地に挟まれた低地の 1 地点（標高 17.7m前後）から、徐々に市道を北に登りながら進み、中央部の 15 地点から周囲と同じ高さ（標高 19.9m前後）になり、31 地点（標高 20.8m前後）に至っている。その間の比高差 3.1mを測る。

3 区の 1～6 地点で確認された旧川道の延長にあたる部分で、ここでも土が 4 層に堆積している。その深さは約 1.2mを測る。

遺物は、土師器・須恵器・磁器・陶器・瓦等が出土している。4-2 地点からは、包含層からであるが、円面硯破片が出土した。

4-4～16 地点

調査の結果、本調査区は周辺も含めかなり地形的に削平されているようであり、4 地点では路盤を剥ぐと、すぐに礫層が検出され、7 地点ではアカホヤ火山灰層の 4～5 層下で検出される黄褐色ローム層が確認され、それが、17 地点あたりまで続くようである。しかし、それはかなり前からの削平であり、16 地点ではその黄褐色ローム層に遺構が掘り込まれている。

4-4 地点：ここでは、路盤を剥ぐとすぐに礫層が検出される。よって、旧河道がここで東か西に曲がっているものと推定されるが、東は地形的に考えられないことから、西の方向であると思われる。地表面から礫層までの深さは 0.42mを測る。遺物は出土しなかった。

4-6 地点：SE を 1 条と SH を検出した。SE は、幅 1.10mで、検出面からの深さ 0.74mを測る。

遺物は、土師器・須恵器・瓦等が出土している。

4-7・8 地点：路盤を剥ぐと撹乱埋土となり、そして、検出面の明黄褐色ローム層（自然層）が現れる。その深さは 0.64mを測る。その明黄褐色ローム層にて遺構を検出したが、あまりにも不整形で、用途等も不明であることから、SZ として取り扱った。

遺物は、土師器・陶器・磁器・瓦等が出土している。

4-16 地点：SE を 1 条と SH を検出した。SE1 は、幅 1.10mで、検出面からの深さ 0.74mを測る。

遺物は、土師器・須恵器・瓦等が出土している。

4-18～31 地点

本調査区は、標高 19.9m前後で、周囲には住宅が密集している地域である。

本調査区周辺からはアカホヤ火山灰層が遺存しているのが確認できたことから、それを検出面として調査を進めた。

調査の結果、SA が多数検出され、さらに、これまでの調査でも周辺地域から多数の SA が確認されていることから、周辺一帯には大集落跡の存在が想定される。

4-17 地点：SE を 1 条と SH を検出した。SE1 は、南北に延び、幅 0.75m、検出面からの深さ 0.30mを測る。遺物は、土師器・須恵器・石錘が出土しているが、共伴しないため、時期等については不明である。

4-18・19 地点：SA を 1 軒・SE を 2 条・SH を 9 基検出した。SE は、いずれも南北に延びているが、SE1 が幅 1.15m、検出面からの深さ 0.30m、SE2 が幅 0.85m、検出面からの深さ 0.32mを測る。

遺物は、土師器・須恵器・陶器等が出土している。時期等については特定できない。

4-20 地点：20 地点は 3 区のほぼ中央部に位置している。標高 19.9m前後で、周辺には住宅が密集している。20 地点周辺はアカホヤ火山灰層が遺存しており、その検出面の深さは 0.7m前後を測る。基本的にはコンクリート及びクラッシャーを剥ぐと、非常に硬くしまった黒色土が現れ、その下が少ししまりのある遺物を包含した黒色土となり、そして、アカホヤ火山灰層となっている。

遺構としては、SA を 1 軒、SH を 8 基検出した。SA1 は方形プランのもので、SJ を有するタイプのものである。検出しているのは、北辺の SJ 部分と東辺の一部分のみで規模については判断がつきにくい。

検出面はアカホヤ火山灰層で、検出面からの深さは 0.20mを計る。現道路面から検出面の深さは 0.65mで、主柱等は検出できなかった。

SJ は上から圧迫を受け、押し潰されたような状況で検出された。検出範囲は南北 0.38×東西 0.35

mで、高さは0.31mである。また、SJは灰白色粘質土で造られ、底面はかなり火を受けたようで赤褐色に変色して、凹レンズ状に窪んでいる。その底面と灰白色粘質土に挟まれて、炭化物と焼土を大量に含んだ層が確認できる。

遺物は土師器が多く、その他須恵器・磁器・陶器・瓦等が出土している。

遺物の時期は古墳時代･奈良時代・平安時代･室町時代と複数にわたっている。

4-22 地点：SAを1軒・SEを1条検出した。SA1は、方形プランのもので、北辺と南辺の一部を検出している。それを基に復元すると一辺5.9mのもので、検出面から床面の深さ0.23mを測る。床面は平坦であったが、主柱跡は確認できなかった。

SE1は、東西に延び、幅1.05m、検出面からの深さ0.22mで、SAを切る形で検出されている。

遺物は、土師器・布痕土器・陶器等が出土している。SA内からは一括であるが、木の葉痕がある土師器坏や土師器高坏等が出土しており、7世紀代のSAと推定される。SEについては、陶器等の出土状況から近世頃のものと思われる。

4-23・24 地点：SAを2軒・SEを2条・SHを検出した。SAは重複していないが、それぞれのSAをSEが切っている。SA1・SA2いずれも方形プランのもので、北東隅を検出しているが、規模は特定できなかった。SA1は、検出面から床面の深さ0.31m、SA2は、検出面から床面の深さ0.10mを測る。主柱跡は確認できなかった。

SEは、南北と東西方向の2条で、幅1.1～1.15mで、検出面からの深さ0.35～0.44mを測る。

遺物は、土師器・須恵器等が出土している。包含層の遺物が含まれ、複数時期のものが出土した。

SA1は、出土遺物から6世紀後半と考えられる。

4-25 地点：SAを2軒・SEを1条検出した。SAは重複しており、さらに、それをSEが切っている。SA1は南西隅､SA2は北西隅と南辺を検出している｡SA1は､SJを有する方形プランのものであるが、規模は特定できなかった。検出面から床面の深さ0.31mを測る。SA2は、一辺2.4mの方形プランで、検出面から床面からの深さ0.34mを測る。いずれのSAからも主柱跡は確認できなかった。

SEは、南北方向に延び、幅0.70m、検出面からの深さ0.40mを測る。

遺物は、土師器・須恵器・陶器・石錘等が出土している。

4-26 地点：SAを2軒･SEを1条検出した。南辺の一部分と北西隅部分と思われる。検出面から床面までの深さは、SA1が0.26m、SA2が0.11mを測る。主柱穴跡は確認できなかった。

遺物は、土師器・須恵器・瓦・石錘等が出土しているが小片である。

4-27 地点：SAを1軒・SCを1基検出した。SA1は、方形プランで、SJを有するタイプのものである。検出したのは北辺と南辺の一部分で、それを基に復元すると一辺 5.2mの規模を有していることになる｡SJは本体の灰白色粘質土及び焼土を検出した｡検出面から床面までの深さ0.14mを測り、主柱穴跡は確認することはできなかった。

遺物は、土師器・須恵器・石錘等が出土している。この中で、土師器ついては、その他の地点のSAと比較して圧倒的に小皿が多い。いずれもヘラ切り底のものであるが、これがこのSAに共伴するものであれば、時期は13世紀以降に比定される。

しかし、図化に耐えうる資料ではないが、TK217型式併行期の須恵器坏や土師器片もSA内から一括資料として出土した。このことをふまえると、この遺物がSAの時期を示す可能性が高い。

上層に中世の遺物包含層が所在するものと考えたい。

4-28・29 地点：28 地点から SC・SH、29 地点から SH を検出した。SC は、長軸 1.0m・短軸 0.7mの楕円形プランで検出面からの深さ 0.54mを測る。SH は、円形で、径 0.3m～0.5m、検出面からの深さ 0.21～0.47mを測る。遺物は、土師器・須恵器・磁器等が出土している。

4-30 地点：SC を 1 基・SE を 1 条検出した。SC は、長軸 1.0m・短軸 0.55mの楕円形プランで検出面からの深さ 0.38mを測る。SE は、東西方向に延び、幅 1.1m、検出面からの深さ 0.14mを測る。

遺物は、土師器・須恵器・磁器・陶器・石錘等が出土している。

4-31 地点：SE を 3 条検出した。東西方向が 2 条、南北方向が 1 条である。幅 0.7～1.1m、検出面からの深さ 0.07～0.57mを測る。

遺物は、土師器・須恵器・磁器・瓦等が出土している。瓦は格子目タタキで、土師器については、破片が多く時期を特定できない。

C-1 地点:遺構は、SA1 で SP をもつ。それに伴い土師器甕も出土した。SP を中心に約 0.4m に焼土が広がる。掘方の検出面からの深さは約 0.3m である。SA 内の埋土からは土師器破片や須恵器破片が多く出土し、その特徴から、7 世紀後半に比定される。

また SA1 とは別に方形掘方の SH を 1 基確認した。半裁すると柱を抜き取った跡に粘土を詰めており、その中に礫があったので根石と考えた。掘方は一辺約 0.85m で検出面からの深さは 0.35m である。

C-2～4 地点:この地点は 30m ほどの間、地山であるアカホヤ火山灰層が検出されず、SA が数軒切り合っているものと考えられる。焼土と黄褐色の粘土が偏って検出されるプランがあり、SJ と推定した。約 0.8m の深さまで下げると黒色土中にアカホヤ塊と褐色土が混じる遺物包含層が堆積し、約 0.25m 下げると硬化面または黒褐色の地山に至り、SH が検出できる。中にはしっかりした深さをもつ掘方があり、柱穴と推定できるものがある。切り合い関係を捉えることはできなかったため、SA の規模は推定できない。

土師器や須恵器破片が多く出土した。

C-5 地点:ここではアカホヤ火山灰層の地山が検出でき、4 地点から続く SA の掘方を確認できた。SA1 埋土中からは、須恵器や土師器が多量出土し、共伴関係を押さえることができる。SA1 掘方の検出面から床までの深さは約 0.4m を測る。

埋土中には土師器の甕、鉢、坏、須恵器の大甕、坏、ハソウなどの土器が床の上から出土し、遺物の特徴から、7 世紀前半段階のものと比定できる。

C-6 地点:宅地となる以前は畑地であったことから、土が盛られており、旧地表面が残っていた。SH を 3 基検出した。1 基は掘方もしっかりしており、埋土に黄褐色の粘土が混じり、SB を構成する柱穴である可能性が高い。検出面は現地表から約 1m の深さである。遺物は土師器、須恵器の破片が出土した。

C-7 地点:SE や SC、SZ を検出した。遺構に伴い、土師器破片が出土した。

遺構検出面は約 0.8m の深さである。遺構の性格がはっきりする例はなく、明確ではないが、土師器破片等の遺物が出土する。

C-8 地点:7 地点から続く SC から、土師器甕が出土した。廃棄用である可能性もある。6 世紀後半に比定できる。他に SH 群を検出した。

C-9 地点:検出面から約 0.2m の深さをもつ掘方と SH を検出した。SA の可能性があるがはっきりしない。

C-10 地点:検出面から約 0.3m の深さをもつ掘方を検出した。遺構の性格ははっきりしないが SH を伴う。地形が傾斜しながら北側に落ちていくので、遺構を検出できる地層は途中で途切れる。

C-11 地点:SA の可能性がある掘方を検出した。掘方は 3 基で、全体像は不明であるが、検出面からの深さは約 0.1m の浅いものである。埋土やその上層は遺物を多く含む。平安時代以降の包含層が堆積している。その他、SC と考えられる掘方や SH も検出した。

C-12 地点:SE2 条を検出した。埋土が異質であり、時期の違いを示すものか。埋土中より、須恵器片などの遺物が出土した。

C-13 地点:SH を検出した。SH のうち 3 基の掘方は等間隔で並び、検出面からの深さも約 0.5m で均質なため SB を構成すると考えた。

C-14～15 地点:SH と SE2 条を検出した。SE は幅 0.4m で深さ約 0.3m である。その他 SH と 15 地点に続く SA の掘方を検出した。15 地点では 14 地点からの SA と SZ が確認された。SA1 には外側に取り付く SJ があった。SJ の粘土を除去すると下から径 0.4m、深さ 0.3m の掘方を検出した。遺物も多く出土し、土師器埦や須恵器破片、石錘等の遺物が出土した。

SA1・2 は土師器から 7 世紀前半と推定する。他に上層の包含層から混入した遺物もある。

C-16 地点:3 条の SE を検出した。幅は 0.7m～1.3m とそれぞれ違い、深さは約 0.2m でほぼ 3 条とも同じである。石錘が出土した。

C-17 地点:SA が切りあった形か段差のある構造のものを検出した。掘方は 18 地点まで続く。深さは検出面から約 0.3m である。掘方の外側に沿い、SH が検出されたので、SA に伴うのであれば、平地式住居の可能性もある。瓦の破片や須恵器、石錘、鉄滓が出土した。

C-18 地点:17 地点から続く掘方と、別に SC を検出した。調査範囲が狭いため遺構の全体像がわからないが、SC 内からは土師器坏、埦が出土した。良好な共伴資料になる。17 地点から続く掘方は二段の落ちになっており、SA が切り合っている可能性が高い。

須恵器破片、土師器破片、瓦破片が多く出土した。遺物の特徴から 9 世紀後半から 10 世紀はじめ頃に位置づけられる。

C-19～25 地点:11～18 地点と直行する市道 1199 号で、水道本管が敷設されており地層の残存状況は悪い。11～18 地点と比べると極端に遺構の密度や遺物出土量も少ない。22～23 地点にかけて SE と SH、SZ が検出できた。

C-26～36 地点:調査区は市道 305 号になる。調査区に沿い、水道管が敷設されており、大きく撹乱を受ける。埋設管が約 1.3m の深さにあるため、遺構、遺物の密度も低かった。

29～30 地点にかけて水道管の埋設が調査区からそれたことから、しっかりした掘方の SE を路線に沿って検出した。

その他は SH や部分的に残る SE 程度で、遺物の出土量も少なかった。全体的に削平されている。

D-6～9 地点

本調査区は、市道 309 号で、その先は国道 219 号と合流する。地形的には市道 309 号よりも一段高くなっている。

D-6 地点：D 区は、遺跡で分けると 1～5 地点が寺崎遺跡、6～18 地点が法元遺跡に含まれる。

本調査区の地形は、1・2 地点が両サイドを台地に挟まれた低地（標高 17.6m前後）で、幅が狭い袋小路、3～5 地点は、その低地から南西に日向国府跡が所在する台地上まで登る路線、6～9 地点が

市道 301 号よりも一段高く（標高 20.0m）国道 219 号まで延びた市道 309 号、10～17・19 地点が宅地内に延びた路線、18 地点が市道 307 号から北に延びた幅員が狭い袋小路の私道である。

D-6 地点からは、SE を 1 条検出している。南北に延びており、幅 0.40m、深さ 0.18mを測る。

遺物は、土師器が出土しているが、共伴していないため、時期は不明である。

D-9 地点：SH を検出した。円形で、径 0.35m、検出面からの深さ 0.50mを測る。

遺物は、土師器が出土しているが、共伴していないため時期は不明である。

D-10～17 地点

本調査区は市道 307 号で、周辺には住宅が密集し、幅員も狭い。標高は 20.4m前後、現地表面から検出面の深さは 0.62mで、検出面はアカホヤ火山灰層である。

D-11・12 地点：SC を 1 基・SH・SE を 1 条検出した。SE1 は南北に延びるもので、幅 0.85～1.20mで、検出面からの深さ 0.11mを測る。

遺物は、土師器・須恵器等が出土している。

D-13 地点：SE を 1 条検出した。幅 0.70m前後で、検出面からの深さ 0.25mを測る。

遺物は、土師器・須恵器・瓦・石錘等が出土している。

D-14・15 地点：14・15 地点一番北側の路線の中央部で、標高は約 20.4mである。路面からの検出面の深さは 0.62mで、検出面はアカホヤ火山灰層である。

調査の結果、SA を 2 軒、SE を 1 条、SH を 3 基確認できた。SA はいずれも重複しているが、切り合い関係を明確にすることはできなかった。また、SA1 は南辺と西辺、SA2 は西辺、SA3 は南辺の一部分しか確認できない状態であるため、規模等についても現状では把握することが不可能であった。検出面から床面の深さは 0.09m～0.24mで、床面は平坦である。主柱は検出できなかった。

SE1 は、幅は不明であるが、深さは 0.13～0.64mで、18 地点まで延びており、その現存長 17.5mを測る。

遺物は土師器をはじめ須恵器・磁器等が出土している。

D-16・17 地点：SE が検出されたが、15 地点から延びてきているものである。

遺物は、土師器・須恵器・磁器・陶器・石錘等が出土している。

D-18 地点：本調査区は、D-4 地点から北へ延びる袋小路の私道で、地表面から検出面の深さは 1.02mを測る。ここでは、アカホヤ火山灰層は確認できなかった。調査の結果、SE を 1 条検出した。南北に延びるもので、幅は半分が対象外のため不明、検出面からの深さ 0.26mを測る。

遺物は、土師器・須恵器・磁器等が出土している。

平成 17 年度

3-1･2 地点:検出面は黄褐色土で地表下 0.75mを測る。4 層に分層でき、1～3 層は遺物包含層で、土器の小片が混入している。SH5 基と SE 1 条を検出した。遺物は、SH から土師器・須恵器・瓦等が出土している。また、遺物包含層から、土師器・須恵器・陶磁器・瓦等が出土している。

3-3･4 地点:アカホヤ火山灰層を確認することができたが、4 地点から北に行くに従って深くなっている。その深さは 1.45～1.65mを測り、もともとはこの周辺が谷状に落ち込んだ地形であったものと思われる。3 地点から SH を検出した。遺物は、SH から土師器・須恵器等が出土している。また、遺物包含層から、土師器・須恵器・陶磁器等が出土している。

3-6 地点:SA2 軒を検出した。SA1 は北辺と東辺で、東辺壁側には土師器壺が集中して出土した。SA2 は北東隅部分で、SJ（灰白色粘質土）を有している。SJ の範囲は東西 0.90m×南北 0.75m・高さ 0.07mを測る。遺物は、SA2 内から土師器を主体に須恵器がわずかに出土している。中には、丁寧なヘラ磨き調整で両面が調整された丹塗り土師器台付鉢や椀等も含まれている。時期は 7 世紀後半に比定される。その他、土師器・須恵器・陶磁器等が出土している。

3-7 地点:検出面はアカホヤ火山灰層で、地表下 1.35mを測る。ここでは平面プランは確認することができなかったが、SP が出土したことから、SA が遺存しているものと推定される。土層で観察すると、南辺部分は確認でき、SP を中心とすれは一辺約 6.60mの SA となる。SP の周辺からは焼土を検出した。遺物は、量的には少ないが、土師器・須恵器・陶磁器片が出土した。この中で、SA からは口縁部が短く、わずかに外反した土師器壺が押し潰された状態で出土した。

5-1～6 地点:1 地点は、浅いところに水管が通っており、調査不可能であり、2 地点も同様なことから、1･2 地点は来年度下水道工事に合わせて調査することとなった。3～6 地点については、検出面がわりと浅く、水管がサイドに片寄っていることから調査可能であった。

調査の結果、アカホヤ火山灰層は遺存していなかったものの、6 地点にて SC を検出した。

遺物は、土師器・須恵器・陶磁器等が出土している。

5-6 地点:検出面は褐色土層で、地表下 0.40mを測る。本対象区のいちばん北側にあたる。SC1 のプランは方形あるいは長方形で、北東隅部分を検出した。検出面からの深さは約 0.60mを測る。共伴遺物はなく、時期は不明である。一括遺物として、土師器・須恵器・陶磁器等が出土している。

A-4～5 地点:4 地点で SC1 基、SH1 、SE1 条、SZ1 基を検出した。特に SE1 は幅約 1.3m、深さ 55 cmを測る。須恵器や土師器破片が出土した。8 世紀後半と考えられる。

5 地点では SH 群と SA を 1 軒検出した。SA1 の掘方ははっきりしなかったが、中央部の床面に SP が検出できたため、土層観察により SA と確認できた。SP の甕から 6 世紀末～7 世紀前半の時期を推定する。

C-1～12 地点

市道 301 号内 3 区北側から市道 291 号と合流するまでで、地形的には 1 地点から緩やかな上り傾斜で 12 地点まで至っている。標高は 1 地点で 21.60m、10 地点で 22.05mである。

調査の結果、2 地点から 9 地点まで 1 地点に 2～3 軒、多い地点では 4 軒（4 地点･5 地点）もの SA が重複しているのを確認した。その総数は 16 軒にも及び、SJ を有するタイプのもの 4 軒、SP を有するタイプのもの 1 軒を検出している。平面形はほとんどが方形を呈すと思われる。

C-2 地点:検出面はアカホヤ火山灰層で、地表下 0.88mを測る。SA2 軒を検出したが、SA1 は北西隅部分で、検出面から床面までの深さ 0.11mを測る。SA2 は、東辺で、検出面からの深さ 0.18mを測る。いずれからも主柱を検出することはできなかった。遺物は土師器が主体で、その他須恵器が出土している。土師器は甕・壺が多いが、低く短い脚部から内湾しながら立ち上がり口縁部に至っている高坏や椀等があり、いずれも丁寧なヘラ磨き調整である。

C-3 地点:検出面はアカホヤ火山灰層で、地表下 0.64mを測る。SA2 軒を検出した。SA1 は、北辺と東辺で、北辺には SJ（灰白色粘質土）を有している。SJ の検出範囲は東西 0.40m×南北 0.65m・高さ 0.40mを測る。SA2 は、南辺で北辺は 4 地点で確認している。一辺約 5.0mである。いずれからも主柱は検出することができなかった。遺物は土師器を主体に、須恵器等が出土している。土師

器は甕・壺が多いが、高坏や鉢等が含まれている。共伴遺物の特徴から6世紀後半に比定される。

C-4・5地点：SAを5軒検出した。4地点のSA1は、西辺のみで東辺は確認できなかった。SA2は南西隅部分で、検出面から床面までの深さ0.49mを測る。SA3は、北東隅部分でSA2と隣接している。検出面から床面までの深さ0.54mを測る。

5地点のSA1は東辺のみで、検出面からの深さ0.10を測る。SA2は北辺のみで、SJを有している。検出面から床面までの深さ0.13mを測る。SJの検出範囲は東西0.70m×南北0.70mを測る。また、灰白色粘質土は火を受け赤褐色に変色している。SA2は、南辺で北辺は6地点で確認している。北辺にはSJを有しており、一辺2.50mで小さなSAである。検出面から床面までの深さはかなり浅く0.07mを測る。SJの検出範囲は東西0.40m×南北0.30mを測る。また、灰白色粘質土は火を受け赤褐色に変色し、その下には炭化物と焼土を多量に含んだ層が確認できる。いずれからも主柱を検出することはできなかった。

遺物は土師器を主体に須恵器等が出土している。共伴遺物の特徴から6世紀後半～7世紀前半に比定される。須恵器の中には、時期が特定できるものとして4地点SA1から出土した坏身があるが、それを陶邑窯跡群を中心とした編年と対比すると陶邑ＴＫ43式併行期である。

C-6地点：SAを2軒とSHを5個検出した。SA1は、北辺でSJ（灰白色粘質土）を有している。C-5地点で南辺と思われるものを確認しているが、それを南辺とするとかなり東西の広いSAとなるため、重複している可能性が高い。SA2は南辺で、C-7地点で西辺を確認している。いずれも、検出面から床面までの深さ0.10mを測り、主柱を検出することはできなかった。

遺物は土師器を主体に須恵器等が出土している。土師器には甕・壺をはじめ鉢や埦等が含まれている。共伴遺物の特徴から7世紀に比定される。

C-7地点：SAを2軒検出した。SA1は、南辺と北辺を検出したが、その中央部にSJ（灰白色粘質土）があることから2つのSAが重複していると思われる。検出面から床面までの深さ0.10mを測る。SA2は北辺のみで、検出面から床面までの深さ0.04mを測る。SJは遺存状態及び方向等からSA1のものと思われる。主柱を検出することはできなかった。

遺物は土師器を主体に須恵器等が出土している。土師器には甕・壺をはじめ鉢や埦等が含まれている。SA1は遺物の特徴から7世紀後半に比定される。

C-8・9地点：検出面はアカホヤ火山灰層（8地点）及び褐色土（9地点）で、9地点からは検出面がかなり深くなり地表下1.22mを測る。8地点のSA1は、南辺のみであるがはっきりしない。その中央部と思われるところにSPを検出した。掘方もしっかりしており、焼土もSPの周囲から検出した。SA2は、東辺のみで9地点まで延びている。検出面から床面までの深さはかなり浅く0.10mを測る。いずれからも主柱は検出することができなかった。遺物は、土師器を主体に須恵器等が出土している。時期は7世紀前半に比定される。

C-13～16地点

県営住宅東側の市道301号から北に延びる里道で、地形的には平坦、標高21.2m前後である。

調査の結果、SA1軒とSH3基を検出した。

C-14地点：検出面はアカホヤ火山灰層で、地表下1.15mを測る。SHを検出したが、円形と長方形で、円形は径0.30m、検出面からの深さ0.22m、長方形は長軸0.30m・短軸0.22m、検出面からの深さ0.29mを測る。遺物は土師器・須恵器等が出土しているが、いずれも包含層の一括である。

C-16 地点:検出面はアカホヤ火山灰層で、地表下 1.05mを測る。SA を検出したが、北辺のみで南辺を確認することはできなかった。検出面からの深さ 0.20mを測る。遺物は土師器等を出土したが、量的に少なく、時期を特定するのは難しい。

C-17～26 地点:市道 309 号の法元簡易郵便局から北に延びる市道 304 号で、地形的には平坦で、標高 20.7m前後である。両サイドに水管が埋設されており苦慮した。

C-18・19 地点:検出面はアカホヤ火山灰層で、地表下 0.76mを測る。SA は北辺と南辺で、検出面からの深さ 0.04mを測る。一辺約 3.80mの方形プランと推定される。SE は 18 地点から始まり 19 地点まで確認した。幅 0.45m、現存長 8.00mを測る。遺物は土師器・須恵器等が出土しているが、共伴しておらず、時期は不明である。

C-23 地点:SP が出土したが、残念なことに SA のプランを検出することはできなかった。焼土を SP の周囲ではなく、少し離れた南側で確認した。時期は 6 世紀末に比定される。

C-27～32 地点:市道 305 号の南側部分で、地形的には平坦で、標高 19.90m前後である。

調査の結果、アカホヤ火山灰層は遺存しておらず、遺構は検出することができなかった。遺物は、一括として土師器・陶磁器等がわずかに出土している。

C-33～38 地点:市道 308 号で、地形的には平坦である。調査の結果、アカホヤ火山灰層は遺存しておらず、遺構は検出することができなかった。遺物は、一括として土師器・須恵器等がわずかに出土している。

C-39～42 地点:市道 305 号の No10 マンホール設置点から東に延びる私道で、地形的には平坦で、標高 20.60m前後である。

C-42 地点:検出面はアカホヤ火山灰層で、地表下 0.93mを測る。円形 SC は径 0.60m、検出面からの深さ 0.60m、方形 SC は一辺 0.90m、検出面からの深さ 0.25mを測る。遺物は土師器・須恵器が出土しているが、共伴しておらず、時期は不明である。

C-43・44 地点:調査の結果、アカホヤ火山灰層は遺存していなかったが、SE1 条と SH を検出した。SE1 は底面に近い部分で、現存長約 9.0m、深さは 0.08mを測る。SH は、すべて円形で、径 0.25～0.40m、深さは 0.22～0.36mを測る。時期は不明である。

C-45～47 地点:周辺調査区からははっきりした遺構が確認できなかったが、C-45 地点においては SA が 3 軒検出された。SA2・3 は切合った状態で検出した。SA1 は幅 3.8m、深さ 0.4m の深い掘り方である。土師器・須恵器・石錘等が埋土の中から出土した。8 世紀後半の須恵器埦や甑などの器種もある。SA1 の埋土からは、黒色土器や緑釉陶器の埦と皿破片も出土した。上層に遺物包含層があるため、即座に SA1 に帰属するか不明で、時期を決めがたい。

第 6 節　　童子丸遺跡の調査

・調査区の概要

童子丸遺跡は、法元遺跡の北側に広がり、中間台地北側縁辺部に位置する。

今回、総延長 2798.2m、総調査面積 2450.8 ㎡を調査した。

・遺構と遺物

平成 16 年度

1-1～5 地点:調査区からは SE や、不整形な SC を検出した。調査区内では最も広い路線であることから、路盤も厚い。しかし、1-1～3 地点においては過去に畑地として利用された履歴があり、耕作土として盛土がなされていたことから、路盤の下に遺物包含層や、地山が残っていた。遺構としては認識できなかったが、黒色土中にアカホヤ火山灰層や、褐色ロームの塊が混じる層があり、遺物が多く包含されていた。土師器、須恵器、瓦、陶磁器等であり、広い面積で調査すると、遺構として検出できる可能性がある。1-1 地点に関しては、現地表面より 1m を超えて掘削しても地山面に当たらず、地形が落ちているか、何らかの遺構がかかっている可能性が高い。

1-4 地点では路盤の下は礫層のみで旧地形は丘陵のように高まっていたらしく地形の起伏が激しかったものと考えられる。遺構、遺物は残っていなかった。

1-5 地点のみ明確な遺構が検出できた。SE と考えられ、調査区を横断していた。

1-6～10 地点:当調査区では SA の可能性がある遺構を検出した。土師器破片や須恵器破片が出土した。他に SE を検出し、遺物は古墳時代後期～近世にかけて出土した。

1-6 地点:調査区隅に土師器高坏をはじめとした破片を伴う SZ を検出した。検出面からの SZ の深さは約 20cm である。

1-7 地点:1 区では最も遺構が検出された地点で、調査区全体にわたり遺構、遺物がある。遺構を検出した深さは現地表面から約 1m で、SA が 2 軒と SE、SH が調査区全面に検出できた。

SA1 は 1-8 地点に続き、6 世紀後半段階に位置付けられる須恵器が出土する。SA2 は調査区内に収まり、約 5m の掘方になる。出土遺物から 7 世紀前半に位置づけられる。

1-8 地点:7 地点から続く SA1 の掘方を検出し、掘方間は 6.5m を測る。遺構検出面は現地表面から約 1m の深さで、アカホヤ火山灰層にあたる。路盤が厚く、約 0.7m もある。

遺物は掘方の隅に固まって出土し、7 地点の遺物群に続く。出土した遺物の中には須恵器の短脚高坏がある。他は土師器の破片である。

1-9 地点:遺構は 2 面あり、上層で SE を検出し、その下層でも性格ははっきりしない SZ を検出した。遺構検出面は現地表面から約 0.8m の深さと約 1m の深さに分かれ、下層はアカホヤ火山灰層の上面になる。上層の遺構面の上には焼土と考えられる層が一面に堆積していた。 他の地点と同じく路盤が厚く敷設されているが、旧地表面が深いといった特徴がある。

1-10 地点:この地点から、地形が急に変化して、丘陵状に高まっていたと考えられ路盤の下は一部地層が残っているだけで、ほとんどが礫層になる。そのため、遺構、遺物はなかった。

2-1～2 地点:この調査区間は、長徳寺と民家の間を抜ける細い市道 288 号である。長徳寺の境内には、中世期に当地で活躍した伊東氏が残した墓石である石塔(伊東塔)が残っており、周辺に中世期の遺物散布地があることから、遺構の所在が予想されたが、宅地造成時に旧地形が削平されており、人の生活痕跡を残す文化層自体が残っていなかった。

2-3～9 地点: この調査区間は道路敷設時に削平を受けていた。過去周囲に SA が確認された畑があるが、そこから約 2m 標高が低い。黒色土層、アカホヤ火山灰層は残存しておらず、褐色土、黄褐色土の下は礫層である。出土遺物は、2 - 5、7 地点の SH、2 - 8、9 地点において検出された SE に伴う程度で、他は包含層内からの出土であった。

2-8・9 地点:8 地点から 9 地点にかけて SE が続いており、わずかに遺物が出土する。
SE は調査区内では納まらず、さらに南側にかけて伸びる。掘方は検出面から約 0.2m である。

2-9 地点には SE に沿って、埋土の異なる掘方があり、土師器破片が多く出土する。

埋土は黒色粘質土、掘方の深さは 0.3m 程で、調査区外に向かって広がっており、何らかの遺構が所在するものと考えられる。周辺住民の話によると付近に塚を祭った祠があったことから、消失した古墳の周溝などが可能性として考えられるが、今回の調査でははっきりしない。

2-10～13 地点:調査区は 16-2-1 地点から北側に延長した箇所である。

前回の調査区と同じく現状は市道であり、水道管が敷設される際に、掘削を受けて大きく撹乱されていたが、11、12 地点のみ水道管路が逸れて地層が残っていた。簡易的な舗装で、砕石がほとんど敷設されていなかったため、地層はよく残っており、基本層序は黒褐色土、黒色土、アカホヤ火山灰層、黒褐色ローム層といった堆積を示す。

2-13 地点は、地形が宅地造成の際に削平されたか、もともと地形が下がる方向で変化していたのか不明であるが、2-1 地点と同じく、文化層は残っておらず、路盤の下はすぐに礫層となる。ここが地形変換地点となる。

2-11 地点:調査区内から水道管の埋設が逸れて、SE2 条と SH、それに伴い須恵器、土師器の破片が数点出土した。SE は幅 2.1m、検出面より約 0.38m の深さで、片側は二段の掘方になる。調査路線に直交する形で検出された。黒褐色の硬質ローム層に掘り込まれる。

2-12 地点:水道管埋設時の撹乱があるが、地山との関係から SA と考えられる掘方を検出した。

掘方はアカホヤ火山灰層上面で検出し、検出面から約 0.19m の深さである。対応する立ち上がりは約 5m で検出したことから一辺約 5m の掘方であると推定できる。検出面で約 1/2 を水道管の掘方で撹乱されているため部分的であるが、アカホヤ火山灰層の残りと埋土を形成する黒色土の埋土状況から、SA と考えられる。掘方内からは、土師器の甕破片と、須恵器破片が出土した。7 世紀後半に位置づけられる。

B-1～5 地点:市道 291 号より北に入る袋小路で約 54m である。1、2 地点では遺物包含層のみで遺構はなかったが、3～5 地点にかけては SE2 条と SA と考えられる掘方を検出した。

B-3 地点:過去に畑地として利用されていたため、耕作土が旧地表の上に堆積しており、いずれも現地表面から約 0.5～0.7m で検出した。SE は幅約 0.45m、1.25m、検出面からの深さ約 0.3m である。SA と考えられる遺構は 3～4 地点にかけて切りあって所在するものと考えられ、3 地点においては掘方と考えられる落ちが検出されたがはっきりしたものではなかった。

B-4 地点:遺構面が 2 面検出できた。上面は近世の遺構面で、埋土の異なる遺構群があり、SD や SH が検出できた。SH の中にはしっかりした掘方もあり、SB を構成することも考えられる。

SD は長軸 1.5m で埋土から寛永通宝が出土し、近世の SD である。

その下層で検出した SA と考えられる掘方は検出面より約 0.35m の深さで掘り込まれ、SJ と考えられる焼土と粘土によるプランも検出した。

プランは不整円形で、約 1.2m である。だだ、SJ の位置は基本的に SA の端に沿って作られるものであるため、遺構中の位置は中途半端な位置になるが、この掘方は 2 軒の SA がきり合って重複する可能性が高いため、そのような位置に SJ が検出されたと考えられる。

焼土と粘土の中からは土師器片が多く出土した。SH もあり、須恵器や土師器など、多くの遺物が

遺構に伴い出土した。

3～4 地点にかけて検出できた掘方間は 9～10m であるため 2 軒の SA が切り合っている可能性が高い。土師器大型鉢、土師器深鉢、須恵器甕破片、坏身など多くの遺構に伴う遺物が出土した。遺物の残存状態も良く、土師器の特徴から 6 世紀末から 7 世紀初頭頃の時期に比定できる。

B-5 地点:SB の柱穴と考えられる掘方と SA を検出した。検出した掘方は対応する肩が出なかったが SA の掘方であると考えられる。B - 4 地点と同じく、上層に近世期の遺構面があり、SA と考えられる遺構に掘り込む形できり合っていた。

下層の掘方と地山であるアカホヤ火山灰層の境には粘土と焼土がかたまって検出され、SJ と考えられる。脇に所在するため、SA に伴うものと考えてよい。土師器破片や須恵器の破片が出土した。上層からは近世磁器破片が出土した。

SH は径 0.52m、深 0.5m、柱痕跡が明瞭で、抜き取り後に明黄褐色の粘土を充填している。周辺に SB が所在していると考えられる。

B-6～12 地点:簡易なアスファルト舗装で、路盤は薄かった。

6 地点では SE と SH を確認した。SE の幅は約 1.15m、土層図から深さは約 0.3m である。土師器や須恵器片が出土した。7 地点では等間隔に並ぶ SH を確認した。SH はいずれも径約 0.6m、検出面からの深さ約 0.2m を測る。SB を構成するものであろう。

8 地点以降は、地形も変化し、遺構は確認できなかった。B-11、12 地点では遺構は確認できなかったが、B-1 地点のちょうど北側にあたり、近世の遺物包含層が確認できた。磁器は破片で碗が主である。肥前系の染付と、コンニャク印判文を施した磁器が出土し、18 世紀後半のものと考えられ、B-4 地点で寛永通宝も出土したため、当時期の遺構面が所在しているものと考えられる。

B-6 地点:SE を検出した。幅 1.0m、検出面からの深さは約 0.3m を測る。

B-7 地点:現地表面から約 0.6m の深さで、SB を構成すると考えられる 3 基並ぶ SH が検出できた。径 0.6m、深さ約 0.5m を測る。現状では 2 間の建物になると考えられるが、全体像は分からない。

B-13～15 地点:市道 288 号から東に入り込む袋小路である。3 箇所に分けて調査を行い、現地表面から約 0.8m で検出面に至る。SH、SE を検出した。SE1 は幅 0.25m、深さ 0.34m を測る。

B-16～18 地点:16･17 地点は双方とも宅地造成時や道路舗装時に旧地形が削平されており、地層、遺構は残存していなかった。

路盤をはぐと黒褐色土が薄く残り、黄褐色土をはさんで、礫層に到る。礫層までは約 70cm を測る。

18 地点はかろうじて地層は残っていたが、後世の削平により、遺構は残っていなかった。

平成 17 年度

1-1～2 地点:遺構はなく、上層に一部遺物包含層が堆積していた。その下は礫層の地山になる。遺物包含層からは陶磁器破片が出土した。18 世紀後半以降国内に大量流通した肥前系の染付椀である。

1-3 地点:基本層序は路盤の下に客土と厚い黒色泥層が堆積していた。旧河道もしくは河道沿いの湿地帯であったと考えられる。目立った遺構はなかった。

1-15～16 地点:この調査区は路盤下ですぐに礫層にあたり、遺構･遺物はなかった。

1-17～20 地点:市道 278 号上にあたり、幅員が狭い。20 地点までは削平が著しく遺構などは確認できなかった。上層は削平されており、路盤下は地山である明黄橙色の層と礫層が堆積していた。

1-21～23 地点:21 地点において、SA と考えられる遺構が検出された。一辺 3.2m、深さ 0.1m を測る。削平が著しく、遺存状況は悪い。22 地点からは SE と考えられる掘方が検出されたが、削平で浅く、全体がかかっておらず不明確である。その続きが 24 地点まで及ぶ。

1-24～25 地点:24 地点では、22 地点から続く SE の続きが検出できた。その SE の下に SA と考えられる掘方を検出した。深さは約 0.3m を測る。SE は比較的新しいものである。

その他に SC と SZ を検出した。出土遺物は土師器片、須恵器片、陶磁器片を検出した。

2-1～3 地点:1 地点で近世の SE を検出した。2 地点からは路盤を剥ぐとすぐに礫層にあたり、地層は削平されており遺構、遺物はなかった。

2-4～11 地点:5･6 地点で、端部間を 10.9m 測る掘方を検出したが性格は不明である。SA が切りあったものか。深さ約 0.2m を測る。

8･10･11 地点では切り合う SA を明確なもので、少なくとも 5 軒確認した。

8 地点では新しい時期の溝に切られた SA らしき掘方を検出した。幅 3.9m、深さ約 0.15m を測る。須恵器破片が出土した。9 地点では SB を構成すると考えられる SH を検出した。一組は方形の掘方で、一辺 0.45m、深さ約 0.4m を測る。建物の主軸がほぼ磁北を向くと考えられる。

もう一組は円形の掘方で径 0.3m、深さ約 0.4m を測る。10 地点では、12 地点では SE を検出した。

地層も比較的良好に残っており、調査区内でも最も多く遺構が検出できた箇所である。

10 地点と 11 地点で検出した SA は隅丸方形の平面形で SA1･2 が約 5×5m、SA3 が 3×3m を測り、深さを土層で確認すると 0.45m～0.6m である。SA1 は 10～11 地点にかかって検出され 11 地点で SJ が確認された。SA3 が SA2 を切る形で掘り込まれていた。11 地点ではもう一軒 SA(17-2-11SA2) が検出され、掘方間 5.8m を測り、深さ約 0.3m である。中央に SP が検出できた。

SP に使用されている土師器から 7 世紀代の SA と考えられる。

2-12～16 地点:16-2-10 地点からの延長にあたる。12 地点と 16 地点で SE を検出したがそれ以外の地点では地形が削平されており、路盤下はすぐに礫層にあたる。遺物もほとんど出土しない。

2-17 地点:市道 286 号上で天理教教会横の細い路線である。地形が削平されており、路盤下は礫層であった。そのため、遺構･遺物は出土しなかった。

2-18～26 地点:遺構が検出され始めるのは 19 地点からで、20 地点にかけて SH 群が検出された。付近に 2 棟は SB が建つ可能性がある。21～22 地点では、SH と SZ が確認された。

23 地点では SA と考えられる掘方を検出した。複数が重複すると考えられ、深さは約 0.2m である。

24 地点では幅 3m、深さ 0.7m を測る大型の SE を検出した。性格は不明であるが、今後、周辺遺構との関係を意識する必要があろう。

25～26 地点にかけては削平が著しく遺構･遺物はなかった。

2-27～34 地点:市道 278 号と 275 号の合流した地点から北の道路部分で、東側には童子丸神社及び童子丸地区学習等共用施設が所在している。地形的には調査始点の 27 地点が上り傾斜で、29 地点から平坦となっている。標高は 26.80m前後である。

調査の結果、一部分を除きアカホヤ火山灰層は遺存しておらず、遺構も SH をわずかに検出したのみである。遺物は、量的には少なく 30 地点から縄文土器・土師器を出土した。

2-29・30 地点:検出面はアカホヤ火山灰層であるが、一部分しか遺存していない。地表下 0.57mを測る。SH5 基を検出したが、いずれも円形で、径 0.40～0.65m、検出面からの深さ 0.20～0.39mを

測る。遺物が出土していないため、時期は不明である。

2-34 地点:検出面はにぶい黄橙色土で、地表下 0.76mを測る。SH2 基を検出したが、いずれも円形で、径 0.30～0.40m、検出面からの深さ 0.20～0.26mを測る。遺物が出土していないため、時期は不明である。

2-35 地点:35 地点では検出面において幅 1m を測る SE を検出した。埋土内からは土師器・須恵器等が出土し、掘方からもしっかりした SE である。さらに北西側に向かって伸びており、埋土の質から水路等ではなく、土地区画などを意図し掘削されたものの可能性が高い。

周辺に所在する遺構に注意が必要である。埋土も黒色～黒褐色を呈し、基本層序には残っていない土であることから、おそらく削平されたであろう上層にあった古い土である可能性が高い。

出土遺物は須恵器碗の特徴から 9 世紀後半～10 世紀前半、他に 13 世紀以降の土師器皿がある。

2-36 地点:市道 291 号から北に入る市道 283 号の入り口にあたる。水道管の敷設や削平で路盤の下から礫層がすぐに現れる。そのため遺構・遺物はなかった。

A-1～3、8～9 地点:1 地点で SE を検出したがしっかりした掘方でなく、はっきりしない。

2～3、8～9 地点は道路敷設時に土地が削平されており、地層が残っていなかった。路盤下は礫層になる。そのため、遺構や遺物はなかった。

A-6～7 地点:6 地点は水道管敷設による撹乱を受けていた。そのため、遺構は確認できなかった。7 地点で撹乱を受けるが、SA と考えられる遺構を検出した。SJ と考えられる粘土と焼土の混じるプランが検出できた。南側を側溝で切られ端部ははっきりしない。深さ約 0.3m の掘方で貼床が施されていた。埋土中から土師器破片を多く検出した。

平成 18 年度

2-1～4 地点:調査区の中でも遺構が集中する。

2-1 地点では平安時代の SE と SH を検出した。SE の掘方内からは土師器破片が出土した。

2-2 地点では方形の SH を検出し、径 0.7m、掘方の深さ約 0.85m を測る。他にも多くの SH を検出した。この付近に SB が所在する可能性がある。

2-3 地点では、SE と SZ、SH 群、SA の可能性がある掘方を検出した。

2-4 地点においては SH と SZ を検出した。いずれも遺構検出面は現地表面から約 0.4m の深さで検出しておりアカホヤ火山灰層は残っていない。出土遺物は少ない。

2-5～8 地点:5～8 地点にかけて地形が上がり、急に遺構密度が減る。検出面は現地表面から 0.2～0.3m の深さになり、ほとんど遺構が検出されない。削平されたものか。

2-9～12 地点:地形が傾斜しながら、削平を受けていても遺構密度が高くなる。

2-9 地点になり、SE が検出された。幅 1.2m、深さ 0.3m を測る。

2-10 地点では SC や SZ が検出された。SA と考えられる掘方もある。深さは浅く、検出面より 0.1～0.2m である。

2-11 地点では、SH と SZ を検出した。

2-12 地点では SZ と SA と考えられる掘方を検出した。SC もあり、密度が高い。周辺に遺構が広がる可能性がある。

A-1 地点:1 地点では SE が検出された。北側から東に向かうもので、幅 1.6m、深さ 0.6m のしっかり

した掘方である。台地端部に向かうもので、周辺の遺構との関係など注意したい。

埋土中から陶磁器破片が出土した。

A-2～3 地点：2 地点では地形が削平されており、遺構はなかった。3 地点では 17 年度の調査で SA など多くの遺構を検出した市道 283 号との交差地点で、SA の可能性がある掘方を検出した。二次加熱を受けた甕が出土した。深さは約 0.3m である。

A-4～6 地点:市道 280 号で削平により、遺構は残っていない。約 80m の延長である。6 地点の終点で市道 279 号に交差する地点では地山が確認できる。

A-7～11 地点:市道 279 号で、A-6 地点から左折した約 73m である。A-7 地点で SA と考えられる遺構を検出した。遺構面が深く、現地表面から約 1m の地点で検出できる。掘方は深さ約 0.1m と浅い。

A-8～9 地点にかけては SZ と SA の可能性がある掘方を確認した。SA と考えられる掘方の深さは約 0.3m で、土器破片などを出土する。

A-10 地点では SE を検出した。幅約 0.8m、深さ約 0.2m である。

A-12 地点：A-6 地点との交差点から右折し、北に向かう。12 地点は SA の可能性のある焼土と土師器を含む掘方をはじめ、埋土に須恵器が混入する柱穴と考えられる SH 群、SE などを検出し、遺構密度が高くなる。遺構は現地表面から約 0.8m で検出できる。特に SH5 からは 8 世紀前半の須恵器碗蓋が出土した。径約 0.4m、深さ約 0.5m を測る。

SA に伴う土師器は、7 世紀代に位置づけられるものであろう。

A - 13～14 地点:SH 群や SE が確認でき、遺構検出面の深さも約 0.8m である。

A - 16～19 地点:16 地点で幅 2.3m、深さ約 0.6m の SE と考えられる掘方と SZ を検出してから以降の調査地点では、遺構を検出できるのは現地表面から約 1～1.2m となり、地形が下がる。遺物は須恵器破片や土師器破片を中心に多く出土するが、遺構の性格はつかみにくい。

A-18～19 地点:SZ や SH 群を検出できる。遺構の性格を特定することはできなかった。

A-20～22 地点:SH 群の中に SB の可能性のある遺構や SA の可能性がある掘方を検出することができ遺構密度は高い。

A-23～24 地点:路線に沿って SE が検出された。幅約 1.2m、深さ約 0.2m をはかり 2 調査地点に亘って検出された。

A-25～27 地点:SZ と、SH 群が検出できる。遺構検出面は現地表面から約 1.2m を測る。

A-28～29 地点:SZ と径約 0.9m、深さ約 0.1m の SD が並ぶ。性格は不明であるが、近世 SD の掘方か。そのほか SE と考えられる掘方と SH が検出された。

A-30～32 地点:29 地点から右折し、東に向かって急に地形が上がり、遺構検出面は現地表面から約 0.4m である。遺構は SC や SH、SE が検出されたが、密度は低い。

西都原台地中段域縁辺に向かって地形が高くなっていることが確認できた。

A-33～34 地点：SZ と東側に向かい落ちる SE と考えられる掘方が検出できた。34 地点から 33 地点で約 0.8m も掘方底面が台地端部に向かい低くなっている。排水機能を果たした SE の可能性がある。

A-35～36 地点:非常に狭い調査地点である。SE と考えられる掘方と SH を検出した。

A-30～32 地点と同じく、遺構検出面の深さから、東側の台地端部に向かって地形が上がっていることが確認された。35 地点の調査始点と 36 地点の調査終点では現地表面から地山である遺構検出面までの深さが約 0.5m 高くなる。

F-1～7 地点:地形は、南から北へのわずかな下り傾斜で、最終の 8 地点では急傾斜となっている。
F-2 地点：SH4 基を検出した。いずれも円形で、径 0.20～0.45m、検出面からの深さ 0.25～0.47m を測る。遺物は、磁器が出土している。
F-5 地点：SH2 基を検出した。いずれも円形で、径 0.30m前後で、検出面からの深さ 0.13～0.17m を測る。遺物は、土師器が出土している。
F-6 地点：SC1 基を検出した。プランは楕円形と思われるが、1/2 以上が調査地点外である。現存長約 1.5m、検出面からの深さ 0.23mを測る。遺物は出土していない。
F-8～11 地点:7 地点から北東に延びた袋小路で、地形的には、上り傾斜から平坦になっている。平坦部の標高は約 29.9mである。
F-9 地点：SC2 基と SH2 基を検出した。SC1 は、いずれも不整形で、プランがはっきりしない。SH は、いずれも円形、径 0.45m前後で、掘り方の深さ 0.23～0.27mを測る。遺物は出土していない。
F-10 地点：アカホヤ火山灰層が遺存しており、この面で SH・SC・SE、アカホヤ火山灰下層から焼礫を検出した。焼礫は幾つかの箇所に集中しており、周辺には SI が遺存している可能性が高い。時期は縄文時代早期のものである。共伴して遺物は出土していない。SE は現存長 9.3m、幅約 1.10m、深さ 0.42mを測り、SE 内より土師器・製塩土器等が出土した。柱穴はすべて円形である。SC 1 は、はっきりしないが方形プランと思われる。いずれも共伴遺物に乏しく時期は不明である。
F-12～19 地点:地形は全体的に平坦である。標高約 28.4mである。
F-12 地点：SC2 基と SH4 基を検出した。SC はいずれも楕円形プランで、検出面からの深さ 0.13～0.33mを測る。SH はずれも円形で、径 0.20～0.35mで、検出面からの深さ 0.22～0.42mを測る。遺物は、縄文土器・土師器が出土している。
F-14 地点：SE1 条と SH1 基を検出した。SE1 は道路に沿って南東に延びている。規模的には、幅約 0.50m・検出面からの深さ 0.13mを測る。この SE1 は、幅や深さに変化があるが、本工区の終点である 19 地点までは確認できた。SC1 は円形で、径 0.25m、検出面からの深さ 0.21mを測る。遺物は、縄文土器・土師器・凹面格子目叩きの古瓦等が出土している。
F-15・16 地点：SE1 の他に、SC1 基・SZ1 基・SH5 基等を検出した。SC1 は楕円形で、長軸不明・短軸 0.70m、検出面からの深さ 0.37mを測る。SC1 は、いずれも円形で、径 0.30～0.90m、検出面からの深さ 0.17～0.40mを測る。遺物は SZ1 から土錘・石錘、SH から縄文土器・土師器、調査地点一括として縄文土器・土師器・須恵器・打製石斧等が出土している。
F-17 地点：SE1 の他に、SH1 基を検出した。SH は円形で、径 0.60m、検出面からの深さ 0.18mを測る。遺物は、弥生土器・土師器・土錘等が出土している。
F-18 地点：SE1 の他に、SC2 基・SH5 基等を検出した。SC はいずれも円形で、SC1 は、径 0.80m、検出面からの深さ 0.65mを測る。SC2 は、径 0.85m、検出面からの深さ 0.59mを測る。SH はいずれも円形で、径 0.20～0.60m、検出面からの深さ 0.14～0.55mを測る。遺物は出土していない。
F-19 地点：SE1 の他に、SH3 基等を検出した。SH は、いずれも円形で、径 0.25～0.60m、検出面からの深さ 0.11～0.35mを測る。遺物は出土していない。

平成 19 年度

C-4 地点:後世の撹乱により、遺構・遺物は確認されなかった。

C-9～12 地点:9 地点は盛土による造成地で遺構・遺物はない。
10～12 地点は地山が良好に残っていた。現地表面から約 0.3～0.4m でアカホヤ火山灰層に至る。アカホヤ火山灰層は薄く堆積し、SH 群を検出した。一部、埋土中から土器片が出土する。

第 7 節　　石貫遺跡の調査

・調査区の概要

石貫遺跡は、堂ヶ嶋遺跡の北側、童子丸遺跡の西側に位置する。
今回、総延長 1321.2m、総調査面積 1211.2 ㎡を調査した。

・遺構と遺物(Fig43～48)

平成 17 年度

1-3～6 地点:基本層序は路盤の下に客土と厚い黒色泥層が堆積していた。旧河道もしくは河道沿いの湿地帯であったと考えられる。目立った遺構はなかった。
1-7～8 地点:この地点から地山が検出されはじめた。幅 2.1m、深さ 0.12m の SE が検出された。一部撹乱を受けるが、埋土から須恵器破片などが出土した。
1-9～12 地点:9 地点からは SH、10～11 地点にかけて SE を確認した。幅 1.4m、深さ 0.57m を測り、埋土内から土師器片や須恵器片が出土した。
1-13 地点:検出面はアカホヤ火山灰層で、地表下 0.41mを測る。SE1 条を検出した。SE1 は、東西に延びるもので、幅 0.66m、現存長約 4.60m、検出面からの深さ 0.22mを測る。遺物は、土師器・須恵器・陶磁器等が出土しているが、時期は不明である。
1-14 地点:検出面は褐色土で、地表下 1.00mを測る。短辺側面と底面に配石が施された SC 1 基を検出した。SC1 は、全体の 1/3 程度の検出であり、長辺（北辺）1.50m・短辺（東辺）現存長 0.60m、検出面から底面までの深さ 0.42～0.47mを測る。短辺側面には 20cm 前後、底面には 25cm 前後の平たい石が配されている。また、掘削の際、底面に近いところから炭化物を検出したが、土層で確認したところ、炭化物の層が幅 0.80m・厚さ 0.05mで確認できた。
　これまでに検出例のないもので、炭化物の層が確認したことによる火葬との関連性等を考えるうえでは注目される資料である。遺物は、土師器・須恵器が出土している。
1-C 地点:検出面はアカホヤ火山灰層で、地表下 0.44mを測る。SA1 軒と SH3 基を検出した。SA1 は西辺で検出面から床面までの深さ 0.22mを測る。主柱は検出することができなかった。SH はすべて円形で、径 0.50m前後・深さ 0.27～0.37mを測る。遺物は、土師器・須恵器が出土しているが、遺構に伴っていない時期は不明である。
1-D 地点:検出面はアカホヤ火山灰層で、地表下 0.50mを測る。SA2 軒・SC1 基・SH3 基を検出した。SA1 は東辺と西辺で、その間約 4.20mを測る。中央西辺よりに焼土が確認できる。土師器・須恵器等が出土しており、特徴から 7 世紀のものと推定される。SC は円形で、SA の西辺と重複している。径 1.25m・検出面からの深さ 0.49mを測る。共伴遺物は、土師器・須恵器が出土しており、時期は 7 世紀に比定される。SH はすべて円形で、径 0.30～0.45m・検出面からの深さ 0.24～0.77mを測る。

1-E 地点：検出面はアカホヤ火山灰層で、地表下 0.63mを測る。SA を 2 軒・SH を 4 基検出した。SA1 は、北辺と東辺（北東隅部分）で、北辺の中央部分と思われるところに SJ をもつ。SJ は押し潰された状態で、検出範囲は東西 0.76m×南北 0.50m・高さ 0.22mを測る。灰白色粘質土（SJ 本体）で造られ、底面はかなり火を受け赤褐色に変色して、その底面と灰白色粘質土に挟まれ炭化物と焼土を多量に含む層を確認できる。

SA2 も SA1 同様北辺と東辺（北東隅部分）の検出であるが、東辺は SA2 と重複している。前後関係では SA2 の SJ 部分が切られてないので、SA2 のほうが時期は新しいものと思われる。

なお、東側には、1-D 地点 SA2 の北辺を確認したが、そのほとんどは D 区に位置している。検出面からの深さ 0.12mを測る。

遺物は、土師器・須恵器等が出土し、その特徴から時期は 7 世紀に比定される。SH はすべて円形で、径 0.3m前後、深さは 0.18～0.26mを測る。時期は不明である。

1-G～I 地点:検出面はアカホヤ火山灰層で、地表下 1.04mを測る。G 地点から H 地点にかけて SE1 条を検出した。SE1 は東西に延びたもので、幅不明・現存長 28.5m、検出面からの深さ 0.21mを測る。遺物は、土師器・須恵器・陶磁器が出土している。

1-J・K 地点:検出面はアカホヤ火山灰層で、地表下 1.02mを測る。J から K 地点にかけて SE 1 条を検出した。幅約 2.40m・検出面からの深さ 0.22mを測る。遺物は、土師器・須恵器・陶磁器等が出土した。

1-N～P 地点:N～P 地点からは遺構は検出できなかったが、N 地点からは検出面が急に落ち込み、泥炭層となり水が湧き出てくることから、旧河道であったと思われる。遺物は、土師器・陶磁器等が出土している。

平成 18 年度

1-1～2 地点：SE を検出した。1 地点において SZ を確認したが、はっきりした掘方は分からなかった。時期は近世にあたるものである。

1-3～4 地点:3～4 地点では性格は不明だが、南側への地形の落ちを確認した。

出土遺物も複数の時期が含まれており遺構の性格はわからない。

1-5～6 地点:5 地点は現代の撹乱である SE と、SC を検出した。6 地点からアカホヤ火山灰層が良好に残り、遺構密度も上がる。この地点では非常に深い掘方の SC を検出した。調査範囲外にかけてかかっていたことから全体像は不明であるが SD か。

1-7～15 地点:7 地点から 13 地点までは特に遺構が集中する。石貫神社の裏側をまわる路線である。鍵層であるアカホヤ火山灰層が特に多く検出された SH 群の中には、遺物を含むものや、しっかりした掘方で等間隔に並び SB を構成すると考えられるものもある。SE も検出され、埋土中から遺物を出土するものが多い。

1-7 地点：SH と SE が検出された。SE は幅 1.8m、深さ 0.6m のしっかりしたもので、9 世紀後半～10 世紀の遺物が出土する。

1-8 地点：SB を構成すると考えられる SH 群が確認された。広い範囲で調査を行えば、SB を認定できる可能性が高い。

1-9 地点：平安時代の SE2 条と SH が確認された。SE1 は狭く、はっきりしないが、SE2 は幅 2.4m、

深さ 0.4m のしっかりした掘方である。近世の遺物も出土する。

1-10 地点：SH 群が確認された。現地表下約 0.8m～0.9m で良好にアカホヤ火山灰層が残る。

1-11 地点:SE1 から、9 世紀後半～10 世紀の土師器埦や坏などが出土した。幅は検出面において約 0.7m で深さは 0.3m を測る。削平されたことを考慮するとしっかりした SE である。

1-12 地点:SH 群と SA と考えられる遺構を検出した。排水管がちょうど遺構の上を横切って敷設されており、その撹乱で性格な規模は分からない。幅の広い SE の可能性もある。

1-13 地点:SE2 条と SH 群を検出した。SE1 は狭く、しっかりした掘方でないが、SE2 は幅 1.0m 深さ 0.4m を測るものである。

遺物は平安時代～近世に至るまで土師器・須恵器・陶磁器・石器等が出土している。

1-16･17 地点:「石貫神社」の鳥居の南西、市道 291 号と 274 号が合流する地点である。16 地点から SA2 軒、17 地点からその SA の北辺部分を検出した。復元すると方形プランで、SJ を有するタイプのものであるが、2 軒が重複していると思われ、不明な点が多い。検出面はアカホヤ火山灰層で、検出面からの深さ 0.13mを測るが、かなり浅く、西側でははっきりしない。遺物は SA から土師器甕等が出土した。時期的には 7 世紀前半頃のもと推定される。

1-18～22 地点:17 地点から北に延びる市道 274 号で、アカホヤ火山灰層は 22 地点部分で確認できる程度で、全体的な検出面は暗褐色及び褐色ローム層である。

1-18 地点：SH11 基を検出した。いずれも円形で、径 0.3～0.7m、検出面からの深さ 0.08～0.40m を測る。遺物は出土していない。

1-21 地点：SE1 条を検出した。SE は、現存長 3.20m、幅 0.40m、検出面からの深さ 0.26mを測る。遺物は SE と SH から土師器等が出土している。

B-1～3 地点:現道路敷設に伴い削平を受けており、遺構が残る層は存在しない。

数箇所で土層図を作成した。3 地点に至ると地形も比較的よく残っている。

B-4～5 地点：A-6 地点から西へ上る坂である。調査区の中央に排水管と水道管が敷設されており、地形も削平を受けており、路盤を剥ぐとすぐに地山に至る。SH と SZ が検出されたことから周辺には遺構が存在する可能性が高い。

また、地形は高くなっており、削平は受けていても文化層を残していることが分かった。

B-6 地点:1 区で調査した市道 274 号から民家へ入る袋小路である。延長約 15m で、SE と SZ、SC、SH を検出した。SE は、近世の遺構である。

B-7～8 地点:この調査区も市道 274 号から西都原台地に向かい入り込む袋小路で、奥に水路が流れている。そのため、7 地点は湿地であったと考えられ、下層には黒色泥層が堆積し湧水する。

8 地点にかけて次第に地形が上がり、アカホヤ火山灰層が残存する。上層に過去水田として使用されていた面があり、その下に遺構面が検出できる。SH 群と SE が検出できた。

B-9～12 地点:石貫神社の参道に続く道路である。現地表面から約 1m でアカホヤ火山灰層に至る。

9～11 地点では良好にアカホヤ火山灰層が残り、SH 群が検出できた。10 地点で SA の掘方かと思われる遺構を検出したが、掘削は浅く、性格は判断しかねる。

12 地点では地山は残っておらず、黒色泥層が深く堆積しており、湿地であったものだろう。

B-13～15 地点:市道 280 号から 282 号に亘る調査区で、B 区の中でも最も遺構密度が高い。

13～14 地点では遺構検出面は浅く、現地表面から約 0.4m である。柱穴を含むと考えられる SH 群

と SC、SE を確認した。撹乱も多く、遺構の性格は特定できない。

15 地点では SH 群と SZ を検出した。SZ は幅 5.6m、深さ 0.68m を測るしっかりしたもので、掘方は、緩やかに傾斜をもって立ち上がる。

B-16・17 地点:遺構検出面が深くなり、現地表面から約 0.7m である。遺構密度も高く、SH、SE が検出された。時期は複数にわたるものと考えられ、SE と判断した掘方は中世から近世のものである。幅は不明で、深さ 0.2～0.3m を測る。

B-18～19 地点:SE が検出された。検出面において幅約 0.6m、深さ 0.2m を測り、蛇行しながら 19 地点で調査地点から逸れる。現道の路盤を剥ぐとすぐに検出面に至ることから、かなり削平を受けており、検出された遺構もかなり下部を検出しているものと考えられる。19 地点では SE に切られる形で SC を検出している。SE からは須恵器破片などがわずかに出土した。

B-20 地点:検出時に路盤を剥ぐ際、路盤直下に土器が出土した。おそらくなんらかの遺構を道路敷設時に削平しているのであろうが、壁でも掘方の確認は難しかった。出土した土器は弥生土器で弥生時代後期前半にあたる。そのほか、SH 群と SC を検出した。

B-21 地点:SH 群と SC 群が検出されたが、時期はそれぞれ異なる。出土遺物から弥生時代・奈良時代・平安時代と考えられる。

B-22～23 地点:非常に遺構密度が高い。SH 群と SC、SE、SA などが検出された。22 地点から 23 地点にかけて検出された掘方は SA と推測され、貼り床が施される。幅約 4m、深さ 0.2m を測る。弥生時代後期前半にあたる。SE や SH には平安時代のものがあるが、その中に弥生時代の遺構が検出された点は注目できる。遺構検出面は浅く、現地表から約 0.2m である。つまり、路盤を剥ぐと遺構検出面にいたるという層堆積である。

B-24～28 地点:遺構検出面は現地表面から約 0.7m で、SE を検出した。幅はやや変化し、約 0.6～1m、深さ約 0.2m である。25 地点から続いて検出されている。出土遺物は近世の陶磁器が出土した。

平成 19 年度

C-1・2・3、5～8 地点:石貫神社の裏に廻る市道 281 号で、地山はアカホヤ火山灰層が比較的良好に残る。現地表面から約 0.4m で検出した。

1 地点と 2 地点では大型の SC が 4 基検出された。径 1.4m・検出面から深さ約 0.9m を測る。ほとんど遺物を出土しないので性格は分からないが、柱穴とは考えにくいことから、後世の撹乱（植樹等）の掘方である可能性をもつので、周辺地に大規模な調査が及ぶ場合は注意が必要である。

5～8 地点は遺構密度が高い。SA と考えられる掘方を 3 軒検出した。6 地点の SA は幅 4.6m で、深さ 0.4m の掘方である。

7 地点で検出した SA は 1 辺 6.5m を測り、SP をもつ。

8 地点の SA は、SE に切られ、幅 3.1m、深さ 0.4m を測る。時期は、7 世紀に位置づけられる。

また、SE も 3 条検出しており、土師器や須恵器の破片が出土する。5 地点と 6 地点で検出した SE は、幅 1.5m・検出面からの深さ 0.5～0.6m のもので、東西方向に横切る。

また、後世の撹乱も著しく、調査区間に渡り、側溝の掘方と考えられる溝が延びる。

第Ⅳ章　　総　括

1. 堂ヶ嶋遺跡

平成 16 年度に調査した 5 区は地形が旧河道に沿う後背湿地で、舗装路盤が約 50cm～70cm と厚く敷設されており、その下層には、黒色の泥質層が堆積し、遺構は確認できなかった。

16-5-1 地点にのみ地山が残り、2 地点において湿地との境が確認できた。そこから 16-5-14 地点まで黒色泥質の層が堆積しており、現在の逢初川の中心に約 100m 以上に渡って湿地帯が広がっていたと考えられる。

16-5-15 地点から地形が上がり、地山も確認できるが、道路建設時の削平で遺構は SE が確認された程度である。地形が上りきった地点には、西都原 260 号墳が所在するが、周溝などは確認されなかった。

遺構は確認できなかったが、黒色泥層からは土師器、陶磁器等の破片が出土している。
周辺には古墳時代後期～奈良・平安期の SA や日向国府跡も近く、生活域として評価されているため、当時の廃棄場として考えることができる。

17-4-1～10 地点は、16-5 区から北西に位置し、同じく旧河道を横断する。遺構等は確認できない。

17-B-3～5 地点では SA を検出しており、3 地点では 8 世紀、4 地点では 6 世紀末、5 地点では 7 世紀後半の遺物が出土する。6 世紀後半～8 世紀にかけて集落が存在する可能性が高い。

特に、また、17-B-6・7 地点から検出した周溝状の遺構は注目される。土層断面の観察から南側に構築物があった可能性が高く、当初、SO と判断していたが、18 年度に南側に調査を延長した際、対応する周溝は確認されなかった。加えて、溝埋土からの出土遺物は、小片が多く、時期も特定できず、古墳時代の遺物だけでないことから、遺構の性格は判断できない。周溝が全周しないタイプの円墳の可能性もあるため、今後周辺で調査が行われる際は注意が必要である。

17-B-22 地点では、明確ではないが、SA と考えられる掘方から古墳時代前期の土器群が出土した。複合口縁壷と考えられる破片や高杯の脚部、小型丸底壷など、前期古墳に供献される祭祀用の器種が出土し、注目される。場所は、酒元遺跡との境であり、昭和 63 年度に酒元遺跡が発掘調査された際、5 世紀の高坏が出土する SA が調査されているため(1)、当該期の集落が広がっているものと推測でき、出土土器が祭祀的様相を持つ点が注目される。

酒元遺跡から堂ヶ嶋遺跡南部に古墳時代前期～中期の集落が形成され、堂ヶ嶋遺跡北部から法元遺跡や石貫遺跡、童子丸遺跡の広範囲にわたり、6 世紀以降の集落が広がっていることが、現在の状況から推測できるだろう。

隣接して検出した掘方や 17-B-25 地点では 9 世紀後半から 10 世紀前半、17-B-26 地点では 7 世紀後半と考えられる SA が検出できたので、複数の時期で集落として利用されたことが推測される。

堂ヶ嶋遺跡は西都原古墳群堂ヶ嶋支群が所在することから、平成 12～13 年度に調査された堂ヶ嶋第二遺跡で発見されたような、地下式横穴墓群や消失円墳が発見される可能性があったが、18-3-24～26 地点にかけて消失円墳の周溝を確認した。復元すると墳丘径 12.50m、周溝を含めると約 16.70mの円墳となる。S01 は、幅 2.20m、深さ 0.49mを測る。

周溝内から古墳に伴うと考えられる遺物は出土しなかったが、平成 13 年度に行われた確認調査で、同遺構の西側が調査された際、出土した土師器から 6 世紀末～7 世紀初頭に位置づけられる。

古墳の周溝と考えられる遺構は、19-A-37 地点で確認された掘方である。調査地点の横には西都原古墳群 245 号墳が所在し、古墳に向かって弧を描くような掘方であることから、周溝の端部と把握している。埋土からは模倣坏蓋の破片が出土しており、6 世紀後半の特徴を示す。

工事が西都原古墳群 256 号墳の周溝に係る可能性があるため、本来調査の対象ではない掘削幅 60cm の工事区域に調査を行ったのが 18-C-1～6 地点である。

掘削幅が 60cm 未満のためほとんど調査にはならなかったが、1 地点では、黒色土の遺物包含層が確認され、その中から古代の貿易陶磁である長沙窯黄釉褐彩の水注胴部破片が出土した。人物を貼花文で表現している。共伴する土師器破片も 9 世紀後半のものであることから、平安期の遺物包含層である可能性が高い。この事例を含め、長沙窯陶瓷の破片は県内で 4 例確認されており(2)、いずれも平安期の官衙等公的性格をもった遺跡で出土しており、本調査地点も稚児ヶ池を挟んで日向国府跡と向かい合う立地で、19-A-1 地点でも平安時代の遺構が確認されていることなどから、同時期の官衙関連施設が周辺に所在する可能性がある。

18-C-2 地点で地山が立ち上がるのが確認されたことで、C-1 地点にかけてなんらかの遺構が存在する。SE か、256 号墳の周溝である可能性もあろう。ただし、古墳時代の遺物は出土していない。18-E-2～4 地点では、時期不明の SE1 条と平安時代の SE2 条と近世の SD3 基を検出した。地形がすでにかなり削平されていたことから掘方の深さは全体的に浅い。SE は南北に向き、土師器椀の破片や瓦の破片も埋土中に含まれ 9 世紀末のものと推測される。

E-4 地点の北にあたる 17-B-6 地点で、古墳の周溝と考えられる遺構が検出されていたことから、それに対応する周溝がこの調査区で検出されると予想されたが、大型の SE はない。

可能性としては E-2 地点で検出された SE1 になるが、幅や掘方が小さく、昨年度調査で確認された溝と対応しない。削平を考慮し、この溝を前年度調査の周溝状の遺構と対応するとしたら間が約 50m 以上になり、かなり大型の古墳になるが、現段階では断定できない。

19 年度は出土遺物から推定できる年代としては古墳時代後期・平安時代・近世(18 世紀後半)の遺構を検出した。

19-1-1～6 地点、11～20 地点では、SA を中心とした古墳時代後期の遺構と平安時代の SE・SH 群、上層に近世の包含層と SE を検出した。

特に SA に注目すると、2 地点で検出した SA1 が 6 世紀前半～中葉にあたると考えられるものである。13 地点の SA2 からは、土師器甕の SP が、SA1 からは MT85～TK43 型式段階の須恵器坏身破片が出土し、20 地点では土師器甕や高坏に TK43 型式の須恵器坏身が出土する。土師器と須恵器が共伴する事例で、併行関係を検討する資料になる。土師器の甕に関して特徴的なのは、叩き痕が残り、格子目叩きと平行叩きの 2 種がある点である。格子目叩き痕に関しては 5 世紀後半～6 世紀初頭にあたる西都市酒元遺跡出土資料の甕に類例があり、当地域の整作工具であろう。平行叩きの残る例も 6 世紀～7 世紀代にかけて確認されている。この時期に至っても叩き痕の残る事例は、16-B-4 地点で SA 出土遺物でも確認されており、当地域の特徴であろう。

A-23・40・41 地点において 6 世紀後半代に位置づけられる SA を検出しており、堂ヶ嶋遺跡の市道 293・294 号沿いは当該期の集落と評価できよう。平成 12～13 年度にかけて調査された堂ヶ嶋第 2 遺跡の地下式横穴墓群が 6 世紀末～7 世紀前半段階に造営されており、消失円墳は 6 世紀中葉～後半に築造されたと考えられる。また 19-A-37 地点で検出された西都原 245 号墳の周溝と考えられる

遺構から出土した模倣坏蓋は、6 世紀後半のものと考えられ、周辺に所在するこれらの古墳群と今回検出された SA 群は同時期に比定できる。

同時に、この SA を検出した路線に取り囲まれた台地側に位置する 19-A-4～17 地点においてはアカホヤ火山灰層といった地山が良好に残存するにもかかわらず、ほとんど遺構が検出されない空白地帯で注目できる。

この地区は中間台地の古墳と集落の関係を考える際に良好な資料となる。

また、19-A-28～29 地点や 19-A-45～50 地点では谷状の地形落ち込みを検出し、自然流路跡と考えられる溝を多く確認した。西都原台地の麓から湧く水路が逢初川から稚児ヶ池に流れ込む谷がいくつも形成されていたと考えられ、この流路により、住居群や古墳群の所在する土地は島状に画されたものであったことが推測される。近世にはこの地に寺院が所在したと伝えられ、「堂ヶ嶋」なる地名の由来も地形に即したものであろう。

20-2 区は、遺構が検出される箇所と全く検出されない箇所に極端に分かれた。

20-2-1～2 地点では、土師器破片を出土する遺構や、SJ が付くの SA が多く検出された。

20-2-3～7 地点は地形の削平により、文化層は残っておらず、遺構･遺物は確認されなかった。

20-2-16～18 地点は西都原古墳群の堂ヶ嶋支群が点在しており、地下式横穴墓群も確認されている地域にあたり、古墳の横を通る路線であることから、関連遺構の存在が予測されたが、近世の SC や時期不明の SH が確認されただけで古墳時代関連の遺構はなかった。

20-A-1～3 地点では、土師器破片を出土する遺構や、SA が確認され遺物も出土した。

昨年度調査の周辺地区でも 6 世紀後半～7 世紀前半の SA などが確認できており、同時期の集落が広がっているものと考えられる。

20-A-4～6 地点は 1～3 地点の西側にあたる路線で、同じく、周囲からは SA が検出されている。遺構としては、SH や SZ が主であるが、土師器破片が出土しており、住居跡関係の遺構である可能性が高い。この調査区の起点から北はすぐ地形が落ちて、現在も逢初川が流れており、水辺の立地で、居住域としての好条件を備えている。

20-A-7～8 地点は地形の削平により、文化層は残っておらず、遺構･遺物は確認されなかった。

20-A-9～11 地点は西都原台地の麓を沿うように延びる路線で、SE が確認された。

特に 10 地点で確認された SE1 は大型のもので、幅が 6.3m を測り、深さが約 0.4m である。

埋土の下層に砂利を多く含む層が堆積しており、最下面は湿気が多いことから、排水用の溝である可能性が高い。

2. 寺崎遺跡

16-D 区は日向国府跡の縁辺部にあたる地点も含まれており、慎重に調査したが関連する遺構等は確認することはできなかった。しかし、周辺には布目瓦を含む多量の遺物が散布しており、表採することができた。日向国府跡及び関連施設の遺構の存在が想定できる。

16-D-19 地点においては、SP をもつ SA が 2 軒検出された。出土土師器から 7 世紀中葉に位置づけられる。SA1 の SP は、壁際に寄って設置されている点で他の SA における SP の位置と異なる。

また、SA1 からは床面に近い埋土中から方頭鏃が出土した。地鎮等の家屋祭祀に関わるものか。

寺崎遺跡の調査は 19 年度と 20 年度に集中した。

19-2 区と B 区は稚児ヶ池の東側になる。特に、東側に国指定史跡日向国府跡が所在する 2 区は注意されたが、水道管敷設時の掘方で撹乱され、地形の残存状況は良くない。検出される遺構も室町期の遺構が主体であった。

19-2-4 地点など一部、平安時代に遡る SE が確認されたのは注意を要する。2 - 11 地点では掘立柱建物を構成したと考えら得る 2 間の SB1 を検出した。国府政庁域の北側にあたり、SH の掘方埋土に灰白色の粘土を含む柱痕跡を確認できる。痕跡は径 15 cm程の規模であるが、古代における遺構群が現在の道路側にも伸びている可能性が高くなった。

20-1 区は日向国府跡指定範囲の北部に位置する。

20-1-4 地点で確認された南北方向に伸びる SE1 は、平成 19 年度新規道路建設に伴う発掘調査(3)で確認された SE1 とも合わせて考えると平成 18 年度の 18-E-3 地点で確認された平安時代前半(9 世紀末～10 世紀)の溝状遺構に続く可能性があり、日向国府跡の時期と重なることから、関連する地割などの遺構である可能性がある。ただし、地図上で位置関係を確認すると直線的につながるものではない。

20-1-9 地点では SA もしくは平地式住居跡の掘方と考えられる遺構を検出した。多くの土器破片が出土したが、いずれも 9 世紀末～10 世紀前半代の土器群である。周辺でもその時期の土坑などが確認され、平安時代前半の日向国府跡周辺の同時代遺構として認識でき、建物や関係施設の所在を推測させる。いずれも国府指定範囲から離れているが、同時代遺跡の広がりは北側では法元遺跡まで確認できるので、その間に位置することから、遺跡の広がりを押さえる資料として重要である。

20-B-1 地点は 1-1～7 地点の最終地点に位置し、稚児ヶ池のすぐ横になる。稚児ヶ池に向かう東西方向の SE1 が確認された。時期ははっきりしないが、埋土の状況から、平安時代のものである可能性が高い。地割や排水路である可能性をもつので重要である。

20-B-2～5 地点では、平安時代前期の遺構が集中して確認された。B-2 地点は先述した 20-1-9 地点であり、同時代の遺構が集中して検出された。

特に 20-B-4 地点で検出された SE2 条は、その延長方向が国府域やその北側地域との関連で注目される。

3. 上妻遺跡

18-D 区は、都萬神社の北側に位置した市道 310 号である。周辺には県教育委員会によって調査された上妻遺跡 A 区、西都市教育委員会によって調査した上妻遺跡 I 地点が所在している(4)。上妻遺跡 A 区からは豊後国の金剛宝戒寺と同范の単弁八葉蓮華文軒丸瓦、斜格子叩きの平瓦等が出土し、上妻遺跡 I 地点からは地表下 0.20m程に版築ではないかと思われ非常に硬い層を検出し、肥後系の複弁 12 葉蓮華文の軒丸瓦が出土した。このことから、官衙か白鳳期の氏寺の存在が想定されており、注意して調査したが、残念ながら全体的にかなり削平を受けているようで、関連した遺構は検出することができなかった。しかし、一括としてではあるが多くの古瓦が出土したこと、また、その古瓦がこれまで同様、格子目叩きが主体を成しており、寺崎遺跡（国指定史跡「日向国府跡」周辺）とは様相を異にしていることが再認識された。

20-3 区の上妻遺跡は、周辺から前述した瓦を多く出土する確認調査結果が得られている地域

である。

20-3-1 地点では、アカホヤ火山灰層上面に小石を含む黒褐色～褐色の層が確認され、それに掘り込む遺構が検出された。溝状遺構と考えられるが、1 つからは多量に土師器破片が出土した。当地域の標準的な遺構検出面であるアカホヤ火山灰層上面において遺構検出面が確認され、自然層でないことから人為的な整地層である可能性がある。

出土遺物は 6 世紀後半の土師器で、古墳時代の遺構もアカホヤ火山灰層上層にあることとなり、8 世紀後半代の寺院などの遺跡が推測される上妻遺跡にこのような遺構が存在することは、堂ヶ嶋遺跡から法元遺跡、童子丸遺跡、石貫遺跡にかけて古墳時代後期の集落が広がっていることが分る成果となった。

また、遺構検出面がアカホヤ層上面に堆積する層であることも重要で、検出時に注意しなければならない。

4. 法元遺跡

16-3 区：3 区の調査では、南側調査区で旧川道、北側調査区で SA 群及び円墳（葺石・周溝）等が確認された。

特に、16-3-12～14 地点では、西都原 259 号墳の周溝が確認され、実際は、葺石が配された大きな円墳であったことが判明した。これまで、西都原古墳群第 259 号や 5 区の周辺で、稚児ケ池の北側一帯に所在する円墳のトレンチ調査を行ったが、関連した遺構・遺物は検出されなかったため、不明な点が多く、時期も特定できなかった。この円墳周溝の検出は周辺古墳を解明する手掛かりになるかもしれない。

ただし、周溝から出土する遺物は、多くは 8 世紀後半以降の遺物で、古墳時代に遡るものは、少ない。古墳時代のものを検討すると 6 世紀後半の土師器壷破片があるくらいで、当古墳が葺石をもつ点などから、下限を 6 世紀初頭に予想されるが、当該期の遺物はみつからない。

また、周溝内に 8 世紀後半以降の遺物が多く入る状況から、古墳が一部削平された時期は、奈良時代末に遡る可能性もある。

南側調査区から出土した遺物には、「寺崎遺跡」の報告書でⅢ期として分類されている範疇に含まれるものが出土している。時期的には日向国府の正殿と脇殿が建立された 9 世紀初めから前半に比定されているが、それ以降のものも多数含まれており、日向国府が日向国の中枢機関として発展し、その周囲に古代集落が形成され、多くの人々が生活していたもの想定される。

16-4 区：各地点から、多くの SA が重複して、さらに、SB の柱穴等が確認されたことは、周辺地域に集落が継続して存在していたことを示唆しており、それが、延々と現在まで至っていることが判明した。SJ を有するものが多く確認されているが、一部を除き SJ を使用していたのは共伴遺物から主に 7 世紀から 9 世紀にかけての時期と思われる。このタイプの SA は、平成 13 年度区画整理事業に伴い実施した事前調査でも近くの地点で多数確認されており、かなり広い範囲に広がっているようである。しかし、残念ながら狭い範囲の調査であり、SA の切り合い関係や規模、SJ の全体的な形態や機能等を明確にすることはできなかった。また、時期の特定についても大まかで、細かな変遷を辿ることはできなかったが、本調査区を含めた周辺地域の遺構分布がやや把握でき始めた。

16-C 区：位置的にも日向国府跡の北側にあたるため、併行する時期の遺構が確認されるか注意を払

った。16-C-1～5 地点は水道管が敷設されていたが、遺構検出面より上であったため撹乱は受けず、SA が連続して検出できた。遺構に伴う出土遺物が押さえることができ、土師器と須恵器の共伴する資料がある。

16-C-1 地点では SPP と SP が検出でき、その SA の埋土に伴い内面に暗文を施した土師器坏、須恵器碗の破片から 7 世紀後半の遺物群と考えられる。また、上層から掘り込まれた SH が確認された。

16-C-2～4 地点では、SA が重複しているものとみられる。各地点で土師器破片が多く出土し、粘土や焼土が確認されたので SJ をもつ SA と考えられるが、はっきり確認できない。

16-C-5 地点では SA と考えられる掘方内から多くの遺物が出土し、須恵器、土師器坏や鉢の特徴から 7 世紀前半の遺物群であろう。北側に焼土が確認された。

16-C-6～10 地点では、SH や SC が確認され、土師器を中心とした遺物から 6 世紀後半以降の住居跡が周辺に存在する可能性が高く、16-C-1 地点から広がっているものであることが推測される。

16-C-11～18 地点といった調査区は SE や SC･SH などが確認され、SJ をもつ SA も 16-C-15 地点で確認された。16-C-16 地点で確認された、平安時代と思われる 3 条の SE もその延長とともに注目される。それに伴い、土師器や須恵器、古瓦などが多く出土した。

特に注目すべきは、遺構検出面に到達するまでに 10～20cm ほど平安時代と近世の遺物包含層が堆積していることである。平成 19 年に、宅地分譲に伴いこの調査地点の北側を発掘調査した際にも同様の遺物包含層が確認され、特に下層に至ると平安時代を中心とした遺物になる。遺構としては把握できないが、遺物の中には畿内系土師器や円面硯や風字硯の破片が見出され、注目される。

日向国府跡の北側に位置する安定した台地であることから、なんらかの整地層である可能性も視野に入れるべきだろう。

また、この包含層の下からは、古墳時代後期を中心とした SA 等が検出された(5)。

16-C-17･18 地点で確認できた遺構とそれに伴う遺物群は、土師器碗や古瓦の特徴から、9 世紀後半から 10 世紀前半頃のものと考えた。また、鉄滓も出土し、小鍛冶の痕跡もみられる。

C - 1～5 地点から 1 - 8 地点や B - 4 地点にかけて 6 世紀後半から 7 世紀代の集落があるものと考えられ、さらに東西にかけて広がる。また、日向国府跡の北側に当たる C - 11～18 地点では 9 世紀代～10 世紀前半期の遺構が広がると考えられる。

17-A-4･5 地点:市道 291 号を挟んで向かいにある地点で SA を検出した。17-A-4 地点の時期は 8 世紀代でしっかりした SE を検出した。17-A-5 地点は 7 世紀に遡る可能性がある。昨年度の調査でこの向かい側で 6 世紀末から 7 世紀前半の SA を検出したことからやや古い時期の集落が形成されていた可能性がある。

17-3 区：3 区の調査では、17-3-6～7 地点で SA を検出した。出土遺物から 6 世紀後半から 7 世紀にいたる時期のものと推定される。

17-C 区:C 区では市道 301 号の 2～9 地点を中心に、そこから枝分かれした B 区の里道(2～5 地点)、C 区の南側 3 区（市道 309 号）等から多くの SA を重複して検出している。SP を有するものと SJ を有するもの等があり、時期は 6 世紀後半から 7 世紀頃のもと推定される。本地域の南側一帯にも昨年度の調査で 7 世紀から 9 世紀頃にかけての SA を多数確認しており、かなり広い範囲に集落跡が存在していたと想定できる。

また、遺構として確認できなかったが、17-C-40 地点の一括遺物の中に、古墳時代前期の在地系

甕がある。上妻遺跡で確認されたようにアカホヤ上層に遺構が存在している可能性もあり、今後の調査において注目すべきであるが、西都原古墳群周辺で古墳時代前期の集落は少なく、堂ヶ嶋遺跡の 17-B-22 地点で確認された遺構とともに、数少ない事例となった。

17-C-45 地点では、遺物包含層の中から、3 点の緑釉陶器破片が出土しており、注目される。

法元遺跡も、弥生･古墳時代を経て、平安時代に至るまで遺構が集中している。

特に平安時代における位置づけは、南側に所在する日向国府跡との関係が注目され、重要な遺跡として位置づけられることは間違いない。

特に、平安時代の遺物包含層が、人為的なものなのか、撹乱されたものなのかは今後の広範囲の調査がなされる際には、注意しなくてはならない視座である。

5. 童子丸遺跡

16-1、16-2、16-B 区：童子丸遺跡に当たるこの調査区では、道路敷設や宅地造成時に地層が削平され、遺構自体が残る割合の少ない路線が多くあったが、現地表面から約 0.8～1m の深さに遺構面があり、遺存状況が非常に良い路線など各地点の遺跡の残存状況が明らかとなった。本報告で取り扱った、ほぼ遺構の性格、時期が特定できる成果まで得られた。

市道 219 号線の東側である 1 区立会区間や 16-2-1～9 地点は遺構の残存状況が悪く、西側に当たる 1-6～9 地点、2-11、12 地点、B-1～5 地点には SA と考えられる遺構と遺物が確認できた。さらに上層には近世の遺物包含層があることも確認できた。

16-1-7 地点や 16-1-8 地点からは SA から 6 世紀後半に位置付けられる須恵器･土師器が出土し、近接する 16-B-4 地点の SA1 から出土した大型鉢や長胴甕破片、須恵器破片は 6 世紀末～7 世紀初頭頃と考えられる。

法元遺跡の 16-C-1～5 地点で確認された SA 群と同時期であることから､当該期の集落が広がっていることがわかる。

また、16-B-4 地点では SD1 に寛永通宝が出土し、遺構面が 2 時期確認できた。

16-B-12 地点では､17 世紀末～18 世紀代の肥前系染付碗が出土したことから当該期の遺構が上層に広がっていることも確認できた。

17-1 区：童子丸遺跡と石貫遺跡またがる。1-1～8 地点までは旧河道沿いにあたり、湿地帯であったと考えられ、黒色泥層が厚く堆積し、はっきりした遺構はなかった。

17-2 区:童子丸遺跡で 2-8 地点から 12 地点にかけて、SA、SB の柱穴掘方を検出した。遺構の時期は 7 世紀後半から 9 世紀後半の時期で、幅がある。

特に 17-2-10～11 地点にかけては SA が 5 軒検出され、時期にも幅がある。

11 地点の SA1 は SJ を持ち出土土師器から、9 世紀後半から 10 世紀初頭になるが、隣で検出した SA2 は SP を持ち、土師器から 7 世紀後半に位置づけられ、複数の時期が認められる。調査地点の横の宅地内を平成 13 年度に試掘調査した際、8 世紀後半の SA を検出したことから、この付近には当該期の集落が形成されていたと考えられる。

近接した調査地点として、後述する 18-A-3 地点でも同時期の遺構が確認されている。

18-2 区:調査区は中間台地の東端にあたり、童子丸遺跡内である。前年度の調査で、この路線は旧地形が高い標高であったことから現在は削平を受けていることが分かっていたが、今年度の調査で

も現地表面から約 30～40cm で地山にあたり、アカホヤ火山灰層が残存せず、その下層に堆積する褐色粘土層で遺構を検出していることから、検出された遺構は上半分削平されたものであろう。

その中で注目されるのは、18-2-1 地点の SE1 と 18-2-2 地点で検出される方形の SH と考えられる遺構である。18-2-2 地点では他にも柱穴の可能性が高い SH が検出されており、周辺に SB が所在する可能性がある。SE も 18-2-35 地点で検出した、南北方向に掘られた平安時代の溝の延長であると考えられ注目できる。石貫遺跡も含めて、平安時代の遺構が所在することは、堂ヶ嶋遺跡・寺崎遺跡・法元遺跡・上妻遺跡の妻北地区南部だけでなく、北側にも同時代の遺跡が所在することを示す事例である。

18-A 区:調査区は童子丸遺跡内で、調査 1 区と 2 区の間を通る市道 279 号とその枝線になる。出土遺物から、古墳時代～近世まで確認できるが、性格不明の掘方が多く遺構の性格を特定しにくい。

18-A-3 地点で検出した SA1 と考えられる遺構から出土した土師器・甕は 8 世紀後半～末で、所謂東九州経由でこの時期に搬入されると考えられる豊後型企救系甕である(6)。

18-A-12 地点で 8 世紀後半の須恵器を伴う SH など奈良時代の遺構も散見できる。

また、18-A-17 地点から地形が下がり始め、遺構検出面は現地表面から 1.2m を測るようになる。遺物の出土量も多く、SA の可能性がある掘方が数基ある。

また、東側の 18-2 区と比べるとかなり地形が下がっていることが分かる。

18-F 区：F 区は、市道 278 号と 279 号、そして、袋小路となった私道であるが、18-F-1～7 地点（市道 279 号）では全体的に削平されているようで、遺構はほとんど確認することはできなかった。18-F-8～11 地点（私道）ではアカホヤ火山灰層が遺存しており、柱穴な溝等を確認することができた。また、アカホヤ火山灰下層からある程度まとまって焼礫が出土したため、周辺には集石遺構が所在し、縄文時代早期の集落跡の存在が想定される。18-F-12～19 地点（市道 278 号）では、アカホヤ火山灰層は遺存していなかったものの、縄文土器が多く出土した。縄文土器は早期の貝殻条痕文系土器や後期の黒色磨研磨土器、そして、晩期の深鉢形土器等で、本地点周辺は縄文時代から長期間に渡って生活が営まれていたことが判明した。

また、童子丸遺跡から石貫遺跡を広い範囲で、東西方向に横断して地形を推測すると、平成 18 年度の調査により、中間台地における地形の起伏が非常に激しく、複雑であることが分かった。

特に西都原台地の麓よりの 1 区から東側の台地縁辺に沿って併行する 2 区、1 区と 2 区の間を併行して通る A・B 区を調査したことで、各地点での地山の起伏を把握できた。

1 区から B 区にかけて地形は上がり、A 区にかけて下る。A 区での遺構検出面は現地表面から約 1.2m と最も深い。それが台地縁辺の 2 区にかけて再び地形が上がる。2 区における遺構(地山)検出面は現地表面から 30～40cm である。現在、削平や造成でその起伏は捉え難いが、遺構の分布や性格を考える際の留意点となる。

6. 石貫遺跡

17-1 区：1 区では、SA 群と掘方底面に配石が施された SD1 を検出した。SA は 6 世紀後半～7 世紀代のもので、17-1-14 地点で検出した SD1 は遺物がほとんど出土しておらず、不明な点が多いが、これまでに検出例のないもので、炭化物を多量に含む層が確認されたことから、火葬との関連性等を考えるうえでは注目される資料である。

SAは、17-1-C～E地点にかけて連続して検出され、逢初川を挟んで南側に位置する堂ヶ嶋遺跡で検出されたSA群と同時期のものとなる。17-1-E地点のSA1･2は重複しており、SJをもつ。

18-1 区:調査区は最も西都原台地の麓よりになる。出土遺物から推定できる年代としては古墳時代後期・平安時代・近世(18世紀後半)のものを検出した。

18-1-1～5地点までは近世の溝や現代の撹乱が多かったが、7地点からは13地点までは遺構密度が高く、鍵層であるアカホヤ火山灰層が地山としてしっかり残存していた。現地表面から約 0.8～0.9mでアカホヤ火山灰層に至る。

時期を推定できる遺構は、SH群やSEが主体であり、出土遺物は9世紀後半～末のもの、18世紀後半の陶磁器などである。18-1-12地点ではSA1と推測される掘方を検出したが、撹乱により正確な規模は分からない上、出土遺物からも時期を特定できない。15地点からは湿地帯か湧水点が付近にあるものと推測され、路盤の下は厚い黒色泥層が堆積していた。

成果としては旧地形の残存状況が比較的良好である点と平安時代の遺構がこの付近まで広がっていることが分かった点が挙げられる。

18-B 区:調査区は1区の枝線と南側にあたる地区である。ここで注目できるのは、中間台地において、弥生時代の遺構とそれに伴う遺物が出土したことである。

1区の南東側に位置する18-B-21地点～23地点では地形が緩やかに上がり、アカホヤ火山灰層は削平されており、その下層の褐色粘土層で遺構を検出している。路盤直下から弥生土器破片が出土し、18-B-22～23地点ではSAと考えられる遺構や土坑から弥生土器の在地系甕破片が出土する。時期は弥生中期末～後期前半にあたる。

寺崎遺跡や堂ヶ嶋遺跡においても弥生時代中期末～後期前半にかけてのSAやSCを中心とした遺構が確認されており、西都原台地面だけでなく、中間台地においても同時期の遺構が広がっていることが分る。

また、17-1-8地点SE1一括で小野分類C群の青花･皿、18-B-16地点でSE1一括であるが、小野分類B-1群の十字花文の青花･皿が破片であるが出土しており(7)、15世紀後半～16世紀といった時期の遺構も確認できる。

18-1-17･18地点：17･18地点から検出したSAは、カマドを有するタイプのものと思われるが、17-1-E地点でも同タイプのものを検出しており､時期も6世紀末～7世紀を中心とするものである。

19-C-5～7地点においても、SAを検出した。時期は、7世紀後半と考えられるが、埋土から出土する須恵器には、8 世紀後半の特徴をもつものもあり、奈良時代の遺構も上層に重複している可能性が高い。

以上、妻北地区に所在する6遺跡を調査した結果、特に注目すべき点は、6世紀～7世紀にかけての集落が逢初川河道縁辺を中心に、広範囲にわたって検出されることである。

今回調査対象の6遺跡において、SAは明確な検出例だけでも108軒を数えるが、その中で比較的時期が比定しやすい例のうち、約8割は6～7世紀のSAである。

西都原古墳群堂ヶ嶋支群や堂ヶ嶋第2遺跡で確認された地下式横穴墓群に対応する時期の集落が形成されていることがわかる。

また、8 世紀後半以降の集落を形成すると考えられる遺構も少数であるが検出され、上層の包含層出土遺物等を加えると、奈良･平安時代の遺構も、古くから注目されてきた、寺崎遺跡や上妻遺跡

だけでなく、堂ヶ嶋遺跡や法元遺跡を始め、童子丸遺跡や石貫遺跡にまで広がることが明らかとなり、今後は広範囲で国府の関連施設や機能を考える必要があるだろう。

註

(1)西都市教育委員会編「平田・童子丸線道路新設工事に伴う酒元遺跡の埋蔵文化財調査報告」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書　第8集』

(2)宮崎県教育庁文化財課　掘田孝博氏・宮崎県立西都原考古博物館　福田泰典氏から御教示頂いた。

(3 西都市教育委員会編『西都原古墳研究所・年報　第24号』2008年

(4)宮崎県教育委員会編『国衙・郡衙・古寺跡等範囲確認調査概要報告書Ⅲ』1994

蓑方政幾編『遺跡所在確認調査(市内遺跡発掘調査)事業に伴う発掘調査報告書』1991

(5)前掲　註3文献

(6)大分平野周辺で生産される豊後大分系の企救型甕に類似している。宮崎県埋蔵文化財センターの今塩屋毅行氏にご教示いただいた。「日向国における古代前期の土師器甕とその様相―時間軸の設定を目指して―」『古文化談叢第65集(3)』

(7)小野正敏「15～16世紀の染付碗・皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No2　1982

森　毅　「16世紀後半から17世紀初頭の陶磁器」『難波宮址の研究』第九　1992

Tab. 1　調査地点一覧

調査地点番号	遺跡名	遺構の種類	出土遺物	備考	担当
16 - 5 - 1	堂ヶ嶋遺跡	-	-		津曲
16 - 5 - 2	堂ヶ嶋遺跡	旧河岸	青磁片、土師器片	この地点より、湿地。地層なし。	〃
16 - 5 - 3	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
16 - 5 - 4	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
16 - 5 - 5	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
16 - 5 - 6	**堂ヶ嶋遺跡**	**-**	**陶磁器片**		〃
16 - 5 - 7	**堂ヶ嶋遺跡**	**-**	**土師器片**		〃
16 - 5 - 8	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
16 - 5 - 9	**堂ヶ嶋遺跡**	**-**	**土師器片**		〃
16 - 5 - 10	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
16 - 5 - 11	**堂ヶ嶋遺跡**	**-**	**土師器**		蓑方
16 - 5 - 12	堂ヶ嶋遺跡	-	土師器	旧可道	〃
16 - 5 - 13	堂ヶ嶋遺跡	-	土師器、須恵器	〃	〃
16 - 5 - 14	堂ヶ嶋遺跡	-	〃	〃	〃
16 - 5 - 15	堂ヶ嶋遺跡	-	土師器、須恵器、磁器	〃	〃
16 - 5 - 16	堂ヶ嶋遺跡	SE	土師器、須恵器、磁器、瓦		〃
16 - 5 - 17	堂ヶ嶋遺跡	-	土師器、須恵器、磁器		〃
16 - 5 - 18	堂ヶ嶋遺跡	SE	土師器、須恵器、磁器、陶器	8世紀末～9世紀のSE	〃
16 - 5 - 19	堂ヶ嶋遺跡	-	土師器、須恵器		〃
16 - 5 - 20	堂ヶ嶋遺跡	-	-	旧河道	津曲
16 - 5 - 21	堂ヶ嶋遺跡	-	-	〃	〃
17 - 4 - 1	堂ヶ嶋遺跡	-	陶磁器片・瓦片		蓑方
17 - 4 - 2	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - 4 - 3	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - 4 - 4	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - 4 - 5	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - 4 - 6	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - 4 - 7	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - 4 - 8	堂ヶ嶋遺跡	-	土師器片・須恵器片	旧河道	〃
17 - 4 - 9	堂ヶ嶋遺跡	-	-	旧河道	〃
17 - 4 - 10	堂ヶ嶋遺跡	-	-	旧河道	〃
17 - 5 - 1	堂ヶ嶋遺跡	-	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
17 - 5 - 2	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - 5 - 3	堂ヶ嶋遺跡	-	土師器片・陶磁器片		〃
17 - 5 - 4	堂ヶ嶋遺跡	SH	-		〃
17 - 5 - 5	堂ヶ嶋遺跡	-	土師器片・須恵器片		〃
17 - 5 - 6	堂ヶ嶋遺跡	SC	土師器片・須恵器片・陶磁器片	緑釉陶器出土。	〃
17 - B - 1	堂ヶ嶋遺跡	SE1・SZ1	土師器片		津曲
17 - B - 2	堂ヶ嶋遺跡	SH	土師器片・須恵器片・陶磁器片		蓑方
17 - B - 3	堂ヶ嶋遺跡	SA2・SH	土師器片・須恵器片		〃
17 - B - 4	堂ヶ嶋遺跡	SA	土師器片・須恵器片		〃
17 - B - 5	堂ヶ嶋遺跡	SA2・SE1・SH	土師器片・須恵器片		〃
17 - B - 6	**堂ヶ嶋遺跡**	**SO？（二重周溝）・SH**	**土師器片・須恵器片・陶磁器片・瓦片**	**古墳周溝の可能性あり。**	〃
17 - B - 7	堂ヶ嶋遺跡	SO？（二重周溝）・SH	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
17 - B - 8	堂ヶ嶋遺跡	SE・SH	-		〃
17 - B - 9	堂ヶ嶋遺跡	SE・SH	土師器片		〃
17 - B - 10	堂ヶ嶋遺跡	SE	土師器片・須恵器片		〃
17 - B - 11	堂ヶ嶋遺跡	-	土師器片・須恵器片		〃
17 - B - 12	堂ヶ嶋遺跡	-	-	旧河道	〃
17 - B - 13	堂ヶ嶋遺跡	-	土師器片・須恵器片		〃
17 - B - 14	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 15	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 16	堂ヶ嶋遺跡	-	-	旧河道	〃
17 - B - 17	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 18	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 19	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 20	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 21	**堂ヶ嶋遺跡**	**-**	**陶磁器片**		〃
17 - B - 22	堂ヶ嶋遺跡	SA1？・SZ1	土師器片	古墳時代前期の土師器。	津曲
17 - B - 23	堂ヶ嶋遺跡	SZ	土師器片・須恵器片・陶磁器片・石器		〃
17 - B - 24	堂ヶ嶋遺跡	SH・SE・SZ	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
17 - B - 25	堂ヶ嶋遺跡	SA1 ・SH	土師器片		〃
17 - B - 26	堂ヶ嶋遺跡	SA2・SJ・SE	土師器片・須恵器片(転用硯)	7世紀後半の埦転用。	〃
17 - B - 27	堂ヶ嶋遺跡	SE	-		〃
17 - B - 28	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 29	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃

調査地点番号	遺跡名	遺構の種類	出土遺物	備考	担当
17 - B - 30	堂ヶ嶋遺跡	-	-		津曲
17 - B - 31	堂ヶ嶋遺跡	SE	-		蓑方
17 - B - 32	堂ヶ嶋遺跡	SE	-		〃
17 - B - 33	堂ヶ嶋遺跡	SE	-		〃
17 - B - 34	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 35	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 36	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 37	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 38	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 39	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 40	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 41	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 42	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 43	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 44	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 45	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 46	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 47	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 48	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 49	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 50	堂ヶ嶋遺跡	-	-		蓑方
17 - B - 51	堂ヶ嶋遺跡	-	土師器片・須恵器片		〃
17 - B - 52	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 53	堂ヶ嶋遺跡	遺物包含層・SZ	土師器片・須恵器片・磁器	青磁・越州窯系？	津曲
17 - B - 54	堂ヶ嶋遺跡	遺物包含層・SH	土師器片・須恵器片		〃
17 - B - 55	堂ヶ嶋遺跡	SH群・SE	土師器片・須恵器片		〃
17 - B - 56	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 57	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
17 - B - 58	堂ヶ嶋遺跡	SZ	-	SZが重複。SAの可能性あり。	〃
18 - 3 - 1	堂ヶ嶋遺跡	-	-		蓑方
18 - 3 - 2	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
18 - 3 - 3	堂ヶ嶋遺跡	-			〃
18 - 3 - 4	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
18 - 3 - 5	堂ヶ嶋遺跡	SE	土師器片・陶磁器片	白磁	〃
18 - 3 - 6	堂ヶ嶋遺跡	SE	-		〃
18 - 3 - 7	堂ヶ嶋遺跡	SE2	土師器片・須恵器片	近世のSE	〃
18 - 3 - 8	堂ヶ嶋遺跡	SE2	土師器片・須恵器片・陶器片	〃	〃
18 - 3 - 12	堂ヶ嶋遺跡	-	-		津曲
18 - 3 - 13	堂ヶ嶋遺跡	SE	土師器片・陶磁器片	16地点までSEが続く。	〃
18 - 3 - 14	堂ヶ嶋遺跡	SE	瓦片		〃
18 - 3 - 15	堂ヶ嶋遺跡	SE	須恵器片・陶磁器片・硯		〃
18 - 3 - 16	堂ヶ嶋遺跡	SE・SH	-		〃
18 - 3 - 17	堂ヶ嶋遺跡	SH	-		蓑方
18 - 3 - 18	堂ヶ嶋遺跡	SA・SC	陶器片		〃
18 - 3 - 19	堂ヶ嶋遺跡	SE	陶磁器片		〃
18 - 3 - 20	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
18 - 3 - 21	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
18 - 3 - 22	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
18 - 3 - 23	堂ヶ嶋遺跡	SE	陶磁器片・瓦片		〃
18 - 3 - 24	堂ヶ嶋遺跡	SO・SH	-	6末～7世紀前半の古墳周溝	〃
18 - 3 - 25	堂ヶ嶋遺跡	SH	-		〃
18 - 3 - 26	堂ヶ嶋遺跡	SO・SC	陶磁器片	6末～7世紀前半の古墳周溝	〃
18 - 3 - 27	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
18 - 3 - 28	堂ヶ嶋遺跡	SE2	陶磁器片		〃
18 - 3 - 29	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
18 - 3 - 30	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
18 - 3 - 31	堂ヶ嶋遺跡	SE・SH	-		〃
18 - 3 - 32	堂ヶ嶋遺跡	SZ・SH	土師器片		〃
18 - 3 - 33	堂ヶ嶋遺跡	SH	-		〃
18 - 3 - 34	堂ヶ嶋遺跡	SH	-		〃
18 - 3 - 35	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
18 - 3 - 36	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
18 - 3 - 37	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
18 - 3 - 38	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
18 - 3 - 39	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
18 - 3 - 40	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
18 - C - 1	堂ヶ嶋遺跡	SZ	土師器片・陶器片	256号墳横。長沙窯黄釉褐彩破片出土。	津曲

調査地点番号	遺跡名	遺構の種類	出土遺物	備考	担当
18－C－2	堂ヶ嶋遺跡	SZ	須恵器片・陶磁器片		津曲
18－C－3	堂ヶ嶋遺跡	SE	須恵器片・陶磁器片		〃
18－C－4	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
18－C－5	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
18－C－6	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
18－E－2	堂ヶ嶋遺跡	SE・SD・SH	土師器片・須恵器片・磁器片・古銭	近世SD	〃
18－E－3	堂ヶ嶋遺跡	SE・SD・SH	土師器片・須恵器片・瓦片・石器	9世紀後半～10世紀のSE	〃
18－E－4	堂ヶ嶋遺跡	SE	土師器片・須恵器片・瓦片		〃
19－1－1	堂ヶ嶋遺跡	SE	陶磁器片		黒木
19－1－2	堂ヶ嶋遺跡	SA1	土師器片	6世紀後半	津曲
19－1－3	堂ヶ嶋遺跡	SA1	土師器片	6世紀	黒木
19－1－4	堂ヶ嶋遺跡	SH群	土師器片・須恵器片		〃
19－1－5	堂ヶ嶋遺跡	SA1	土師器片・須恵器片	6末～7世紀	〃
19－1－6	堂ヶ嶋遺跡	SA2	土師器片・須恵器片	7世紀	〃
19－1－7	堂ヶ嶋遺跡	SZ・SH	土師器片		津曲
19－1－8	堂ヶ嶋遺跡	SH群	土師器片・須恵器片		〃
19－1－9	堂ヶ嶋遺跡	SE・SH・SC	土師器片		〃
19－1－10	堂ヶ嶋遺跡	SH群	土師器片		〃
19－1－11	堂ヶ嶋遺跡	SA？	土師器片	7世紀	〃
19－1－12	堂ヶ嶋遺跡	SA1・SP	土師器片	7世紀後半	〃
19－1－13	堂ヶ嶋遺跡	SA2・SP	土師器片・須恵器片・弥生土器	6世紀後半～7世紀前半	〃
19－1－14	堂ヶ嶋遺跡	SA1	土師器片		〃
19－1－15	堂ヶ嶋遺跡	SH群・SB?	土師器片		〃
19－1－16	堂ヶ嶋遺跡	SE	土師器片		〃
19－1－17	堂ヶ嶋遺跡	SE2・SH	土師器片・須恵器片・瓦片		〃
19－1－18	堂ヶ嶋遺跡	SE・SH群	土師器片・須恵器片		〃
19－1－19	堂ヶ嶋遺跡	SH群	土師器片・須恵器片	7世紀後半	〃
19－1－20	堂ヶ嶋遺跡	SA2・SH	土師器、須恵器片	SAが重複する可能性。	〃
19－A－1	堂ヶ嶋遺跡	SH群・SC	土師器	9世紀後半～10世紀のSC	〃
19－A－2	堂ヶ嶋遺跡	SH群	土師器片・須恵器片		〃
19－A－3	堂ヶ嶋遺跡	SZ・SE2・SH	土師器片・須恵器片		〃
19－A－4	堂ヶ嶋遺跡	SH群	須恵器片		〃
19－A－5	堂ヶ嶋遺跡	SH・SZ	土師器片・須恵器片		〃
19－A－6	堂ヶ嶋遺跡	SZ	-		〃
19－A－7	堂ヶ嶋遺跡	SZ	土師器片・須恵器片・石器		〃
19－A－8	堂ヶ嶋遺跡	SE	-		〃
19－A－9	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
19－A－10	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
19－A－11	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
19－A－12	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
19－A－13	堂ヶ嶋遺跡	SE	-		〃
19－A－14	堂ヶ嶋遺跡	SH	-		〃
19－A－15	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
19－A－16	堂ヶ嶋遺跡	SE・SH	-		〃
19－A－17	堂ヶ嶋遺跡	SH群	土師器片・須恵器片		〃
19－A－18	堂ヶ嶋遺跡	SE・SH群・SZ	土師器片・須恵器片・瓦片	9世紀後半～10世紀	〃
19－A－19	堂ヶ嶋遺跡	SE・SZ・SH	土師器片・須恵器片	8世紀末の東九州系甕	〃
19－A－20	堂ヶ嶋遺跡	SH群・SE	土師器・須恵器破片・陶器片・鉄滓		〃
19－A－21	堂ヶ嶋遺跡	SE	土師器・須恵器破片・磁器片・瓦片・鉄滓		〃
19－A－22	堂ヶ嶋遺跡	-	土師器・須恵器破片		〃
19－A－23	堂ヶ嶋遺跡	SA1	土師器片・須恵器片・磁器片	SPをもつ。7世紀	〃
19－A－24	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
19－A－25	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
19－A－26	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
19－A－27	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
19－A－28	堂ヶ嶋遺跡	SE	-	SEが重複？	〃
19－A－29	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
19－A－30	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
19－A－31	堂ヶ嶋遺跡	SZ・SH	-		〃
19－A－32	堂ヶ嶋遺跡	SH・SC	-		〃
19－A－33	堂ヶ嶋遺跡	SC	-		〃
19－A－34	堂ヶ嶋遺跡	SC	土師器片		〃
19－A－35	堂ヶ嶋遺跡	SE・SH	-		〃
19－A－36	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
19－A－37	堂ヶ嶋遺跡	西都原245号墳SO端部	土師器片	6世紀後半の模倣坏	〃
19－A－38	堂ヶ嶋遺跡	SZ	-		〃
19－A－39	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃

調査地点番号	遺跡名	遺構の種類	出土遺物	備考	担当
19 - A - 40	堂ヶ嶋遺跡	SA1 ・SZ	土師器・瓦片	7世紀	津曲
19 - A - 41	堂ヶ嶋遺跡	SA1・SC・SH	土師器・須恵器・磁器	6世紀	〃
19 - A - 42	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
19 - A - 43	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
19 - A - 44	堂ヶ嶋遺跡	SZ	-		〃
19 - A - 45	堂ヶ嶋遺跡	SZ・SC・SH	土師器片・須恵器片・磁器・陶器		〃
19 - A - 46	堂ヶ嶋遺跡	SE(自然流路)	-		〃
19 - A - 47	堂ヶ嶋遺跡	〃	須恵器片・磁器片		〃
19 - A - 48	堂ヶ嶋遺跡	〃	瓦片・陶器片		〃
19 - A - 49	堂ヶ嶋遺跡	〃	-		〃
19 - A - 50	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
20 - 2 - 1	堂ヶ嶋遺跡	SZ	-		〃
20 - 2 - 2	堂ヶ嶋遺跡	SA1・SJ	土師器・須恵器・陶磁器	6後～7世紀	〃
20 - 2 - 3	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
20 - 2 - 4	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
20 - 2 - 5	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
20 - 2 - 6	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
20 - 2 - 7	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
20 - 2 - 8	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
20 - 2 - 9	堂ヶ嶋遺跡	SZ	土師器・須恵器・陶磁器		〃
20 - 2 - 10	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
20 - 2 - 11	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
20 - 2 - 12	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
20 - 2 - 13	堂ヶ嶋遺跡	SE・SH群	-		〃
20 - 2 - 14	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
20 - 2 - 15	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
20 - 2 - 16	堂ヶ嶋遺跡	SH群	-		〃
20 - 2 - 17	堂ヶ嶋遺跡	SH群・SC・SE	-		〃
20 - 2 - 18	堂ヶ嶋遺跡	SC4	陶磁器(すり鉢)	近世のSDか？	〃
20 - A - 1	堂ヶ嶋遺跡	SA1	土師器		〃
20 - A - 2	堂ヶ嶋遺跡	SA続き・SA1	土師器・須恵器	1地点から続くSA	〃
20 - A - 3	堂ヶ嶋遺跡	SH群・SA？	土師器		〃
20 - A - 4	堂ヶ嶋遺跡	SH	-		〃
20 - A - 5	堂ヶ嶋遺跡	SH群	-		〃
20 - A - 6	堂ヶ嶋遺跡	SH群・SZ	土師器	SAが重複する可能性。	〃
20 - A - 7	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
20 - A - 8	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
20 - A - 9	堂ヶ嶋遺跡	SE・SZ	-		〃
20 - A - 10	堂ヶ嶋遺跡	SE・SH	-		〃
20 - A - 11	堂ヶ嶋遺跡	-	-		〃
16 - D - 1	寺崎遺跡	SE	須恵器、瓦	旧河道	蓑方
16 - D - 2	寺崎遺跡	-	土師器、磁器	〃	〃
16 - D - 3	寺崎遺跡	-	土師器、須恵器	〃	〃
16 - D - 4	寺崎遺跡	-	-		〃
16 - D - 5	寺崎遺跡	-	土師器、磁器		〃
16 - D - 19	寺崎遺跡	SA2、SP、SC1	土師器(甕)・須恵器・石器	7世紀前半	津曲
18 - E - 1	寺崎遺跡	SC・SH群	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
19 - 2 - 1	寺崎遺跡	SE(幅広)	土師器、須恵器片、磁器片	白磁	〃
19 - 2 - 2	寺崎遺跡	SE2	-		〃
19 - 2 - 3	寺崎遺跡	SE2	土師器片・須恵器片・磁器		〃
19 - 2 - 4	寺崎遺跡	SE2	土師器片・須恵器片・磁器・瓦片	青磁	〃
19 - 2 - 5	寺崎遺跡	SZ・SH	土師器片・須恵器片・磁器	青磁	〃
19 - 2 - 6	寺崎遺跡	造成土	土師器片・須恵器片・瓦片・鉄滓		〃
19 - 2 - 7	寺崎遺跡	SZ・SH	土師器片・須恵器片・瓦片・磁器	白磁	〃
19 - 2 - 8	寺崎遺跡	SZ	土師器片・須恵器片・瓦片・陶器片		〃
19 - 2 - 9	寺崎遺跡	〃	-		〃
19 - 2 - 10	寺崎遺跡	SH	-		〃
19 - 2 - 11	寺崎遺跡	SZ・SB・SH	土師器片・須恵器片・瓦片	日向国府跡北側で同時期のSBか？	〃
19 - 2 - 12	寺崎遺跡	SH	-		〃
19 - 2 - 13	寺崎遺跡	SZ	-		〃
19 - 2 - 14	寺崎遺跡	SZ	土師器片・瓦片		〃
19 - 2 - 15	寺崎遺跡	-	-		〃
19 - 2 - 16	寺崎遺跡	-	-		〃
19 - 2 - 17	寺崎遺跡	-	-		〃
19 - B - 1	寺崎遺跡		-		黒木
19 - B - 2	寺崎遺跡	SE・SD・SH	古銭(寛永通宝)		〃
19 - B - 3	寺崎遺跡	SH・地形の落ち	土師器片・須恵器片・磁器片	5地点で地形が上がる。	津曲

調査地点番号	遺跡名	遺構の種類	出土遺物	備考	担当
19 - B - 4	寺崎遺跡	-	-		津曲
19 - B - 5	寺崎遺跡	地形の立ち上がり	須恵器片・砥石	幅広の区画か。	〃
19 - B - 6	寺崎遺跡	SE	土師器片・須恵器片・陶器片		〃
19 - B - 7	寺崎遺跡	SE	須恵器片・石錘・陶器片		〃
19 - B - 8	寺崎遺跡	SE	土師器片・土錘・須恵器片		〃
19 - B - 9	寺崎遺跡	SH	-		〃
19 - B - 10	寺崎遺跡	-	土師器片		〃
19 - B - 11	寺崎遺跡	-	-		津曲
19 - B - 12	寺崎遺跡	SZ	須恵器片		〃
20 - 1 - 1	寺崎遺跡	-	-		〃
20 - 1 - 2	寺崎遺跡	-	-		〃
20 - 1 - 3	寺崎遺跡	SZ	磁器	調査区南側に沿って検出	〃
20 - 1 - 4	寺崎遺跡	南北方向のSE	須恵器片		〃
20 - 1 - 5	寺崎遺跡	SH群・SC	縄文土器・須恵器		〃
20 - 1 - 6	寺崎遺跡	SA1・SH・SC	土師器・須恵器・瓦・石器・磁器		〃
20 - 1 - 7	寺崎遺跡	-	-		〃
20 - 1 - 8	寺崎遺跡	SH群・SC1	土師器		〃
20 - 1 - 9	寺崎遺跡	SH・SA1	土師器・須恵器・石器	9世紀後半～10世紀・上層に中世の遺物	〃
20 - B - 1	寺崎遺跡	東西方向のSE	土師器・須恵器・瓦・石斧		〃
20 - B - 2	寺崎遺跡	SH群・SE	土師器・須恵器		〃
20 - B - 3	寺崎遺跡	SH・SC・SE	土師器・須恵器		〃
20 - B - 4	寺崎遺跡	SH・SE2・SC	土師器・須恵器・石器		〃
20 - B - 5	寺崎遺跡	SH群・SE	土師器・須恵器		〃
20 - B - 6	寺崎遺跡	SE2・SH・SC	-		〃
17 - 6 - 1	上妻遺跡	-	-		〃
17 - 6 - 2	上妻遺跡	-	-		〃
17 - 6 - 3	上妻遺跡	SH・SC	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
17 - 6 - 4	上妻遺跡	遺物包含層	須恵器片・陶磁器片		〃
17 - D - 1	上妻遺跡	SC・SE	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
17 - D - 2	上妻遺跡	-	-		〃
18 - D - 1	上妻遺跡	SH	土師器片・須恵器片		蓑方
18 - D - 2	上妻遺跡	-	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
18 - D - 3	上妻遺跡	-	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
18 - D - 4	上妻遺跡	-	須恵器片・瓦・陶磁器・石器		〃
19 - D - 1	上妻遺跡	-	-		津曲
19 - D - 2	上妻遺跡	SE	土師器片・須恵器片・瓦片		〃
19 - D - 3	上妻遺跡	SZ	土師器片・須恵器片・瓦片・陶磁器片		〃
19 - D - 4	上妻遺跡	-	土師器片・須恵器片・陶磁器・石器		〃
20 - 3 - 1	上妻遺跡	SE2	土師器・須恵器	6世紀中葉・アカホヤ火山灰上層に遺構	〃
20 - 3 - 2	上妻遺跡	SH	土師器・瓦・石器	撹乱が著しい。	〃
20 - 3 - 3	上妻遺跡	-	土師器・須恵器・瓦	〃	〃
20 - 3 - 4	上妻遺跡	-	土師器・須恵器	〃	〃
20 - 3 - 5	上妻遺跡	SH	土師器		〃
20 - 3 - 6	上妻遺跡	SH・SE	土師器		〃
20 - 3 - 7	上妻遺跡	SH・SE・SC	土師器・須恵器		〃
20 - 3 - 8	上妻遺跡	SC・SH・SA？	土師器・瓦・陶磁器	SAの可能性あり。	〃
16 - 3 - 1	法元遺跡	遺物包含層	土師器、須恵器、磁器、陶器	旧河道？、同じ堆積層が6地点まで続く	蓑方
16 - 3 - 2	法元遺跡	〃	土師器、須恵器、磁器、陶器	白磁	〃
16 - 3 - 3	法元遺跡	〃	土師器、須恵器、磁器、陶器、瓦	緑釉陶器出土。	〃
16 - 3 - 4	法元遺跡	〃	土師器、須恵器、陶磁器、瓦		〃
16 - 3 - 5	法元遺跡	〃	土師器、須恵器、磁器、陶器、瓦		〃
16 - 3 - 6	法元遺跡	〃	土師器、須恵器、磁器、陶器		〃
16 - 3 - 7	法元遺跡	SE2	土師器、須恵器		〃
16 - 3 - 8	法元遺跡	SA2・SE2・SH	土師器、須恵器	SA1は張出しを有する。9世紀末のSA	〃
16 - 3 - 9	法元遺跡	SH	土師器、須恵器		〃
16 - 3 - 10	法元遺跡	SA2・SC・SH	土師器・須恵器・石器		〃
16 - 3 - 11	法元遺跡	SE	土師器、須恵器、磁器、瓦		〃
16 - 3 - 12	法元遺跡	古墳葺石・SO	土師器、須恵器、陶器、磁器	西都原259号墳	〃
16 - 3 - 13	法元遺跡	古墳墳丘	土師器、須恵器、陶器	〃	〃
16 - 3 - 14	法元遺跡	古墳葺石・SO	土師器、須恵器	〃	〃
16 - 4 - 1	法元遺跡	-	土師器、須恵器、磁器、陶器、瓦	旧河道？	〃
16 - 4 - 2	法元遺跡	-	土師器、須恵器、磁器、陶器、瓦	緑釉陶器片出土。	〃
16 - 4 - 3	法元遺跡	-	土師器、須恵器、陶器、瓦	旧河道	〃
16 - 4 - 4	法元遺跡	-	土師器、須恵器、磁器	旧河道	〃
16 - 4 - 5	法元遺跡	-			〃
16 - 4 - 6	法元遺跡	-	土師器、須恵器、磁器、陶器、瓦		〃
16 - 4 - 7	法元遺跡	不整形SC	土師器、磁器、陶器、打製石斧		〃

調査地点番号	遺跡名	遺構の種類	出土遺物	備考	担当
16 - 4 - 8	法元遺跡	-	-		蓑方
16 - 4 - 9	法元遺跡	-	-		〃
16 - 4 - 10	法元遺跡	SE	土師器、須恵器、磁器、陶器、石器		〃
16 - 4 - 11	法元遺跡	-	-		〃
16 - 4 - 12	法元遺跡	-	-		〃
16 - 4 - 13	法元遺跡	-	-		〃
16 - 4 - 14	法元遺跡	-	土師器、須恵器、陶器、打製石斧		〃
16 - 4 - 15	法元遺跡	-	土師器・須恵器・瓦・石器		〃
16 - 4 - 16	法元遺跡	SE・SH	〃		〃
16 - 4 - 17	法元遺跡	SE・SH	土師器、須恵器、石錘		〃
16 - 4 - 18	法元遺跡	SA・SE2・SH	土師器、須恵器、石錘		〃
16 - 4 - 19	法元遺跡	SE・SH	土師器、須恵器、陶器、瓦		〃
16 - 4 - 20	法元遺跡	SA・SJ・SH	土師器、須恵器、磁器、陶器、瓦、石錘		〃
16 - 4 - 21	法元遺跡	-	土師器、須恵器		〃
16 - 4 - 22	法元遺跡	SA・SE	土師器、須恵器、陶器、石斧	7世紀前半のSA	〃
16 - 4 - 23	法元遺跡	SA・SE・SD	土師器、須恵器		〃
16 - 4 - 24	法元遺跡	SA・SE	土師器、須恵器、磁器、石錘		〃
16 - 4 - 25	法元遺跡	SA2・SJ2・SE・SH	土師器、須恵器、磁器、石錘		〃
16 - 4 - 26	法元遺跡	SA2・SJ1	土師器、須恵器、瓦、石錘		〃
16 - 4 - 27	法元遺跡	SA・SJ・SD	土師器、須恵器、石錘	上層に13～14Cの包含層・SAは7世紀？	〃
16 - 4 - 28	法元遺跡	SC・SH	土師器、須恵器、磁器		〃
16 - 4 - 29	法元遺跡	SC・SH	土師器、須恵器		〃
16 - 4 - 30	法元遺跡	SE・SH	土師器、須恵器、磁器、陶器、石錘		〃
16 - 4 - 31	法元遺跡	SE	土師器、須恵器、磁器、瓦		〃
16 - C - 1	法元遺跡	SA1、SP　SH(方形掘方)	土師器(甕)破片、須恵器	7世紀後半・上層に近世？の遺構。	津曲
16 - C - 2	法元遺跡	SH、遺物包含層	土師器片、須恵器片	上層に平安時代の遺物包含層。	〃
16 - C - 3	法元遺跡	SA、SJ、SH	土師器片、須恵器片	複数のSAが重複するものと考えられる。	〃
16 - C - 4	法元遺跡	SJ、SH	土師器片、須恵器片、石器	複数のSAが重複する。	〃
16 - C - 5	法元遺跡	SA1、SH	土師器片、須恵器片	6世紀末～7世紀前半。焼土検出。	〃
16 - C - 6	法元遺跡	SH、遺物包含層	土師器片、須恵器片		〃
16 - C - 7	法元遺跡	SC、SH、SZ、遺物包含層	土師器片・須恵器片・石錘		〃
16 - C - 8	法元遺跡	SC、SH	土師器片、須恵器片		〃
16 - C - 9	法元遺跡	SH、遺物包含層	土師器片、須恵器片		〃
16 - C - 10	法元遺跡	SH、SZ(SA？)	土師器片、須恵器片		〃
16 - C - 11	法元遺跡	SH・SC・SA？	土師器片、須恵器片、磁器		〃
16 - C - 12	法元遺跡	SE・SH	土師器片、須恵器片		〃
16 - C - 13	法元遺跡	SE・SH	土師器片、須恵器片、陶磁器片		〃
16 - C - 14	法元遺跡	SE、SA1、SH	土師器片、須恵器片、石錘		〃
16 - C - 15	法元遺跡	SAの続き、SJ、SH	土師器片、須恵器片、土錘、石錘	14地点から続くSA1軒を検出。	〃
16 - C - 16	法元遺跡	SE	土師器片、須恵器片、石錘		〃
16 - C - 17	法元遺跡	SA1・SH	須恵器片、土師器片、石錘、鉄滓	18地点に続くSA1軒を検出。	〃
16 - C - 18	法元遺跡	SAの続き・SH・SC？	須恵器、土師器、瓦、石錘、鉄滓	9～10世紀の土師器埦がまとまって出土。	〃
16 - C - 19	法元遺跡	-	土師器片、須恵器片		〃
16 - C - 20	法元遺跡	SZ	石錘1		〃
16 - C - 21	法元遺跡	SH・SZ	土師器片、須恵器片、敲石		〃
16 - C - 22	法元遺跡	SH・SE・SZ	土師器片		〃
16 - C - 23	法元遺跡	SH・SE	土師器片、須恵器片		〃
16 - C - 24	法元遺跡	SH・SE	-		〃
16 - C - 25	法元遺跡	SZ	陶磁器片		〃
16 - C - 26	法元遺跡	SH・SE	土師器片		〃
16 - C - 27	法元遺跡	SH	-		〃
16 - C - 28	法元遺跡	SE・SH	土師器片、陶磁器片	このSEは30地点まで続いて検出。	〃
16 - C - 29	法元遺跡	SE	土師器片、陶磁器片、石器		〃
16 - C - 30	法元遺跡	SH、SE	-		〃
16 - C - 31	法元遺跡	-	-		〃
16 - C - 32	法元遺跡	SE	-		〃
16 - C - 33	法元遺跡	-	-		〃
16 - C - 34	法元遺跡	-	染付片		〃
16 - C - 35	法元遺跡	SH・SE・SZ	土師器片		〃
16 - C - 36	法元遺跡	SE	土師器片、染付片		〃
16 - D - 6	法元遺跡	SE	土師器		蓑方
16 - D - 7	法元遺跡	-	土師器、須恵器		〃
16 - D - 8	法元遺跡	-	土師器		〃
16 - D - 9	法元遺跡	SH	〃		〃
16 - D - 10	法元遺跡	-	土師器、須恵器、磁器、石錘		〃
16 - D - 11	法元遺跡	SC	土師器片		〃
16 - D - 12	法元遺跡	SE	土師器、須恵器		〃

調査地点番号	遺跡名	遺構の種類	出土遺物	備考	担当
16 - D - 13	法元遺跡	SE	土師器、須恵器、瓦、石錘		養方
16 - D - 14	法元遺跡	SA・SE・SH	土師器、須恵器、石錘	SEは18地点まで続く	〃
16 - D - 15	法元遺跡	SA・SE・SH	土師器、須恵器、磁器		〃
16 - D - 16	法元遺跡	SE・SH	土師器、須恵器、磁器、陶器、石錘		〃
16 - D - 17	法元遺跡	SE	土師器、須恵器、磁器、陶器		〃
16 - D - 18	法元遺跡	SE	土師器、須恵器、磁器		〃
17 - 3 - 1	法元遺跡	SE・SH	土師器片・須恵器片・石器・瓦片		〃
17 - 3 - 2	法元遺跡	SH	土師器片・須恵器片・陶磁器片・石器		〃
17 - 3 - 3	法元遺跡	SH	土師器片・須恵器片・陶磁器片・石錘		〃
17 - 3 - 4	法元遺跡	-	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
17 - 3 - 5	法元遺跡	-	土師器片・須恵器片・陶磁器片・石器		〃
17 - 3 - 6	法元遺跡	SA2・SJ1	土師器片・須恵器片・陶磁器片	7世紀のSA	〃
17 - 3 - 7	法元遺跡	SA・SP	土師器片・須恵器片・陶磁器片	SPの周囲から焼土検出	〃
17 - A - 4	法元遺跡	SE・SH・SZ・SC	土師器片・須恵器片・石器		津曲
17 - A - 5	法元遺跡	SA・SP・SH	土師器片・須恵器片		〃
17 - C - 1	法元遺跡	-	土師器片・須恵器片・陶磁器片		養方
17 - C - 2	法元遺跡	SA2	土師器片・須恵器片	2～9地点で16軒ものSA検出	〃
17 - C - 3	法元遺跡	SA2・SJ1	土師器片・須恵器片・石錘	6世紀後半のSA	〃
17 - C - 4	法元遺跡	SA3	土師器片・須恵器片	6世紀末～のSA	〃
17 - C - 5	法元遺跡	SA2・SJ2	土師器片・須恵器片・陶磁器片	7世紀のSA	〃
17 - C - 6	法元遺跡	SA2・SH	土師器片・須恵器片	〃	〃
17 - C - 7	法元遺跡	SA2・SJ1	土師器片・須恵器片・石錘	〃	〃
17 - C - 8	法元遺跡	SA2・SP1	土師器片	7世紀前半の SA	〃
17 - C - 9	法元遺跡	-	土師器片		〃
17 - C - 10	法元遺跡	-	土師器片・須恵器片		〃
17 - C - 11	法元遺跡	-	-		〃
17 - C - 12	法元遺跡	-	-		〃
17 - C - 13	法元遺跡	-	土師器片・須恵器片		〃
17 - C - 14	法元遺跡	SH	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
17 - C - 15	法元遺跡	-	-		〃
17 - C - 16	法元遺跡	SA・SH	土師器片・須恵器片		〃
17 - C - 17	法元遺跡	-	土師器片・須恵器片		〃
17 - C - 18	法元遺跡	SA	土師器片・須恵器片		〃
17 - C - 19	法元遺跡	SE	土師器片・須恵器片		〃
17 - C - 20	法元遺跡	-	-		〃
17 - C - 21	法元遺跡	-	-		〃
17 - C - 22	法元遺跡	-	-		〃
17 - C - 23	法元遺跡	SA・SP	土師器片・須恵器片	SPの南側から焼土検出	〃
17 - C - 24	法元遺跡	-	-		〃
17 - C - 25	法元遺跡	-	-		〃
17 - C - 26	法元遺跡	-	-		〃
17 - C - 27	法元遺跡	-	-		〃
17 - C - 28	法元遺跡	-	土師器片		〃
17 - C - 29	法元遺跡	-	-		〃
17 - C - 30	法元遺跡	-	-		〃
17 - C - 31	法元遺跡	-	土師器片・陶磁器片		〃
17 - C - 32	法元遺跡	-	-		〃
17 - C - 33	法元遺跡	-	-		〃
17 - C - 34	法元遺跡	-	-		〃
17 - C - 35	法元遺跡	-	-		〃
17 - C - 36	法元遺跡	-	土師器片・須恵器片		〃
17 - C - 37	法元遺跡	-	土師器片		〃
17 - C - 38	法元遺跡	-	土師器片・石器		〃
17 - C - 39	法元遺跡	-	土師器片		〃
17 - C - 40	法元遺跡	-	土師器片		〃
17 - C - 41	法元遺跡	-	土師器片・須恵器片		〃
17 - C - 42	法元遺跡	SC	土師器片・須恵器片		〃
17 - C - 43	法元遺跡	SE・SH	-		〃
17 - C - 44	法元遺跡	SH	-		〃
17 - C - 45	法元遺跡	SA3	土師器片・須恵器片・石器・陶磁器片	緑釉陶器・黒色土器出土。	津曲
17 - C - 46	法元遺跡	SE	土師器片・須恵器片		〃
17 - C - 47	法元遺跡	-	-		〃
16 - 1 - 1	童子丸遺跡	遺物包含層	陶磁器片、瓦破片、土師器片		〃
16 - 1 - 2	童子丸遺跡	遺物包含層	陶磁器片、瓦破片、土師器片		〃
16 - 1 - 3	童子丸遺跡	遺物包含層	陶磁器片、瓦破片、土師器片、須恵器片		〃
16 - 1 - 4	童子丸遺跡	-	土師器片、須恵器片		〃
16 - 1 - 5	童子丸遺跡	SE	土師器片		〃

調査地点番号	遺跡名	遺構の種類	出土遺物	備考	担当
16 - 1 - 6	童子丸遺跡	SZ	土師器(高坏)、須恵器片		津曲
16 - 1 - 7	童子丸遺跡	SA2・SE・SH	土師器(甕)、須恵器片		〃
16 - 1 - 8	童子丸遺跡	SA1	土師器、須恵器(坏蓋)		〃
16 - 1 - 9	童子丸遺跡	SE・SZ	土師器片、須恵器片		〃
16 - 1 - 10	童子丸遺跡	-	土師器片		〃
16 - 2 - 1	童子丸遺跡	-	-		〃
16 - 2 - 2	童子丸遺跡	-	-		〃
16 - 2 - 3	童子丸遺跡	-	-		〃
16 - 2 - 4	童子丸遺跡	-	-		〃
16 - 2 - 5	童子丸遺跡	SH	-		〃
16 - 2 - 6	童子丸遺跡	-	-		〃
16 - 2 - 7	童子丸遺跡	SH	土師器片		〃
16 - 2 - 8	童子丸遺跡	SE	土師器片	SEは9地点に続く。	〃
16 - 2 - 9	童子丸遺跡	SE・SZ	土師器片		〃
16 - 2 - 10	童子丸遺跡	SZ	土師器、須恵器破片		〃
16 - 2 - 11	童子丸遺跡	SE・SH	土師器、須恵器破片		〃
16 - 2 - 12	童子丸遺跡	SA	土師器、須恵器破片		〃
16 - 2 - 13	童子丸遺跡	-	-		〃
16 - B - 1	童子丸遺跡	遺物包含層	土師器片、須恵器片		〃
16 - B - 2	童子丸遺跡	遺物包含層	土師器片、須恵器片、砥石、陶磁器、染付		〃
16 - B - 3	童子丸遺跡	SE・SA1	土師器片、須恵器片、土師器(坏)	SA1 は4地点に続く。	〃
16 - B - 4	童子丸遺跡	近世SD、SH、SA(SJ付)	土師器(甕)、須恵器片、寛永通宝	6末～7世紀前半の住居跡。上層に近世。	〃
16 - B - 5	童子丸遺跡	SH・SA1(SJ付)	土師器片、須恵器片	上層に近世の遺物包含層。	〃
16 - B - 6	童子丸遺跡	SE・SH	-		〃
16 - B - 7	童子丸遺跡	SH3、SE	土師器片	SHは等間隔に並ぶ。	〃
16 - B - 8	童子丸遺跡	-	土師器片		〃
16 - B - 9	童子丸遺跡	遺物包含層	土師器片		〃
16 - B - 10	童子丸遺跡	遺物包含層	陶磁器、擂り鉢片		〃
16 - B - 11	童子丸遺跡	遺物包含層	須恵器片、陶磁器片、染付片		〃
16 - B - 12	童子丸遺跡	遺物包含層	須恵器片、染付片、陶磁器片		〃
16 - B - 13	童子丸遺跡	SE・SH	-		〃
16 - B - 14	童子丸遺跡	SE・SH	-		〃
16 - B - 15	童子丸遺跡	SE・SH	-		〃
16 - B - 16	童子丸遺跡	-	土師器破片		〃
16 - B - 17	童子丸遺跡	-	-		〃
16 - B - 18	童子丸遺跡	-	-		〃
17 - 1 - 1	童子丸遺跡	遺物包含層	陶磁器片・古銭・土師器片		〃
17 - 1 - 2	童子丸遺跡	遺物包含層	陶磁器片・土師器片		〃
17 - 1 - 3	童子丸遺跡	-	-		〃
17 - 1 - 15	童子丸遺跡	-	-		〃
17 - 1 - 16	童子丸遺跡	-	-		〃
17 - 1 - 17	童子丸遺跡	-	土師器片		〃
17 - 1 - 18	童子丸遺跡	-	土師器片		〃
17 - 1 - 19	童子丸遺跡	遺物包含層	土師器片・陶磁器片		〃
17 - 1 - 20	童子丸遺跡	SZ	土師器片・須恵器片・陶磁器片・瓦片・石器		〃
17 - 1 - 21	童子丸遺跡	SA？	土師器片・須恵器片・瓦		〃
17 - 1 - 22	童子丸遺跡	SE	土師器片・陶磁器片		〃
17 - 1 - 23	童子丸遺跡	SE	-		〃
17 - 1 - 24	童子丸遺跡	SE・SA1・SC	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
17 - 1 - 25	童子丸遺跡	SE	-		〃
17 - 2 - 1	童子丸遺跡	SE	土師器片・須恵器片・陶磁器片 ・ 瓦片	近世	〃
17 - 2 - 2	童子丸遺跡	-	-		〃
17 - 2 - 3	童子丸遺跡	-	-		〃
17 - 2 - 4	童子丸遺跡	-	-		〃
17 - 2 - 5	童子丸遺跡	SZ・SH	土師器片・須恵器片	SAが重複する可能性。	〃
17 - 2 - 6	童子丸遺跡	SZ・SH	土師器片・磁器	SAが重複する可能性。	〃
17 - 2 - 7	童子丸遺跡	遺物包含層	土師器片・須恵器片		〃
17 - 2 - 8	童子丸遺跡	SA1	須恵器片・石器		〃
17 - 2 - 9	童子丸遺跡	SH群	土師器片・須恵器片	SBを構成する可能性。	〃
17 - 2 - 10	童子丸遺跡	SA3	土師器片・須恵器片・石器	SA3軒検出。SA1は11地点にかかる。	〃
17 - 2 - 11	童子丸遺跡	SA2	土師器片・須恵器片・石器	10・11地点で合計4軒。	〃
17 - 2 - 12	童子丸遺跡	SA？・SH・SE	土師器片・陶磁器片・石器	SAの可能性あり。	〃
17 - 2 - 13	童子丸遺跡	-	-		〃
17 - 2 - 14	童子丸遺跡	-	-		〃
17 - 2 - 15	童子丸遺跡	-	-		〃
17 - 2 - 16	童子丸遺跡	SE	土師器片・須恵器片		〃
17 - 2 - 17	童子丸遺跡	-	-		〃

調査地点番号	遺跡名	遺構の種類	出土遺物	備考	担当
17-2-18	童子丸遺跡	-	-		津曲
17-2-19	童子丸遺跡	SE・SH群	土師器片・瓦片・陶磁器片・鉄器		〃
17-2-20	童子丸遺跡	SH群	土師器片・須恵器片・石器		〃
17-2-21	童子丸遺跡	SH	-		〃
17-2-22	童子丸遺跡	SH・SZ	土師器片		〃
17-2-23	童子丸遺跡	SA？	土師器片・須恵器片	複数のSAが重複する可能性。	〃
17-2-24	童子丸遺跡	大型SE	土師器片・須恵器片		〃
17-2-25	童子丸遺跡	-	-		〃
17-2-26	童子丸遺跡	-	-		〃
17-2-27	童子丸遺跡	-	-		蓑方
17-2-28	童子丸遺跡	-	-		〃
17-2-29	童子丸遺跡	SH	-		〃
17-2-30	童子丸遺跡	-	-		〃
17-2-31	童子丸遺跡	-	-		〃
17-2-32	童子丸遺跡	-	-		〃
17-2-33	童子丸遺跡	-	-		〃
17-2-34	童子丸遺跡	SH	-		〃
17-2-35	童子丸遺跡	SE	土師器片・須恵器片・石器		津曲
17-2-36	童子丸遺跡	-	-		〃
17-A-1	童子丸遺跡	SE	-		〃
17-A-2	童子丸遺跡	-	-		〃
17-A-3	童子丸遺跡	-	-		〃
17-A-6	童子丸遺跡	遺物包含層	土師器片・須恵器片		〃
17-A-7	童子丸遺跡	SA(SJ付)	土師器片・須恵器片	6世紀後半。	〃
17-A-8	童子丸遺跡	-	-		〃
17-A-9	童子丸遺跡	-	-		〃
18-2-1	童子丸遺跡	SE・SH群	須恵器片・陶磁器片・石錘		〃
18-2-2	童子丸遺跡	SH群	土師器片	SBを構成する可能性。	〃
18-2-3	童子丸遺跡	SA?・SE・SH・SZ	土師器片	SAの可能性あり。	〃
18-2-4	童子丸遺跡	SH・SZ	土師器片・陶磁器片		〃
18-2-5	童子丸遺跡	-	-		〃
18-2-6	童子丸遺跡	-	-		〃
18-2-7	童子丸遺跡	-	-		〃
18-2-8	童子丸遺跡	SH	-		〃
18-2-9	童子丸遺跡	SE	土師器片・須恵器片		〃
18-2-10	童子丸遺跡	SC・SZ	陶磁器片		〃
18-2-11	童子丸遺跡	SH・SZ	瓦片・須恵器片・土師器片		〃
18-2-12	童子丸遺跡	SC・SA・SZ	土師器片		〃
18-A-1	童子丸遺跡	SE	陶磁器破片		〃
18-A-2	童子丸遺跡	-	-		〃
18-A-3	童子丸遺跡	SA？	土師器甕破片・土師器・陶磁器片	8世紀末～の東九州系甕	〃
18-A-4	童子丸遺跡	-	-		〃
18-A-5	童子丸遺跡	-	-		〃
18-A-6	童子丸遺跡	-	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
18-A-7	童子丸遺跡	SA？	土師器片・須恵器片		〃
18-A-8	童子丸遺跡	SA1	土師器片	9地点に続く。	〃
18-A-9	童子丸遺跡	SA1・SZ	土師器片・須恵器片・陶磁器片・石器	8地点とあわせてSA1軒	〃
18-A-10	童子丸遺跡	SE・SH	土師器片・須恵器片		〃
18-A-11	童子丸遺跡	SH・SZ	土師器片		〃
18-A-12	童子丸遺跡	SA？・SH・SE	土師器片・須恵器片	SHから8世紀前半の埦蓋出土。	〃
18-A-13	童子丸遺跡	SE・SH群	土師器片・須恵器片		〃
18-A-14	童子丸遺跡	SH群	須恵器片		〃
18-A-15	童子丸遺跡	SC	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
18-A-16	童子丸遺跡	SE・SH	土師器片・須恵器片		〃
18-A-17	童子丸遺跡	SE・SZ・SH群	土師器片・須恵器片	地形が下がり、遺構検出面が深い。	〃
18-A-18	童子丸遺跡	SE	土師器片・須恵器片		〃
18-A-19	童子丸遺跡	SZ	土師器片・須恵器片		〃
18-A-20	童子丸遺跡	SA？・SH	土師器片・須恵器片		〃
18-A-21	童子丸遺跡	SH群	-		〃
18-A-22	童子丸遺跡	SH・SZ	土師器・須恵器・石器		〃
18-A-23	童子丸遺跡	SE・SH・SC	土師器片・須恵器片・石錘	24地点に続く。	〃
18-A-24	童子丸遺跡	SE・SH	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
18-A-25	童子丸遺跡	SE	須恵器片		〃
18-A-26	童子丸遺跡	SE	須恵器片・石器		〃
18-A-27	童子丸遺跡	SH群	土師器片・須恵器片		〃
18-A-28	童子丸遺跡	SZ・SC	須恵器片		〃
18-A-29	童子丸遺跡	SE・SC	須恵器片		〃

調査地点番号	遺跡名	遺構の種類	出土遺物	備考	担当
18 - A - 30	童子丸遺跡	SC・SH	縄文土器片・須恵器片・土師器片・古瓦片	急に地形が上がる。	津曲
18 - A - 31	童子丸遺跡	SZ・SH	-		〃
18 - A - 32	童子丸遺跡	SH・SE	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
18 - A - 33	童子丸遺跡	-	土師器片・陶磁器片		〃
18 - A - 34	童子丸遺跡	SZ・SH	土師器片		〃
18 - A - 35	童子丸遺跡	SE・SH	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
18 - A - 36	童子丸遺跡	SE	-		〃
18 - F - 1	童子丸遺跡	-	陶器片		蓑方
18 - F - 2	童子丸遺跡	SH	磁器片		〃
18 - F - 3	童子丸遺跡	-	-		〃
18 - F - 4	童子丸遺跡	-	-		〃
18 - F - 5	童子丸遺跡	SH	土師器片		〃
18 - F - 6	童子丸遺跡	SC	-		〃
18 - F - 7	童子丸遺跡	-	-		〃
18 - F - 8	童子丸遺跡	-	-		〃
18 - F - 9	童子丸遺跡	SC2・SH	-		〃
18 - F - 10	童子丸遺跡	焼礫・SE1・SC・SH	土師器片・製塩土器片		〃
18 - F - 11	童子丸遺跡	-	-		〃
18 - F - 12	童子丸遺跡	SC・SH	土師器片		〃
18 - F - 13	童子丸遺跡	-	-		〃
18 - F - 14	童子丸遺跡	SE・SH	縄文土器・土師器片・須恵器片		〃
18 - F - 15	童子丸遺跡	SE・SC・SH	縄文土器片・土師器片・古瓦片・石器		〃
18 - F - 16	童子丸遺跡	SE・SC・SH	土師器片・須恵器片・石器		〃
18 - F - 17	童子丸遺跡	SE・SH	弥生土器片・土師器片・土錘・石器		〃
18 - F - 18	童子丸遺跡	SE・SC・SH	-		〃
18 - F - 19	童子丸遺跡	SE・SH	-		〃
19 - C - 4	童子丸遺跡	-	-		津曲
19 - C - 9	童子丸遺跡	-	-		〃
19 - C - 10	童子丸遺跡	SH・SZ	-		〃
19 - C - 11	童子丸遺跡	SH	土師器片		〃
19 - C - 12	童子丸遺跡	SH	-		〃
17 - 1 - 4	石貫遺跡	-	-		〃
17 - 1 - 5	石貫遺跡	-	-		〃
17 - 1 - 6	石貫遺跡	-	-		〃
17 - 1 - 7	石貫遺跡	SE	土師器片・須恵器片・古銭		〃
17 - 1 - 8	石貫遺跡	SE	土師器片・須恵器片・陶磁器片・瓦・石	7世紀のSA	〃
17 - 1 - 9	石貫遺跡	SH	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
17 - 1 - 10	石貫遺跡	SE	土師器片・須恵器片・陶磁器片・鉄片	7世紀のSA	〃
17 - 1 - 11	石貫遺跡	SE・SH	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
17 - 1 - 12	石貫遺跡	-	-		〃
17 - 1 - 13	石貫遺跡	SE・SH	土師器片・須恵器片・陶磁器片・鉄器片		蓑方
17 - 1 - 14	石貫遺跡	SD	土師器片・須恵器片・炭		〃
17 - 1 - C	石貫遺跡	SA・SH	土師器片・須恵器片	SEはK地点まで続く	〃
17 - 1 - D	石貫遺跡	SA2・SC・SH	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
17 - 1 - E	石貫遺跡	SA2・SJ1・SH	土師器片・須恵器片		〃
17 - 1 - F	石貫遺跡	-	土師器片		〃
17 - 1 - G	石貫遺跡	SE	陶磁器片・鉄器片	旧河道	〃
17 - 1 - H	石貫遺跡	SE	土師器片・須恵器片・陶磁器片	〃	〃
17 - 1 - I	石貫遺跡	SE	土師器片・須恵器片・鉄器片	〃	〃
17 - 1 - J	石貫遺跡	SE	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
17 - 1 - K	石貫遺跡	SE	-		〃
17 - 1 - L	石貫遺跡	-	-		〃
17 - 1 - M	石貫遺跡	-	土師器片・陶磁器片		〃
17 - 1 - N	石貫遺跡	-	土師器片・陶磁器片	旧河道	〃
17 - 1 - O	石貫遺跡	-	-	旧河道	〃
17 - 1 - P	石貫遺跡	-	-	旧河道	〃
18 - 1 - 1	石貫遺跡	SE・SZ	須恵器・陶磁器片・石器		津曲
18 - 1 - 2	石貫遺跡	SE	土師器片・須恵器片・石錘		〃
18 - 1 - 3	石貫遺跡	SZ	土師器片・須恵器片		〃
18 - 1 - 4	石貫遺跡	〃	-		〃
18 - 1 - 5	石貫遺跡	SE(撹乱)	-		〃
18-1-5-2	石貫遺跡	SE(撹乱)・SC・SE	-		〃
18 - 1 - 6	石貫遺跡	SE(撹乱)・SC	石錘		〃
18 - 1 - 7	石貫遺跡	SE・SH群	土師器片		〃
18 - 1 - 8	石貫遺跡	SH群	-		〃
18 - 1 - 9	石貫遺跡	SE1・2・SH群	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
18 - 1 - 10	石貫遺跡	SH群	-		〃

調査地点番号	遺跡名	遺構の種類	出土遺物	備考	担当
18 - 1 - 11	石貫遺跡	-	土師器片・須恵器片		津曲
18 - 1 - 12	石貫遺跡	SH群・SE・SA1	土師器片		〃
18 - 1 - 13	石貫遺跡	SE・SH群	土師器片		〃
18 - 1 - 14	石貫遺跡	SH群	-		〃
18 - 1 - 15	石貫遺跡	-	-		〃
18 - 1 - 16	石貫遺跡	SA2	土師器片・陶磁器片	緑釉陶器片出土。	蓑方
18 - 1 - 17	石貫遺跡	SA	土師器片		〃
18 - 1 - 18	石貫遺跡	SH	-		〃
18 - 1 - 19	石貫遺跡	〃	-		〃
18 - 1 - 20	石貫遺跡	-	-		〃
18 - 1 - 21	石貫遺跡	SE・SH	土師器片		〃
18 - 1 - 22	石貫遺跡	-	-		津曲
18 - B - 1	石貫遺跡	-	-		〃
18 - B - 2	石貫遺跡	-	須恵器片		〃
18 - B - 3	石貫遺跡	-	-		〃
18 - B - 4	石貫遺跡	SH・撹乱(排水管)	土師器片		〃
18 - B - 5	石貫遺跡	SH・SZ	土師器片		〃
18 - B - 6	石貫遺跡	SE・SH・SC・SZ	須恵器片・土師器片・陶磁器片・石錘		〃
18 - B - 7	石貫遺跡	-	須恵器片		〃
18 - B - 8	石貫遺跡	SE・SH群	土師器片		〃
18 - B - 9	石貫遺跡	SH群	土師器片		〃
18 - B - 10	石貫遺跡	SA？・SH群	-		〃
18 - B - 11	石貫遺跡	SH群・SE	土師器片		〃
18 - B - 12	石貫遺跡	-	-		〃
18 - B - 13	石貫遺跡	SH・SC・SE	-		〃
18 - B - 14	石貫遺跡	SH・SZ・SE	-		〃
18 - B - 15	石貫遺跡	SH・SZ	土師器片・須恵器片		〃
18 - B - 16	石貫遺跡	SH・SE	土師器片・陶磁器片	染付(青花)16世紀前半。	〃
18 - B - 17	石貫遺跡	SE	土師器片・陶磁器片		〃
18 - B - 18	石貫遺跡	SE	土師器片・須恵器片・陶磁器片		〃
18 - B - 19	石貫遺跡	SE・SC	土師器片・須恵器片		〃
18 - B - 20	石貫遺跡	SH・SC・SA？	弥生土器片・土師器片・須恵器片	弥生時代中期末～後期前半の遺構	〃
18 - B - 21	石貫遺跡	SC・SH群	弥生土器・土師器片・石錘		〃
18 - B - 22	石貫遺跡	SA1・SE・SH	弥生土器片・土師器片・須恵器片	SA1 は23地点に続く。	〃
18 - B - 23	石貫遺跡	SA・SE・SC・SH群	縄文片・弥生片・土師器片・須恵器片		〃
18 - B - 24	石貫遺跡	SE・SC	土師器片・須恵器片		〃
18 - B - 25	石貫遺跡	SE	土師器片・須恵器片	このSEは28地点まで続く。	〃
18 - B - 26	石貫遺跡	SE	陶磁器片		〃
18 - B - 27	石貫遺跡	SE	-		〃
18 - B - 28	石貫遺跡	SE	縄土器片・土師器片・陶磁器片		〃
19 - C - 1	石貫遺跡	SC・SH・SE	土師器片・須恵器片		〃
19 - C - 2	石貫遺跡	SC・SE	土師器片・須恵器片		〃
19 - C - 3	石貫遺跡	SH	土師器片・須恵器片・磁器・陶器		〃
19 - C - 5	石貫遺跡	SE・SA1・SH	土師器片・須恵器片	撹乱の溝が8地点まで検出。	〃
19 - C - 6	石貫遺跡	SE・SA1・SH	土師器片・瓦片		〃
19 - C - 7	石貫遺跡	SE・SA・SH	土師器片・須恵器片		〃
19 - C - 8	石貫遺跡	SE・SZ・SH	土師器片		〃

Tab. 2　土製品

No	出土位置	種別	法量(cm) 長軸	幅	色調	調整・整形手法	備考
135	20-2-2 SJ	土製支脚	10.8	6.0	10YR8/4	粘土板丸め、ナデ、面取り	堂ヶ嶋遺跡。
169	19-D-19 SA2	土製支脚		5.0	10YR7/4	粘土板丸め、ナデ、オサエ	残1/3・寺崎遺跡。
368	16-4-25 SA1	土製支脚	8.5	3.5	10YR7/3～5/1	粘土板丸め、ナデ	端部が凹・法元遺跡。

Tab. 3　土錘

No	出土位置	種別	法量(cm) 長軸	幅	孔径	重量(g)	色調	備考
163	16-D-3 一括	土錘	4.1	1.6	0.6	11.26	7.5YR6/4	堂ヶ嶋遺跡。
244	20-B-4 SD1	土錘		2.1	0.8	15.4	7.5Y9/6	残2/3。寺崎遺跡。
470	16-C-15 4層	土錘	5.4	2.1	0.7	19.96	10YR7/4	法元遺跡。
548	17-3-1 SP2	土錘		2.1	0.7	14.07	10YR8/3～6/1	残1/2。法元遺跡。
549	17-3-2 SP5	土錘	3.9	2.0	0.6	11.41	10YR8/3	法元遺跡。
550	17-3-5 ④	土錘		2.4	0.7	24.82	7.5YR6/4	法元遺跡。
612	17-C-45 SA1	土錘		1.5	0.5	6.3	10YR7/3	法元遺跡。
613	17-C-45 SA1	土錘	4.3	1.5	0.5	7.83	10YR7/3	残1/2以下。法元遺跡。
743	18-A-10 SE1	土錘	3.6	0.8	0.3	2.56	10YR8/4	残1/2以下。

Tab. 4　　土器類観察表

No.	出土地点・遺構	器種	部位	法量(cm)				調整・文様等		色調		備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面	
1	17-B-3 SA1	土・皿	底部		11.3			回転ヘラ削り・回転ヘラ切り	回転ナデ	5YR6/6	5YR6/6	8C
2	17-B-3 SA1	須・埦蓋	蓋部	17.3				回転ヘラ削り・回転横ナデ	回転横ナデ	N4/	N4/	8C
3	17-B-3 SA2	須・甕	胴部破片					格子目叩き	同心円当具痕	7.5Y6/1	7.5Y7/1	8C
4	17-B-3 SH1	須・埦	底部		9.9			回転横ナデ・回転ヘラ削り	回転横ナデ	7.5Y7/1	7.5Y6/1	8C
5	17-B-4 SA1	須・坏	口～受	12.9(口)・14.0(受)				回転横ナデ・回転ヘラ削り	回転横ナデ	7.5Y5/1	7.5Y5/1	TK209
6	17-B-5 SA1	土・坏	口～胴	17.0				摩滅	ミガキ状ナデ	10YR6/3	10YR6/3	7C初頭
7	17-B-5 SA1	須・蓋	天～口	11.8	3.0			灰かぶり	回転横ナデ・不定ナデ	7.5Y7/1	7.5YR7/1	7C後半
8	17-B-5SA1一括	須・埦	胴～底		9.0			回転ヘラ削り・横ナデ・ヘラ切り	回転横ナデ・不定ナデ	5Y5/1	5Y6/1	7C後半
9	17-B-5　一括	土・坏	底部		8.0			回転横ナデ・回転ヘラ削り	回転横ナデ・不定ナデ	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7C後半
10	17-B-5 SE1	土・短頸壺	口～胴	11.1			10.4	回転横ナデ・横ナデ・斜めナデ	回転横ナデ・横ミガキ	10YR3/1	10YR5/2	7C後半
11	17-B-22　SA1	土・壺	口					工具横ナデ	工具横ナデ	10YR8/4	10YR8/3	4C後半
12	17-B-22　SA1	土・小型丸底壺	口～底	8.6	2.3	8.5	8.3	横ミガキ・縦ミガキ後ナデ	斜めミガキ・ナデ・指オサエ	2.5Y6/4・5YR6/6	5YR6/6	4C後半・赤色塗彩・黒班有
13	17-B-22　SA1	土・高杯	脚		12.4			横ナデ	横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	4C後半・精良胎土
14	17-B-22　SA1	土・壺	口～頸					ナデ	不定ナデ	10YR8/3	10YR8/2	4C後半
15	17-B-22　SZ1	土・坏	口～底	10.3	6.0	2.3		回転横ナデ・回転ヘラ切り	回転横ナデ・不定ナデ	5YR6/6	5YR6/6	11C～12C？
16	17-B-23　SZ1	須・埦	底		10.2			回転ヘラ削り・回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	5Y5/1・6/1	5Y6/1	7C後～8C前
17	17-B-25　SA1	土・高杯	脚		13.6			横ナデ	横ナデ	10YR6/1	7.5YR7/4	
18	17-B-25　SA1	土・埦	底		7.6			回転横ナデ・回転ヘラ切り	回転横ナデ	7.5YR8/6	7.5YR8/6	9C後～10C前
19	17-B-26　SA1	須・埦	胴～底		7.4			回転横ナデ・回転ヘラ削り	不定ナデ・磨痕	5Y4/1	5Y4/1	7C後半・転用硯
20	17-B-26 SA1カマド	土・甕	口～胴	17.0			14.3	回転ナデ・工具タテナデ	工具横ナデ	5YR6/4・7.5YR7/4	10YR7/4～6/4	6C後
21	17-B-53 SZ	土・埦	胴～底		7.1			回転横ナデ・回転ヘラ削り	回転ナデ	7.5YR7/4	7.5YR7/4	9C後～10C前
22	17-B-53 SZ	土・埦	胴					摩滅・底部花弁状ナデ	ミガキ・内黒	7.5YR7/6	2.5Y3/1	9C後～10C前
23	17-B-53 SZ	土・坏	底		5.5			回転横ナデ	回転ヘラ切	7.5YR6/6	7.5YR7/6	9C後～10C前
24	17-B-54 SH1	土・埦	胴～底		8.4			回転横ナデ	回転横ナデ	10YR7/4	7.5YR6/6	底部中央穿孔
25	17-B-54 SH2	土・埦	胴～底		8.2			回転横ナデ・花弁状ナデ	ミガキ状ナデ・赤色塗彩	7.5YR7/6	5YR6/6	10C前・外来系？
26	17-B-54 SH2	土・坏	胴～底		7.0			摩滅・円盤状高台	回転横ナデ	7.5YR7/6	10YR7/4	10C前
27	17-B-54 包含層	土・坏	胴～底		6.4			摩滅	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	底部中央穿孔
28	17-B-54 包含層	土・埦	底		6.4			回転横ナデ・黒色処理・高台内指頭圧痕	摩滅・黒色処理	7.5Y3/1	7.5Y3/1	10C・黒色土器
29	17-B-54 包含層	土・坏	底		5.8			回転ヘラ切	摩滅	7.5YR8/6	7.5YR8/6	9C後～10C前
30	17-B-54 包含層	土・埦	底		7.4			回転横ナデ・ヘラ切後ナデ	回転横ナデ	7.5YR8/6	7.5YR8/6	9C後～10C前
31	18-3-7 一括	土・埦	底		8.0			回転横ナデ	回転ヨコナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9C後～10C前
32	18-3-8 SE2	須・蓋	天					回転横ナデ・回転ヘラ削り	回転横・後不定ナデ	5Y7/1～6/1	5Y5/1	8C・つまみ径2.2
33	18-3-32 一括	土・甕	底		7.8			不定ナデ	摩滅	10YR8/4	10YR8/4	粗粒・赤褐色粒
34	18-C-1 包含層	土・高盤	胴～底		9.9			オサエ・回転ヘラ削り・ヨコナデ	粗い横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR3/1	9C後半
35	18-C-1 包含層	土・坏	胴～底		7.2			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR8/8	7.5YR8/8	9C後・円盤状高台
36	18-C-1 包含層	土・埦	胴～底					回転横ナデ・回転ヘラ切	不定ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9C後半
37	18-C-1 包含層	土・埦	胴～底		7.0			回転横ナデ	回転横ナデ	7.5YR6/6	7.5YR6/6	9C後半
38	18-C-1 包含層	陶・水注	胴部破片					褐色釉　貼花文(人物)	灰釉が一部かぶる。横ナデ	10YR5/6	2.5Y7/2	中国　長沙窯黄釉褐彩・9C
39	18-C-2 SE1	須？・甕	頸～胴					回転横ナデ・格子目叩	横ナデ・波状当具・ナデ	2.5Y5/2	2.5Y6/1	軟質焼成・8C
40	18-E-3 SE1	土・甕	頸～胴					横ナデ	摩滅・縦ナデ	10YR8/4	7.5YR7/6	
41	18-E-3 SE1	土・坏	底		6.8			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9C後～10C前
42	18-E-3 SE1	土・坏	胴～底		6.8			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	9C後～10C前
43	18-E-4 SE1	土・坏	胴～底		7.2			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR6/6	7.5YR6/6	10C前
44	18-E-4 SE1	土・坏	底		6.2			回転横ナデ	回転横ナデ	10YR7/4	10YR7/3	10C前
45	19-1-2 SA1	土・甕	口～底	22.4	3.5	25	23.7	横ナデ・格子目叩・ナデ	横ナデ・斜工具ナデ	7.5YR8/6	7.5YR8/6	6世紀中・外面叩き調整
46	19-1-2 SA1	土・甕	口～底	18.9	5.5	27.4	24.0	横ナデ・叩き？後不定ナデ	斜・横工具ナデ	10YR7/3	10YR8/4	6後半
47	19-1-2 SA1	土・甕	口～頸	22.5				回転横ナデ	回転横ナデ・工具ナデ	10YR7/4	10YR7/4	6後半
48	19-1-2 SA1	土・甕	口～肩	18.8				回転横ナデ・斜工具ナデ	回転横ナデ・工具横ナデ	10YR8/4	10YR8/4	6後半
49	19-1-2 SA1	土・高杯	坏底～脚					縦ミガキ	横ミガキ・オサエ	5YR5/4	5YR5/4	6C後
50	19-1-2 SA1	土・高坏	坏底～脚					横ナデ・縦ナデ	摩滅	7.5YR7/6	7.5YR7/6	6C末

No.	出土地点・遺構	器種	部位	法量(cm)				調整・文様等		色調		備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面	
51	19-1-2 SA1	土・甕	口～頸	21.2				口縁端部まで叩き・横ナデ	横・斜工具ナデ	10YR8/3	10YR7/4	6C中葉
52	19-1-2 SA1	土・甕	口～胴	13.1			13.3	横ナデ・縦ナデ	横工具ナデ・縦工具ナデ	10YR8/4	10YR8/4	6C末～７C前
53	19-1-2 SA1	土・甕	底部		7.3			不定ナデ	工具横ナデ	10YR8/4	2.5Y2/1	6C中葉
54	19-1-5 SA2	須・壷	頸					回転横ナデ	回転横ナデ・波状当具痕	7.5Y5/1	7.5Y5/1	7C？
55	19-1-4 一括	須・甕	胴破片					平行叩き	波状当て具痕	5Y8/2	7.5YR6/6	8C
56	19-1-2 SA1	土・甕	口～胴	22.8				横ナデ・工具横ナデ	横ナデ・縦ナデ	10YR8/4	10YR8/4	6C末
57	19-1-3 SA1	土・甕	胴～底		13.2		26.3	強い縦ナデ・不定ナデ	工具横ナデ	10YR5/4	10YR5/4	7C前半
58	19-1-5 SA2	土・甕	口	17.4				横ナデ・縦ナデ	横ナデ	10YR8/4	10YR8/4	7C前半
59	19-1-5 SA2	土・甕	口	16.0				横・縦ナデ	横ナデ・縦ナデ	10YR8/3	10YR8/3	6C末～７C前
60	19-1-3 SA1	土・甕	胴～底		10		24.3	工具縦・斜めナデ・底部付近不定ナデ	工具横ナデ・底部強いオサエ・縦ナデ	10YR8/4	10YR8/4 10YR5/1	7C前半
61	19-1-5 SA2	土・高杯	脚部		11.2			横ナデ	横ナデ	10YR8/4	10YR8/2	7C前半
62	19-1-5 SA2	土・甕	底		11.0			横ナデ・縦ナデ	縦ナデ	10YR7/3	10YR7/4 10YR4/1	7C前半
63	19-1-5 SA2	土・甕	底		6.5			摩滅・横ナデ	縦ナデ	10YR8/4	10YR8/4	7C前・木の葉底
64	19-1-5 SA1	土・片口鉢	口～底	21.1	9.9	13.5		横ナデ・後縦・横ミガキ	横ナデ・斜めナデ・横ミガキ・縦ナデ	10YR8/4	10YR8/3 ～5/1	7C前・木の葉底
65	19-1-5 SA1	土・甕	胴～底		12・0			工具縦ナデ・不定ナデ	横ナデ・縦・斜めナデ	10YR8/4	10YR8/4	7C前・木の葉底
66	19-1-5 SA2	土・甕	口～胴	14.8				横ナデ	摩滅	10YR8/3 ～8/4	10YR8/3 ～8/4	7C前半
67	19-1-6 SA2	土・坏	口～底	17.0	10.3	5.0		回転横ナデ・ヘラ切後ナデ	回転横ナデ	10YR7/6	10YR7/6	8C中～後半
68	19-1-6 SA2	土・坏	口～底	11.6	7.6	3.5		回転横ナデ・ミガキ	回転横ナデ	10YR6/6	10YR6/6	8C後半
69	19-1-6 SA2	須・埦蓋	天					回転横ナデ・回転ヘラ削り	回転横ナデ	2.5Y7/3	10YR6/4	8C後半
70	19-1-6 SA2	須・坏身	口～底	9.8	7.0	3.5		回転横ナデ・回転ヘラ切話	回転横ナデ・不定ナデ	N7/灰白	N7/	TK217新
71	19-1-6 SA1	須・甕	胴破片					擬格子目叩きのちカキ目	同心円当具痕	10Y7/1	5Y5/1	6C後～7C
72	19-1-6 SA1	須・甕	胴破片					格子目叩き	車輪状当具後ナデ	7.5Y6/1	7.5Y6/1	9C
73	19-1-12 SA1	土・長胴甕	胴～底		10.2		15.0	縦工具ナデ	縦工具ナデ	10YR6/3 ～7/3	10YR5/2	土器埋設炉・7C後
74	19-1-12 SA1	土・小型甕	底		3.5			摩滅	摩滅	10YR8/6	10YR8/6	7C？木の葉底
75	19-1-8 SA1	土・坏	口～底	13.9	10.0	4.0		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	10YR8/4	10YR8/4	8C後半
76	19-1-8 SA1	須・壷	口	13.6				回転横ナデ	回転横ナデ	N4/	N4/	8C？
77	19-1-9 SH3	土・坏	口～胴	13.9				ミガキ・摩滅	摩滅	10YR6/6	7.5YR5/6	7C
78	19-1-11 SA1	土・甕	胴～底		3.9			斜め工具ナデ・木の葉底後ナデ	横ナデ・縦ナデ	10YR7/4	10YR6/3	7C後半・木の葉底
79	19-1-7 検出面	土・高杯	脚部		12.9			強い縦ナデ・横ナデ	横ナデ・縦ナデ(接合部)	10YR8/3	10YR8/3	7C前半
80	19-1-7 SA1	土・甕	底		7.0			縦ナデ・横ナデ	縦ナデ	10YR7/3	5Y	7C前・木の葉底
81	19-1-13 SA2	土・甕	頸～底				22.8	回転横ナデ・縦工具ナデ・斜めナデ	横ナデ・強い工具横ナデ	10YR7/3 ・5YR6/6	7.5YR7/4	土器埋設炉・6C中～後
82	19-1-13 SA1	土・甕	胴部破片					摩滅	ヨコナデ	7.5YR7/4	2.5Y7/4	6C後半
83	19-1-13 SA1	製塩土器	口～胴	15.4				ナデ	布痕	7.5YR7/6	7.5YR7/6	古代
84	19-1-13 SA1	土・高杯	口～脚	13.8	7.7	8.2		細ミガキ・粗ミガキ・縦ナデ・ナデ	ナデ・横ミガキ・縦ナデ	7.5YR7/8	5YR6/8	6C後半
85	19-1-13 SA1	須・坏身	口～胴	12.6				回転横ナデ	回転ヨコナデ	N5/	N5/	MT85～TK43
86	19-1-13 SA1	弥生・壷	胴破片					凸帯・貼付・カキ目	摩滅	10YR5/4	10YR7/4	弥生中期末～
87	19-1-18 SE1	土・甕	底部		10.4			横ナデ・強いナデ	縦斜めナデ	10YR8/6	10YR7/4	6C～7C・木の葉底
88	19-1-18 SH1	須・盤	口	19.6				回転横ナデ・回転ヘラ削り	回転横ナデ	2.5Y8/2	2.5Y8/2	8後～9C
89	19-1-18 SH1	須・埦	底		8.5			回転横ナデ	回転横・不定ナデ	5Y6/1～ 6/2	5Y7/1～ 6/2	9C前
90	19-1-19 SH1	須・埦	底		9.0			回転横ナデ	回転横・不定ナデ	10Y4/1	10Y4/1	7C後半
91	19-1-19 SH1	土・高杯	接合部					ナデ	不定ナデ・赤色塗彩	7.5YR8/6	10YR7/3	7C後半
92	19-1-20 SA1	土・甕	口～胴	20.0				横ナデ・斜め・横工具ナデ	横ナデ・斜め工具ナデ	10YR8/3	10YR7/3	6C後半
93	19-1-20 SA1	土・甕	口	18.8				横ナデ・オサエ・工具ナデ	横ナデ・工具ナデ	7.5YR8/4	7.5YR8/4	6C末～７C前
94	19-1-20 SA1	土・甕	底		10.4			縦ナデ・格子目叩き	不定ナデ	10YR8/4	10YR6/2 ～5/1	6C中葉～後半
95	19-1-20 SA1	土・甕	底		12.2			接合痕が見える・粗ナデ	工具ナデ・横ナデ	10YR8/3	10YR4/1	6C後～7C前
96	19-1-20 SA1	土・甕	底		11.1			ナデ	不定ナデ	10YR8/4	10YR8/4	6C後～7C前
97	19-1-20 SA1	須・坏身	口～底	12.3	7.0	4.0		回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ	5PB7/1	5PB	MT85
98	19-1-20 SA1	土・甕	口～胴	18.0				横ナデ・縦ナデ	横ナデ・斜め工具ナデ	10YR7/4 ～3/1	10YR8/3～	6C末～７C前
99	19-1-20 SA1	土・甕	口～胴	18.0				回転横ナデ・格子目叩	横ナデ・斜め工具ナデ	10YR8/3	10YR7/4	6C後半
100	19-1-20 SA1	土・甕	口	17.0				横ナデ・摩滅	摩滅	10YR8/3	10YR8/3	6C末～７C前
101	19-1-20 SA1	土・甕	口～胴	29.0				横ナデ・縦ナデ・工具ナデ	横ナデ・工具横・斜めナデ	10YR8/3	10YR8/2	6C中～後半
102	19-1-20 SA1	土・甕	底		7.4			不定ナデ・格子目叩き	不定ナデ・オサエ	10YR8/3	10YR7/4	6C後半
103	19-1-20 SA1	土・高杯	口～底	18.2	20.8	16.4		横ナデ・横ミガキ・摩滅	横ナデ・横ミガキ	2.5YR5/6	7.5YR6/6	6C後半

No.	出土地点・遺構	器種	部位	法量(cm)				調整・文様等		色調		備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面	
104	19-1-20 SA1	土・甕	胴～底		14.0			不定ナデ・縦ナデ	縦工具ナデ・横工具ナデ	10YR8/4	10YR7/2～5/1	木の葉底をナデ消す・6C後半
105	19-1-20 SA1	土・壷	口	11.1				摩滅	摩滅	7.5YR8/4	7.5YR8/4	6C後半
106	19-1-20 SA1	土・甕	底		8.2			強い横ナデ・ナデ	オサエ	10YR8/3	10YR4/1	6C後半
107	19-1-20 SA1	土・壷	胴				15.0	横ナデ・叩き	横ナデ・縦ナデ	10YR8/3	10YR8/2	6C後半
108	19-A-1 SH3	土・坏	口～底	15.5	8.0	4.6		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9C後～10C前
109	19-A-1 SH3	土・坏	口～底	13.7	7.4	4.2		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	7.5YR7/6	5YR7/6	9C後～10C前
110	19-A-1 SH3	土・坏	口～底	13.6	7.8	3.5		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/4	10YR8/4	9C後～10C前
111	19-A-1 SH1	土・坏	胴～底		6.6			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	5YR6/6	7.5YR8/4	9C後～10C前
112	19-A-1 SH1	土・埦	胴～底		9.2			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR8/6	7.5YR8/6	9C後～10C前
113	19-A-1 SH3	土・坏	底		9・8			回転横ナデ	回転横ナデ	10YR8/3	10YR8/3	9C後～10C前
114	19-A-1 SH3	土・坏	口～底	14.2	8.7	3.9		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/4	10YR8/4	9C後～10C前
115	19-A-1 SH1	土・坏	胴～底		7.7			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR8/6	7.5YR8/6	9C後～10C前
116	19-A-1 SH1	土・坏	胴～底					回転横ナデ・不定ナデ	回転横ナデ	7.5YR8/4	10YR8/3	9C後～10C前
117	19-A-2 SH4	土・埦	胴					回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	5YR6/6	5YR6/6	8C
118	19-A-4 SH5	須・水瓶	口～胴	10.5				回転横ナデ	回転横ナデ・しぼり痕	10Y6/1	10Y6/1	8C
119	19-A-18 SZ1	土・埦	胴～底		9.0			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/4	10YR8/4	9C後～10C前
120	19-A-18 SZ1	土・埦	胴～底		8.0			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	9C後～10C前
121	19-A-18 SZ1	土・坏	口～底	10.0	5.2	3.1		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5TR8/6	7.5TR8/6	9C後～10C前
122	19-A-18 SZ1	土・坏	口～底	10.7	5.2	3.4		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR8/6	7.5YR8/6	9C後～10C前
123	19-A-19 SA1	土・甕	口～頸	23.0				横ナデ	横ナデ	7.7YR4/4	7.7YR4/4	外来系の胎土・豊後大分系企救型甕破片　8c末
124	19-A-23 SA1	土・甕	胴				21.6	縦の工具ナデ	横の工具ナデ	7.5YR7/8～6/3	7.5YR7/6	7C後半
125	19-A-23 SA1	土・甕	胴～底		7.6			縦の工具ナデ	摩滅・横ナデ	10YR6/3	10YR5/2	7C後半・木の葉底
126	19-A-34 SD1	土・坏	口～底	12.8	7.6	4.5		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	10C前半
127	19-A-37 SN	土・坏蓋	天～口	13.6		4.3		不定方向のミガキ・横ミガキ	ミガキ・摩滅	5YR5/4・10YR8/4	2.5YR5/6	模倣坏・6C後半
128	19-A-40 SA1	土・坏	口～底	12.2	6.2	3.9		横ナデ・ミガキ状ナデ	横ナデ・ミガキ・黒色処理	10YR7/4	5Y2/1	黒色土器・9～10C
129	19-A-41 SA2	土・甕	底		4.8			縦ナデ・不定ナデ	横ナデ	10YR6/3	10YR7/6	6C～7C
130	20-2-2カマド	土・甕	頸～胴				25.2	摩滅・縦ナデ	摩滅	7/6	7/6	7C前半
131	20-2-2カマド	土・甕	口～底	16.3	5.4	22.8	21.4	摩滅	摩滅・縦ナデ	10YR8/3	10YR8/3	7C前半
132	20-2-2カマド	土・鉢	口～底	22.0	8.4	9.7		横ナデ・ミガキ状ナデ	不定方向ミガキ・横ミガキ	10YR8/3	10YR8/3	7C前半・木の葉底
133	20-2-2カマド	土・甕	口～頸	17.0				横ナデ・縦横工具ナデ	横ナデ・工具ナデ	10YR8/4	10YR8/4	7C前半
134	20-2-2 SA1 南	土・甕	底		6.0			横ナデ・不定ナデ・格子目叩	工具ナデ	10YR7/4	7.5Y4/1	7C前半
136	20-2-9 SZ1	須・高杯	脚部					回転横ナデ	しぼり痕	5Y3/1	7.5Y4/1	6C末～７C前
137	20-A-1 SA1	土・短頸壷	口～底	8.5	2.0	7.3	10.3	横ナデ・不定ナデ	横ナデ・縦ナデ	7.5YR8/6	7.5YR8/6	7C？
138	20-A-2 SA2	土・鉢	口～胴	24.2				横ナデ・工具横ナデ	横ナデ・摩滅	10YR8/3	7.5YR8/6	7C前半
139	17-5-6 一括	緑釉陶・碗	底		6.9			下部釉なし・糸切無調整	施釉	淡緑色	淡緑色	円盤状高台
140	17-B-53 包含層	青磁・水注？	体					施釉・分界線あり	施釉	5Y6/3～7.5Y5/2	5Y6/3～7.5Y5/2	越州窯系？
141	18-3-5 SE1	白磁・皿	底		5.5			高台部釉なし	施釉	7.5Y7/1	7.5Y7/2	碗Ｖ類11後～12C
142	18-3-28 SE2-2	青磁・皿？	底		5.7			施釉・高台内釉なし	施釉	5Y6/2	5Y6/2	15C～
143	18-C-3 SE1	青磁・皿	体～底		6.3			施釉	施釉・圏文	淡緑色のややくもった釉	淡緑色のややくもった釉	龍泉窯系15C後～
144	18-3-13 SE1	白磁・皿	底		7.5			施釉	施釉	白色釉	白色釉	森田E-1　16C
145	19-A-45 SC1	陶・擂り鉢	底		10.0			ナデ	回転横ナデ後擂り目	2.5Y3/1	2.5Y3/1	備前系
146	19-A-47 SE1	陶・擂り鉢	胴～底		10.4			横ナデ・縦ナデ	ナデのち底面まで擂り目	2.5Y7/2	2.5Y7/2	備前系15C～
164	16-D-19 SA1	須・平瓶	胴～底		4.8			回転横ナデ・削り	回転横ナデ	5Y5/1	N4/	7C後半
165	16-D-19 SA1	土・坏	胴～底		7.0			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/6	7.5Y8/6	9C～10C　？
166	16-D-19 SA1	土・甕	底		7.2			摩滅	横ナデ・縦ナデ	10YR8/4	10YR8/4	7C・木の葉底
167	16-D-19 SA2	土・長胴甕	底		8.6			縦ナデ・摩滅	横ナデ・摩滅	10YR5/1	10YR6/2	7C後半
168	16-D-19 SA1	土・高杯	坏～脚					摩滅	摩滅	5YR6/8	5YR6/8	7C後半
170	16-D-19 SA1	土・甕	口～底	17.4	7.2	22.6	16.8	回転横ナデ・摩滅	横ナデ・工具縦ナデ	10YR8/6	10YR7/4	7C後半・木の葉底
171	16-D-19 SA1	土・甕	口～底	16.3	7.0	21.5	18.1	回転横ナデ・ナデ・摩滅	回転横ナデ・縦ナデ・不定ナデ	10YR8/6	10YR8/6	7C後半・木の葉底
172	16-D-19 SA1	土・甕	口～底	17.0	4.5	24.5	15.0	横ナデ・工具縦ナデ・強い縦ナデ	横ナデ・工具縦ナデ・強い縦ナデ	10YR8/4	10YR7/6	6C末～7C前・木の葉底・埋設炉
173	16-D-19 SA2	土・甕	胴～底		4.0		16.5	工具縦ナデ・横ナデ・不定ナデ	工具縦ナデ	10YR6/6	7.5YR6/6	7C前半・木の葉底・埋設炉
174	18-E-1 SC1	須・埦	底		7.6			回転横ナデ・削り・ヘラ切	摩滅	7.5Y5/1	7.5Y5/1	9C前半・軟質焼成
175	18-E-1 SC1	土・坏	底		6.6			回転横ナデ・削り・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	10YR6/4	10YR6/4	9C前半

No.	出土地点・遺構	器種	部位	法量(cm)				調整・文様等		色調		備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面	
176	18-E-1 SC1	土・坏	口～底	13.6	7.4	3.7		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/4	7.5YR7/4	9C前半
177	18-E-1 SC1	須・甕	胴					平行叩き	同心円当具痕	10Y4/1	10Y4/1	9C前半
178	18-E-1 SC1	土・甕	口～頸	19.1				回転横ナデ・縦ナデ	回転横ナデ・横ナデ	10YR8/4	10YR8/4	9C前半
179	18-E-1 SC1	須・甕	胴					擬格子目叩きのちナデ	波状当て具痕	7.5Y5/1	7.5GY4/1	9C前半
180	19-2-4 SE2	土・坏	底		8.1			摩滅	摩滅	10YR8/4	7.5YR7/6	10C前半
181	19-2-6 包含層	土・埦	胴～底		7.5			回転横ナデ	回転横ナデ	7.5YR7/6	10YR7/4	10C
182	19-2-7 SZ1	須・埦	底		10.0			回転横ナデ・回転ヘラきり	回転横ナデ・不定ナデ	7.5Y6/1	7.5Y6/1	8C
183	19-2-8 SZ1	土・皿	口～底	8.5	6.0	1.6		回転横ナデ・ヘラ切後ナデ	回転横ナデ・不定ナデ	10YR8/3	10YR8/3	13C～14C
184	19-2-8 SZ1	土・高杯	脚部		12.5			回転横ナデ・回転ヘラ切	摩滅	5YR7/8	5YR7/8	8C・須恵器模倣
185	19-B-3 SE1	須・埦	胴～底		9.6			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	5Y5/1	5Y5/1	7末～8C
186	19-B-3 SE1	須・瓶	胴～底		6.5			回転横ナデ・ケズリ	回転横ナデ	7.5Y5/1	10Y5/1	7末～8C
187	19-B-3 SZ1	須・甕	口～頸	22.0				回転横ナデ	回転横ナデ	5Y5/1	5Y5/1	7C
188	19-B-7 SE1	須・甕	頸～胴					回転横ナデ・平行叩き	回転横ナデ・同心円当具痕	2.5Y6/2	2.5Y6/2	8～9C
189	19-B-12 SZ1	須・高杯	坏～脚					回転横ナデ・不定ナデ	不定ナデ	5Y7/2・6/2	5Y7/2・6/2	7C前半
190	19-B-12 SZ1	須・大甕	口～頸	24.0(口唇部)				回転横ナデ・平行叩き	回転横ナデ・同心円当具痕	7.5Y4/1	7.5Y4/1	7C前半
191	20-1-4 SE1	須・高杯	坏～脚					回転横ナデ・回転ヘラ切	摩滅	5Y6/2～7/1	5Y6/2～7/1	8C？
192	20-1-5 SH1	縄・鉢	口					ナデ・外側から穿孔	工具ナデ	10YR6/3	7.5Y2/1	縄文晩期・孔列文を模倣・穿孔が中途半端
193	20-1-6 SA1	須・埦	胴～底		10.0			摩滅	横ナデ	5Y8/1	5Y8/1	9C・軟質焼成
194	20-1-6 検	土・坏	胴～底		5.0			摩滅・回転ヘラ切	回転横ナデ	5YR6/8	2.5Y6/2	9C？
195	20-1-8 SD1	土・埦	胴～底		8.0			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/4	10YR8/4	9C後～10C
196	20-1-9 SA1	土・坏	口～底	14.4	7.4	4.3		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	10YR7/4	10YR7/4	9C後～10C
197	20-1-9 SA1	土・坏	口～底	13.8	7.4	4.4		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	10YR8/3	10YR8/3	9C後～10C
198	20-1-9 SA1	土・坏	口～底	12.3	8.2	4.2		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9C後～10C
199	20-1-9 SA1	土・坏	口～底	11.8	6.0	3.9		回転横ナデ・ヘラ切後ナデ	回転横ナデ・不定ナデ	7.5YR	7.5YR	9C後～10C
200	20-1-9 SA1	土・坏	胴～底		8.0			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	7.5YR7/3	7.5YR7/3	9C後～10C
201	20-1-9 SA1	土・坏	口～底	13.6	7.8	2.7		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/3	10YR8/3	9C後～10C
202	20-1-9 SA1	土・坏	口～底	15.3	7.0	3.0		回転横ナデ・ヘラ切後ナデ	回転横ナデ・不定ナデ	7.5YR8/4	7.5YR8/4	9C後～10C
203	20-1-9 SA1	土・坏	口～底	14.1	8.5	3.6		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9C後～10C
204	20-1-9 SA1	土・坏	口～底	14.8	8.6	4.8		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	10YR7/4	10YR7/4	9C後～10C
205	20-1-9 SA1	土・坏	口～胴		8.0			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	9C後～10C
206	20-1-9 SA1	土・坏	口～底	17.6	12.0	3.6		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	5YR6/6	5YR6/6	9C後～10C
207	20-1-9 SA1	土・坏	口～胴		8.0			回転横ナデ	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9C後～10C
208	20-1-9 SA1	土・坏	口	13.0				回転横ナデ	回転横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	9C後～10C
209	20-1-9 SA1	須・甕	胴～底					平行叩	同心円当具痕・底部に平行条線叩	5Y3/1～5/1	5Y6/1	底部付近に須・埦蓋が溶着・9C
210	20-1-9 SA1	須・甕	胴					格子目叩き	平行条線当具痕	5Y5/1	5Y6/1	9C
211	20-1-9 SA1	土・皿	口～底	10.0	7.0	1.3		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	5YR6/8	5YR6/8	11～12C
212	20-1-9 SA1	土・坏	口～底	15.2	8.0	4.3		回転横ナデ	回転横ナデ	7.5YR7/6	10YR8/4	9C後～10C
213	20-1-9 SA1	土・皿	口～底	10.0	9.6	1.6		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	5YR6/6	5YR6/6	11～12C
214	20-1-9 SA1	土・製塩	口	9.0				ナデ	布痕	7.5YR7/6	7.5YR7/6	古代
215	20-1-9 SA1	土・埦	胴～底		9.4			回転横ナデ	回転横ナデ	10YR8/4	10YR8/4	9C後～10C
216	20-1-9 SA1	土・坏	胴～底		8.2			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/6	10YR7/6	9C後～10C
217	20-1-9 SA1	土・甕	口～胴	30.6				回転横ナデ・回転カキ目	回転横ナデ・ヘラ削り	10YR8/3	10YR8/3	9C
218	20-1-9 SA1	土・坏	胴～底		8.2			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/4	7.5YR7/4	9～10C
219	20-1-9 SA1	土・坏	胴～底		7.8			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR6/4	10YR6/4	9～10C
220	20-1-9 SA1	土・埦	口～胴	18.6				回転横ナデ	回転横ナデ	7.5YR8/8	7.5YR8/8	9～10C
221	20-1-9 SA1	須・甕	底		7.2			回転横ナデ・回転ヘラ削り	回転横ナデ・不定ナデ	5Y6/1	5Y6/1	9～10C
222	20-1-9 SA1	須・坏	胴～底		8.5			回転横ナデ	回転横ナデ	2.5Y7/2	2.5Y7/2	9～10C
223	20-1-9 SA1	須・埦	胴～底		9.0			回転横ナデ・回転ヘラ削り	回転横ナデ・不定ナデ	2.5Y7/1～5/1	2.5Y7/2	9～10C・軟質
224	20-1-9 SA1	土・埦	胴～底		7.8			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9～10C
225	20-1-9 SA1	土・坏	口～底	13.2	8.2	4.0		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	10YR8/4	10YR8/4	9～10C
226	20-1-9 SA1	土・坏	口～底	13.2	7.3	4.5		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9～10C
227	20-1-9 SA1	土・坏	胴～底		6.2			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/9	10YR8/9	9～10C
228	20-1-9 SA1	土・埦	胴～底		8.7			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	9後～10C
229	20-1-9 SA1	土・埦	胴～底					回転横ナデ	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9後～10C
230	20-1-9 SA1	土・鉢	胴～底		9.2			回転横ナデ・不定ナデ	摩滅	10YR8/6	10YR8/6	9後～10C
231	20-1-9 SA1	土・埦	胴～底		5.2			回転横ナデ	回転横ナデ・不定ナデ	10YR8/4	10YR8/4	9後～10C
232	20-1-9 SA1	土・埦	胴～底		8.7			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR8/6	7.5YR8/6	9後～10C

No.	出土地点・遺構	器種	部位	法量(cm)				調整・文様等		色調		備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面	
233	20-1-9 SM1	土・坏	胴～底		5.7			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/3	10YR8/3	9後～10C前
234	20-1-9 SA1	土・甕	口～胴	25.4				回転横ナデ・回転カキ目	回転横ナデ・回転カキ目	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9C後
235	20-1-9 SA1	土・埦	胴～底		7.0			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9後～10C
236	20-1-9 SA1	土・坏	胴～底		6.4			回転横ナデ	回転横ナデ・不定ナデ	10YR8/4	10YR8/4	9後～10C前
237	20-1-9 SA1	土・坏	胴～底		6.0			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/4	7.5YR7/4	9後～10C前
238	20-B-1 SE1	須・高杯	底					回転横ナデ	回転横ナデ	5Y5/1	5Y6/2	7C？
239	20-B-2 検	土・皿	口～底	9.4	6.2	1.9		回転横ナデ・回転ヘラ切	摩滅	7.5YR7/4	7.5YR7/4	12～13C
240	20-B-3 SD1	土・埦	口～底	14.0	8.4	3.7		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/6	10YR8/6	9C～10C
241	20-B-3 SH1	須・埦	口～底	14.9	8.0	6.5		回転横ナデ	回転横ナデ・不定ナデ	N5/	N6/・7.5Y6/1	9C～10C
242	20-B-2 検	須・甕	胴					格子目叩き	平行当具のちナデ	7.5Y6/1	7.5Y6/1	9C
243	20-B-4 SD1	土・製塩	口～胴	13.2				横ナデ・縦ナデ	布痕	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9C～10C
245	20-B-4 SE1	土・坏	胴～底		6.0			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9後～10C前
246	20-B-4 SE2	土・坏	胴～底		6.0			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR8/6	7.5YR7/6	9後～10C前
247	20-B-4 SE2	土・埦	胴～底		9.0			回転横ナデ・回転ヘラ切	摩滅	7.5YR7/6	7.5YR7/6	須恵器模倣・8C後
248	20-B-4 SE1	土・坏	胴～底		6.0			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	10YR8/3	10YR8/3	9後～10C前
249	20-B-4 SE1	土・坏	胴～底		5.5			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	10YR8/3	7.5YR7/4	9後～10C前
250	20-B-4 SE1	土・埦	口～底	14.6				摩滅	摩滅	7.5YR6/6	7.5YR6/6	9後～10C前
251	20-B-4 SE1	土・坏	胴～底		5.2			回転横ナデ・回転ヘラ削り	ナデ	10YR8/3	10YR4/1	9C～10C
252	20-B-4 SE1	土・埦	口～胴	17.6				回転横ナデ	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9C～10C
253	20-B-4 SE1	土・坏	胴～底		6.4			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/8	7.5YR7/8	9後～10C前
254	20-B-4 SE1	土・甕	口～胴	24.2(口唇)				横ナデ・摩滅	横ナデ・不定ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9C～10C
255	20-B-5 SH1	土・埦	胴～底	8.1				回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/4	10YR8/4	9後～10C
256	20-B-5 SA1	土・製塩	口～胴	8.8				横ナデ・オサエ	布痕	7.5YR5/4	7.5YR5/4	
257	19-2-1 包含層	白磁・碗	口					施釉	施釉	7.5Y7/2	7.5Y7/2	碗Ⅳ類　11後～12C
258	19-2-7 SZ1	白磁・碗	口					施釉	施釉	7.5Y7/2	7.5Y7/2	〃
259	19-2-7 SZ1	青磁・碗	口～体					施釉	施釉・流水文	7.5Y5/2	7.5Y5/2	龍泉窯系12C後
260	19-2-4 SE2	青磁・碗	体～底					施釉・下半釉なし	施釉・圏文・花文	黄灰色	黄灰色	龍泉窯系15C～
261	19-2-5 検	青磁・皿？	底		5.6			施釉	施釉	5Y6/4	5Y6/4	15C～16C
262	19-B-6一括	陶・羽釜	肩～胴					回転カキ目	回転横ナデ	2.5Y8/3	5YR7/6～10YR8/4	中世
263	19-2-4 SE2	青磁・碗	口					施釉淡緑色・細い櫛目文	施釉・文様あり	10Y6/2	10Y6/2	同安窯系碗Ⅰ1b類　12C後
281	17-D-1 SC1	須・坏身	口～胴	12.0				回転横ナデ	回転横ナデ	7.5Y6/1	7.5Y6/1	TK43～209
282	17-D-1 SC2	須・坏蓋	口～胴	13.8				回転横ナデ	回転横ナデ	7.5Y6/1	7.5Y6/1	TK10～MT85
283	20-3-1 検	土・埦	胴～底		7.8			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/8	7.5YR5/4	9C～10C
284	20-3-1 検	土・坏	胴～底		6.4			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/3	10YR8/3	9C～10C
285	20-3-2 検	土・甕	底		11.0			斜めナデ・ナデ	横ナデ	10YR8/3	10YR6/1	6～7c
286	20-3-1 SE1	土・甕	口～底	23.1	8.0	22.5	25.0	横ナデ・平行叩・縦工具ナデ	横ナデ・工具横ナデ・縦ナデ	10YR8/3	10YR8/3・底部5Y4/1	在地球型胴甕・調整に叩き　6C中葉
287	20-3-6 検	土・高盤	底					回転横ナデ	不定ナデ	7.5YR8/6	7.5YR8/6	8C
288	20-3-7 検	土・坏	胴～底		6.4			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR8/4	7.5YR8/4	9後～10C前・円盤
289	20-3-7 検	須・坏	底		10.0			回転ヘラ削り	回転横ナデ	7.5Y5/1	N6/	6C
290	20-3-8 検	土・坏	胴～底		7.4			回転横ナデ・回転ヘラ切	不定ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9後～10C前・円盤
291	20-3-8 検	土・坏	胴～底		7.0			摩滅・回転ヘラ切	摩滅	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9後～10C前・円盤
292	19-D-4 撹乱土	青磁・皿？	底		5.6			施釉	施釉・花文	5Y5/3	5Y5/3	龍泉窯系12C後
293	19-D-4 撹乱土	青磁・皿	底		5.8			施釉・高台内に朱墨	施釉・圏文	淡緑色の釉	淡緑色の釉	龍泉窯系15C後～
294	19-D-3 検	青磁・碗	底		4.4			施釉・高台内釉なし	施釉	深緑色	深緑色	15C～16C
299	16-3-8	土・埦	口～胴	16.0				回転横ナデ	回転横ナデ	10YR7/4	5YR7/6	9後～10C
300	16-3-8	土・埦	口～胴	17.4				回転横ナデ	回転横ナデ	10YR7/4～6/4	10YR7/4～6/4	9後～10C
301	16-3-8 ①一括	土・埦	胴～底					回転横ナデ	回転横ナデ	10YR7/6	10YR7/6	9後～10C
302	16-3-8 ①一括	土・埦	胴～底		7.2			回転横ナデ	回転横ナデ・不定ナデ	10YR7/4	10YR7/4	9後～10C
303	16-3-12	須・甕	口					回転ナデ・平行叩き	回転ナデ	5Y5/1	5Y5/1	8C
304	16-3-12 SO一括	須・埦	胴～底		8.9			回転ナデ	回転ナデ	N3	7.5Y4/1	8C後半
305	16-3-12 SO一括	須・蓋	天					回転ナデ	不定ナデ	5Y5/1	5Y5/1	8C後半
306	16-3-10 SP1	土・甑	把手					工具ナデ	工具ナデ	10YR6/4	10YR6/4	厚　3.0
307	16-3-10 SZ1	土・埦	胴～底		8.0			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	5YR5/6	5YR5/6	9後～10C
308	16-3-10 SZ1	土・坏	胴～底		7.2			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9後～10C
309	16-3-10 SZ1	土・埦	胴～底		8.0			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転ナデ	7.5YR6/6	7.5YR6/6	9後～10C
310	16-3-11	土・坏	口～底	13.9	8.1	4.0		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転ナデ	7.5YR6/6	7.5YR6/6	9後～10C

No.	出土地点・遺構	器種	部位	法量(cm)				調整・文様等		色調		備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面	
311	16-3-14	須・蓋	天～口	14.5				回転横ナデ	回転横ナデ	5Y5/1	5Y4/1	8C後半
312	16-3-14	須・埦	胴～底		12.6			回転横ナデ	回転横ナデ	5Y4/1	5Y4/1	8C後半
313	16-3-14 SO	須・埦	胴～底		9.6			回転横ナデ	摩滅	2.5Y7/3	2.5Y7/3	8C後半
314	16-3-14 SO	須・埦	口～底	13.7	10.7	4.6		回転横ナデ	回転横ナデ・不定ナデ	5Y6/2	5Y7/1	8C後半
315	16-3-14	須・埦	胴～底		8.7			回転横ナデ	回転横ナデ	5Y5/1	5Y5/1	8C後半
316	16-3-14 SO	土・高杯	脚裾		15.0			回転横ナデ	回転横ナデ	5YR7/6	5YR7/6	8C後半
317	16-3-14	土・壷	口～胴	12.7				横ナデ・工具横ナデ後磨き	摩滅・強い横ナデ・細いナデ	7.5YR5/6・6/6	10YR7/4・6/1	6C後半
318	16-3-14 SO	須・横瓶	口～胴	11.2				回転横ナデ・平行叩き	回転ナデ・横ナデ	N5/	N5/	6C後半
319	16-3-14 SO	土・甕	口～胴	21.0				横ナデ・平行叩き	横ナデ・ナデ	10YR8/4	10YR8/4	8C・須恵器模倣
320	16-3-12 SD1 16-3-14 SO1	土・壷or甕	胴～底		8.7			工具横ナデ・摩滅・強い縦ナデ	横ナデ・斜め・縦ナデ・底部横ナデ	10YR5/4	10YR7/3	6C後半
321	16-3-14 一括	土・坏	口～底	15.3	9.5	4.0		回転横ナデ・不定ナデ	回転横ナデ	7.5YR7/8	7.5YR7/8	8C・須恵器模倣
322	16-3-14 ①一括	土・坏	口～胴	14.0				回転横ナデ	回転横ナデ	7.5YR6/8	7.5YR6/8	8C・須恵器模倣
323	16-3-14 一括	土・甕	口縁					横ナデ・斜めハケ	横ナデ・オサエ	7.5Y5/6～4/6	7.5Y5/6～4/6	豊後大分系企救型甕？・8C後
324	16-3-14 ②一括	土・埦	胴～底	10.4				回転横ナデ	回転横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	9C後半
325	16-3-14 ②一括	須・坏蓋	口	14.8				回転横ナデ	回転横ナデ	N6/	N6/	8C後半
326	16-4-2 ④一括	須・円面硯		11.0				回転横ナデ	回転横ナデ	5Y4/1	5Y4/1	8C後半
327	16-4-2 ④一括	須・耳付壷	胴					回転横ナデ・不定ナデ	回転横ナデ	5Y4/1	5Y4/1	8C？
328	16-4-18 SE	土・坏	口～胴	14.0				ミガキ状ナデ・摩滅	摩滅	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7C
329	16-4-19 一括	須・高杯	底～脚					灰かぶりで調整不明	回転横ナデ・不定ナデ	7.5Y3/2	2.5Y5/1	8後～9C前
330	16-4-19 一括	須・台付壷	胴～底		10.7			回転横ナデ	回転横ナデ	N5/	N5/	8後～9C前
331	16-4-20 一括	土・甕	口～胴	19.5				回転横ナデ・横ナデ・斜めナデ	回転横ナデ・横ナデ	10YR8/4	10YR8/4	6C後半
332	16-4-20 一括	須・蓋	口	16.4				回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ	5Y6/1	5Y6/1	8C後半
333	16-4-20 一括	土・埦	胴～底		6.8			摩滅	摩滅・ミガキ・黒色処理	7.5Y5/1	7.5Y5/1	10～11C
334	16-4-20 一括	須・壷	把手					ナデ		5Y6/1～5/1	5Y6/1～5/1	灰かぶり
335	16-4-20 SA1	須・甕	胴					擬格子目叩き	同心円当具痕	5Y6/1～5/1	7.5YR6/4	8C・線刻あり
336	16-4-20 SA1	土・坏	口～底	9.2	5.2	3.0		回転ナデ	横ナデ・摩滅	10YR7/4	10YR7/4	8C後半
337	16-4-20 SA1	土・壷	口～頸	11.2				ナデ・オサエ・横ナデ・工具ナデ	摩滅	10YR7/6	10YR7/6	7C前
338	16-4-20 SA1	須・壷	口～頸					回転横ナデ・平行叩き	回転横ナデ	N6/	N6/	8C
339	16-4-20 SA1	土・皿	口～底	7.7	6.1	1.2		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	13～14C
340	16-4-20 SA1	土・皿	口～底	7.6	6.0	1.3		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転ナデ	7.5YR8/4	7.5YR8/4	13～14C
341	16-4-20 SA1	須・埦蓋	天～口	14.4				回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ・不定ナデ	7.5YR5/4	2.5Y5/1	8C後半
342	16-4-20 SA1	須・埦蓋	天～口	15.0		3.8		回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ	5Y4/1	5Y4/1	8C後半
343	16-4-20 SA1	土・皿	口～底	7.2	5.8	1.2		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転ナデ	7.5YR6/6	7.5YR6/6	13～14C
344	16-4-20 ③一括	土・皿	口～底	6.6	5.2	1.0		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転ナデ	7.5YR8/4	7.5YR8/4	13～14C
345	16-4-20 SA1	須・埦	口～底	12.3	8.5	4.2		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	5Y4/1	5Y4/1	8C後半
346	16-4-20 SA1	須・蓋	天～口	8.7		2.5		回転横ナデ	回転横ナデ	5Y5/1	5Y5/1	8C後半
347	16-4-20 SA1	須・埦蓋	天～口	14.4				回転横ナデ	回転横ナデ	N6/	N6/	8C後半
348	16-4-20 SA1	須・蓋	天～口	16.2				回転ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ	N6/	N6/	8C後半
349	16-4-22 SA1	須・蓋	口	8.0				回転横ナデ	回転横ナデ	灰かぶり	10YR5/1	7C前半
350	16-4-23 一括	土・埦	胴～底		6.4			回転横ナデ	回転横ナデ・不定ナデ	7.5YR6/6・1.7/1	7.5YR6/6・1.7/1	9後～10C前半・円盤状高台
351	16-4-23	土・坏	胴～底		9.4			回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ	5YR6/8	5YR6/8	8C？
352	16-4-22 SA1	土・壷	底		5.6			縦ナデ・強い横ナデ	工具ナデ	10YR5/4	10YR7/3	7C・木の葉底
353	16-4-23	土・坏	口～底	9.3	3.2	3.5		回転ナデ・ミガキ・不定ナデ	ミガキ状ナデ	10YR8/4	10YR8/4	7C
354	16-4-24 ①一括	土・坏	胴～底		6.0			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	9後～10C前
355	16-4-24 ①一括	土・坏	胴～底		6.0			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	5YR6/6	5YR6/6	9後～10C前
356	16-4-24 ①一括	土・埦	胴～底					回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/6	10YR7/6	9後～10C前
357	16-4-24 P	須・埦	口～底	14.7	9.3	5.0		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	2.5Y6/1	2.5Y6/1	8C前
358	16-4-24 ②一括	土・皿	口～底	8.3	6.1	1.5		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	10YR8/4	10YR8/4	13～14C
359	16-4-24 ①一括	須・壷	胴～底		9.4			灰かぶりで調整不明	回転横ナデ・底部オサエ	5Y3/1	N4/	8C
360	16-4-24 ①一括	須・壷	胴～底		13.7			格子目叩きのち横ナデ	横ナデ後縦ナデ	7.5Y7/1	7.7Y6/1	8C
361	16-4-24 ①一括	須・壷	胴					格子目叩きのち横ナデ	横ナデ	5Y3/1	10Y5/1	8C・灰かぶり
362	16-4-24 SA	土・壷	口～胴	18.0			30.9	回転横ナデ・下へ削り	回転横ナデ・横斜めナデ	10YR7/6	10YR7/4	6C後半
363	16-4-24 ②一括	須・大甕	胴～底					左上り平行叩き	平行条線当具痕	2.5Y6/3	10YR7/4	9C
364	16-4-24 ①一括	土・坏	胴～底		5.8			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	
365	16-4-24 ②一括	土・坏	口～底	14.0	7.5	4.2		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	10YR5/4～6/4	10YR5/4～6/4	9後～10C

No.	出土地点・遺構	器種	部位	法量(cm)				調整・文様等		色調		備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面	
366	16-4-24 SA1	須・坏	口～胴	12.8				回転横ナデ	回転横ナデ	5Y5/1	5Y5/1	TK43
367	16-4-25 SA1	土・鉢	口～胴	19.6				回転横ナデ・ミガキナデ	斜め工具ナデ	10YR8/4	10YR8/4	6後～7C前
369	16-4-25	土・甕	底		6.5			縦ナデ	摩滅	10YR6/4	10YR6/4	6後～7C前
370	16-4-25 SA1	土・坏	胴～底		8.5			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9後～10C
371	16-4-25 SA1	須・埦	胴～底		9.5			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	5Y8/1	5Y8/1	9後～10C・軟質
372	16-4-25 SA1	土・坏	口破片					ミガキ	ミガキ・摩滅	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7C
373	16-4-27 SA	土・皿	口～底	10.9	6.5	1.4		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/4	7.5YR8/4	13～14C
374	16-4-27 SA	土・皿	口～底	10.4	7.2	1.5		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/4	7.5YR8/4	13～14C
375	16-4-27 SA	土・皿	口～底	10.0	7.6	1.7		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR8/4	7.5YR8/4	13～14C
376	16-4-27 SA	土・皿	口～底	10.2	6.1	1.8		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	13～14C
377	16-4-27	土・皿	口～底	11.7	7.0	1.7		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	10YR8/4	10YR8/4	13～14C
378	16-4-27 SA	土・坏	口破片					摩滅	摩滅	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7C？
379	16-4-27 SA1	土・皿	底		7.2			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	10YR8/4	10YR8/4	13～14C
380	16-4-27 SA1	土・皿	口～底	10.8	7.5	1.4		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	10YR8/4	10YR8/4	13～14C
381	16-4-27 SA1	土・皿	口～底	10.3	7.2	1.7		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	10YR8/4	10YR8/4	13～14C
382	16-4-27 SA1	土・坏	底		6.8			回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	10YR7/4	10YR7/4	9後～10C前
383	16-C-1 SA1	須・壷	頸部					横ナデ・自然釉	横ナデ・縦ナデ	2.5Y5/2～6/1	6/1	7C後半
384	16-C-1 SA1	土・坏	口破片					ミガキ状ナデ	摩滅	7.5YR7/8	2.5YR6/6	7C後半
385	16-C-1 SA1	土・坏	口～胴	11.2				横ナデ・縦ナデ	横ナデ・暗文模倣線刻	10YR8/4	10YR8/3	7C後半
386	16-C-1 SA1	土・坏	口～底	15.2				横ナデ摩滅	摩滅・赤色塗彩	5YR5/6	5YR5/6	7C後半
387	16-C-1 SA1	須・蓋	口	10.2				回転横ナデ	回転横ナデ	5Y6/1	5Y6/1～5Y7/1	7C後半
388	16-C-1 SA1	須・埦	胴～底		8.1			回転横ナデ	ナデ	2.5Y7/1	2.5Y7/1 2.5Y5/2	7C後半
389	16-C-1 柱穴上＋柱穴1	土・坏	口破片					横ナデ・ミガキ	摩滅	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7C後半
390	16-C-1 SA1	土・甕	胴～底		10.0			斜めナデ・底部削り状ナデ	不定ハケ後横ナデ・斜めナデ	10YR7/4～5/1	10YR6/2	7C後半
391	16-C-1 SA1	須・甕	胴					擬格子目叩き後カキ目	同心円当具痕	N6/	N6/	7C後半
392	16-C-1 柱穴上	土・甑	把手					ナデ		7.5YR8/6	7.5YR8/6	7C後半
393	16-C-1 SB1	須・高杯	脚部		8.8			回転横ナデ	回転横ナデ	5Y3/1	5Y5/1	7C後半
394	16-C-1 SA1	土・甕	底	11.6				ナデ		10YR8/4	10YR2/1	7C後半
395	16-C-1 No1	須・蓋	天～体					回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ・不定ナデ	7.5Y7/1	5Y7/1	7C後半
396	16-C-3 4層	土・埦	胴～底		8.7			回転ヘラ切のちナデ	摩滅・黒色処理	7.5YR6/2	7.5YR7/4	9～10C
397	16-C-3 4層	須・甕	胴					平行叩き	同心円当具痕	10YR7/3	10YR6/3	8C
398	16-C-3 粘土上	土・坏	口～底	11.6	6.0	3.9		回転ナデ	回転ナデ	7.5YR7/8	7.5YR7/6	8C
399	16-C-3 5層	土・坏	口～胴	18.0				回転ナデ・縦ナデ	回転ナデ・細かい不定方向ミガキ	10YR8/4 10YR2/1	10YR8/6	8C・畿内系土師器
400	16-C-3 粘土上	須・埦蓋	天～口	13.9		2.5		回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ・不定ナデ	2.5Y7/2	2.5Y6/3	8C
401	16-C-3 柱穴	須・坏蓋	天～口	11.0		2.6		回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ・不定ナデ	5Y4/1～6/1	5Y4/1～6/1	TK217新
402	16-C-3 5層	土・坏	口～胴	11.6				回転横ナデ・ミガキ状ナデ	回転横ナデ・縦斜めの工具ナデ	10YR8/4 2.5Y4/1	7.5YR8/6 10YR8/4	8C
403	16-C-3 5層	土・坏	口～底	12.4	4.5	3.7		回転横ナデ・細かいミガキ	細かいミガキが斜めに入る	10YR8/4～2/1	10YR8/4～7/4	8C・畿内系土師器
404	16-C-3 5層	土・甕	底	8.0				工具縦ナデ・強い横ナデ	横ナデ・不定ナデ	7.5YR6/6	7.5YR7/6	7C
405	16-C-4 4層	土・製塩	胴					摩滅	布痕	5YR6/6	5YR6/4	8C
406	16-C-4 4層	須・坏蓋	天～口	14.0				回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ	7.5YR5/3	7.5YR4/2	6C後・ヘラ記号
407	16-C-4 4層	土・坏	口～胴	14.0				横ナデ・ミガキ状ナデ	横ナデ・ミガキ(暗文)	5YR6/6	5YR6/6	8C・畿内系土師器
408	16-C-4 4層	須・甕	胴破片					平行叩き	同心円当具痕後ナデ	5Y6/1	5Y6/1	8～9C
409	16-C-4 4層	須・埦蓋	天					回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ・不定ナデ	5Y7/1	5Y7/2	8C
410	16-C-4 4層	土・高杯	底～脚					オサエ・縦ナデ	摩滅	5YR5/6	7.5YR8/6	7C
411	16-C-4 4層	土・高杯	坏～脚					回転横ナデ・カキ目	ミガキ状不定ナデ	10YR8/4	10YR8/4	8C
412	16-C-4 4層	須・埦蓋	天～口	13.0				回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ・不定ナデ	N6/	N6/	8C後半
413	16-C-4 4層	須・埦蓋	口	19.2				回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ・不定ナデ	2.5Y7/1	2.5Y7/1	8C後半
414	16-C-4 4層	土・甕	底		5.6			縦ナデ	縦ナデ・横ナデ	10YR6/2	10YR6/3	7C・木の葉底
415	16-C-4 4層	須・埦	底		10.6			回転横ナデ・ヘラ切	不定ナデ	10YR6/2	10YR6/2	8C後半
416	16-C-4 4層	土・埦	底		11.0			回転横ナデ	回転横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	8C後・須恵器模倣
417	16-C-4 4層	土・埦	底		9.8			回転横ナデ	不定ナデ	7.5YR6/8	7.5YR6/8	8C後半
418	16-C-4 4層	須・埦	底					回転横ナデ・回転ヘラ切	不定ナデ	10YR6/2	10YR6/2	415と同一個体
419	16-C-5 SA1	土・甕	底		12.0			斜めナデ	横ナデ	10YR8/4	10YR5/1	6末～7C木の葉底
420	16-C-5 SA1	土・高杯	脚		17.0			摩滅	工具ナデ	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7C
421	16-C-5 SA1	須・大甕	口～頸	27.2				しぼり気味の回転ナデ	回転ナデ・横ナデ	10Y4/1	10Y4/1	7C
422	16-C-5 SA1	須・坏蓋	口	11.1				回転横ナデ	回転横ナデ	7.5Y6/1	7.5Y6/1	TK209

No.	出土地点・遺構	器種	部位	法量(cm)				調整・文様等		色調		備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面	
423	16-C-5 SA1	須・坏身	口～体	12.0				回転横ナデ	回転横ナデ	2.5Y7/1	2.5Y7/1	TK209
424	16-C-5 SA1	須・ﾊｿｳ	口～底				9.7	しぼり気味の回転ナデ・回転ヘラ削り	回転横ナデ(しぼり痕)	～5/1・4/1	10GY4/1	TK209
425	16-C-5 SA1	土・甕	口～胴	17.3				工具ナデ	工具横ナデ	10YR7/4	10YR6/1～5/1	7C前半
426	16-C-5 SA1	土・坏	口～底	18.6	9.5	4.5		横ナデ・ミガキ	横ナデ・ミガキ	5Y6/8	5Y6/8	7C前半
427	16-C-5 SA1	土・坏	口～底	14.9	4.0	5.7		横ナデ・横ミガキ	横ナデ・ミガキ	5YR6/8	5YR6/8	7C前半
428	16-C-5 SA1	土・鉢	口～底	15.0	8.0	7.9		横ナデ・摩滅・縦ナデ	横ナデ・横工具ナデ	7.5YR8/6	7.5YR8/6	7C前半
429	16-C-5 SA1	土・甕	胴～底	17.3				縦ナデ・オサエ	工具斜めナデ	10YR8/4	10YR8/4	7C前・木の葉底
430	16-C-5 SA1	土・長胴甕	口～胴	17.0			19.4	横工具ナデ・摩滅	横工具ナデ・斜めハケ	10YR7/3～7/4	10YR7/3～7/4	7C前半
431	16-C-5 SA1	土・甑	胴～底		7.1			ミガキ状ナデ	板ナデ	10YR7/4	10YR7/3	7C前半
432	16-C-5 SA1	土・坏	口～胴	15.4				回転ナデ・摩滅	回転ナデ・摩滅	2.5YR6/8	2.5YR6/8	7C前半
433	16-C-6 SB1	土・埦	胴～底		7.0			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ・黒色処理	10YR7/1	N5/	8C後～9C
434	16-C-7 SZ1	土・中型甕	口～胴	19.6			23.1	回転横ナデ・縦ナデ	回転横ナデ・横断続ナデ	10YR8/4	10YR8/4	7C前半
435	16-C-7 SZ1	須・甕	胴破片					平行叩き後カキ目	同心円当具痕	N5/	5Y5/1	7C前半
436	16-C-7 SZ1	土・坏	口～胴	16.7				回転横ナデ・削り・斜めナデ	回転横ナデ	7.5YR8/6	7.5YR8/6	7C前半
437	16-C-7 SZ1	須・坏身	口～胴	11.6				回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ	5Y5/1	N5/	TK209
438	16-C-8 2+3+4+5+7+8	土・壷	口～胴	15.1			27.4	横ナデ・ミガキ状工具ナデ・工具縦ナデ	工具横ナデ・不定ナで	10YR7/4	10YR8/3 10YR5/1	7C前半
439	16-C-11	土・甕	口～胴	24.0				回転横ナデ・横ハケ・縦ハケ	回転横ナデ・縦ナデ・削り	10YR7/6	10YR7/6	9～10C
440	16-C-11 3層	土・坏	胴～底		5.4			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	10YR8/4～7/4	10YR8/4～7/4	9～10C
441	16-C-11 3層	土・坏	口～底	13.2	9.0	3.7		回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	7.5YR7/6	7.5YR6/6	9C
442	16-C-11 4層	土・坏	口～底	15.4	8.6	5.9		回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR6/4	10YR6/4	9後～10C
443	16-C-11 3+4	土・甕	口～胴	17.3				横ナデ・ナデ・ミガキ状ナデ	横ナデ・斜めナデ	10YR8/4	10YR8/4	7C
444	16-C-11 5層	土・坏	胴～底		8.3			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9～10C
445	16-C-11 5層	土・埦	胴～底		7.8			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/6	10YR7/6	9後～10C
446	16-C-11 5層	土・埦	胴～底		8.8			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/4	10YR8/4	9後～10C
447	16-C-11 5層	土・高杯	坏～脚		6.8			縦ナデ・摩滅	摩滅	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7C
448	16-C-11 5層	土・皿	口～底	8.4	1.3	7.1		回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	13～14C
449	16-C-11 5層	須・埦	胴～底		9.7			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	N6/	N6/	8C
450	16-C-11 5層	須・埦	胴～底		10.2			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	7.5Y5/1	7.5Y5/1	7C後～8C前
451	16-C-11 5層	須・埦	胴～底		9.6			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	5Y8/1	5Y8/1	8C前
452	16-C-12	土・埦	胴～底		8.6			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR8/6	7.5YR8/6	9後～10C
453	16-C-12 SE1	須・甕	胴～底		14.4			回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ	5Y6/1	5Y6/1	8C
454	16-C-12 SE1	須・甕	胴部破片					格子目叩き	平行叩き	5Y5/1	2.5Y5/1	8C～9C
455	16-C-12 SE1	土・台付皿	口～底	14.3	6.8	3.0		回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9後～10C
456	16-C-12 SE1	須・甕	口～胴	22.3				回転横ナデ・縦ナデ	回転横ナデ	2.5Y5/1	2.5Y5/1	8C
457	16-C-12 SE1	土・坏	胴～底		8.0			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9C～10C
458	16-C-12 SE1	土・台付皿	口～底	13.8	8.0	3.1		回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ	10YR8/4	10YR8/4	9後～10C
459	16-C-12 5層	土・皿	口～底	9.6	5.8	2.1		回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	10YR8/4	10YR8/4	11～12C
460	16-C-12 SE1	土・坏	胴～底		7.4			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	5YR7/6	5YR7/6	10C
461	16-C-12 5層	土・坏	胴～底		7.7			回転横ナデ・ヘラ削り・ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/6	10YR8/6	10C前半
462	16-C-12 5層	須・埦	胴～底		7.0			回転横ナデ	回転横ナデ	5Y6/1/・7/1	5Y7/1	10C・軟質焼成
463	16-C-12 5層	土・坏	口～底	18.1	7.8	6.0		回転横ナデ・縦ナデ(ミガキ状)	回転横ナデ・不定ナデ	10YR8/4	10YR8/4	7C・木の葉底
464	16-C-12 5層	土・甕	口～胴	24.9				回転横ナデ	回転横ナデ	10YR8/4	10YR8/4	9～10C
465	16-C-12 5層	土・坏	胴～底		7.0			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR8/6	7.5YR8/6	9後～10C前
466	16-C-12 4層	土・台付盤	脚部		24.3			断続横ナデ	横ナデ・不定ナデ	10YR7/4	10YR7/4	8C
467	16-C-13 4層	須・埦	胴～底		6.8			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	7.5Y4/1	7.5Y5/1	8C後～9C
468	16-C-13 SB3	土・甕	底		13.4			縦ナデ・横ナデ	斜めナデ	10YR8/4	10YR8/4	7C・木の葉底
469	16-C-14 SE1	土・坏	底		6.4			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR8/6	7.5YR8/6	
471	16-C-15 4層	土・坏	胴～底		7.0			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9C～10C
472	16-C-15 4層	土・埦蓋	ツマミ					摩滅		7.5YR7.6	7.5YR7.6	須恵器模倣・7C後
473	16-C-15 4層	土・坏	胴～底		6.8			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/6	10YR8/6	
474	16-C-15 SA1	土・甕	底		10.1			横ナデ・不定ナデ	縦ナデ	10YR8/4	10YR4/1	6後～7C
475	16-C-15 SA1	土・坏	底		6.8			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9C～10C
476	16-C-15 SA1	須・甕	頸～胴					格子目叩き・横ナデ	車輪文当具痕	5Y6/1	5Y6/1	9C
477	16-C-15 SA2	土・埦	口～胴	15.1				回転横ナデ	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9C～10C
478	16-C-15 SA1	須・甕	胴					格子目叩き　0.4	平行叩き	7.5Y5/1～6/1	7.5Y5/1	8C～9C
479	16-C-15 SA2	土・高坏	坏～脚					縦ナデ	横ミガキ・底部オサエ	10YR8/4	7.5YR8/6	6C後～7C

No.	出土地点・遺構	器種	部位	法量(cm)				調整・文様等		色調		備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面	
480	16-C-15 SA2	土・坏	胴～底		6.8			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/6	10YR7/6	9C～10C
481	16-C-15 SA2	土・坏	胴～底		8.2			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	5YR7/6	5YR7/6	9C～10C
482	16-C-15 SA2	土・埦	胴～底		7.6			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	9C～10C
483	16-C-15 SA2	土・埦	胴					回転ヘラ切・摩滅	摩滅	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9C～10C
484	16-C-16 4層	土・坏	胴～底		6.0			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	9後～10C前
485	16-C-16 SE1	土・坏	胴～底		5.4			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	10YR8/6	10YR8/6	9後～10C前
486	16-C-16 SE2	土・甕	底		11.2			縦ナデ・摩滅	不定ナデ	10YR7/4	7.5YR6/6	7C
487	16-C-16 SE2	土・坏	口～胴	15.5				横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横・斜めミガキ	10YR6/4	5YR6/6	7C中
488	16-C-16 SE2	土・坏	口～胴	18.5				横ナデ・横ミガキ・斜めミガキ	横ナデ・横ミガキ・斜めミガキ	5YR6/6	2.5YR6/6	7C中葉・赤色塗彩
489	16-C-16 SE1	須・坏	胴～底		7.5			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	5Y5/1	5Y5/1	7C
490	16-C-16 SE1	土・坏	胴～底		6.0			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9C～10C
491	16-C-16 SE2	土・埦	底	8.1				回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	9C～10C
492	16-C-16 SE2	土・坏	底		8.0			回転横ナデ・ヘラ切	不定ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9C～10C
493	16-C-16 SE3	土・埦	底		7.6			回転横ナデ・不定ナデ	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9C～10C
494	16-C-16 SE2	土・坏	口～底	13.2	6.8	4.5		回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9C～10C
495	16-C-16 SE3	土・埦	口～胴	13.5				回転横ナデ	回転横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	9C～10C
496	16-C-17 SA1	須・甕	胴					格子目叩き	平行条線当具痕	7.5Y5/1	5Y5/1	8C
497	16-C-17 SA1	土・埦	胴					回転横ナデ・不定ナデ	摩滅	10YR8/4	10YR8/4	9後～10C
498	16-C-17 SA2	土・埦	胴～底		7.6			回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9後～10C
499	16-C-17 SA2	須・埦	胴～底		10.4			回転横ナデ・ヘラ削り・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	5Y7/1・6/1	5Y7/1	9後～10C
500	16-C-17 SA2	土・埦	胴～底					回転横ナデ	回転横ナデ・黒色処理	10YR8/4	10YR2/1	9後～10C
501	16-C-17 SA2	土・坏	底		7.6			回転横ナデ・ヘラ切	不定ナデ	10YR8/4	10YR8/4	9後～10C
502	16-C-17 SA2	土・埦	胴～底		9.0			回転横ナデ	回転横ナデ	7.5YR8/6	7.5YR8/6	9後～10C
503	16-C-18 4層	土・坏	口～底	13.3	6.4	2.6		回転横ナデ・ヘラ削り・ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9後～10C前
504	16-C-18	土・坏	口～底	14.1	7.8	2.6		回転横ナデ・ヘラ切	不定ナデ	5YR7/8	5YR7/8	9後～10C前
505	16-C-18 SA1	土・坏	胴～底		8.2			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR8/6	7.5YR8/6	9後～10C前
506	16-C-18 4層	土・坏	口～底	13.0	6.2	3.9		回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	7.5YR6/6	7.5YR6/6	9後～10C前
507	16-C-18 4層	土・坏	口～底	13.8	6.6	3.9		回転横ナデ・ヘラ削り・ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	9後～10C前
508	16-C-18	土・埦	口～底	16.7	9.0	7.5		回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	2.5YR6/8	2.5YR6/8	9後～10C前
509	16-C-18	土・埦	口～底	16.4	8.8	7.3		回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9後～10C前
510	16-C-18 4層	土・埦	口～底	14.1	8.2	6.3		回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9後～10C前
511	16-C-18	土・埦	口～底	14.8	7.5	6.2		回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	5Y7/8	5Y7/8	9後～10C前
512	16-C-18	土・埦	口～底	14.5	7.9	5.8		回転横ナデ・不定ナデ	回転横ナデ・不定ナデ	2.5YR6/8	2.5YR6/8	9後～10C前
513	16-C-18 SA1	土・埦	胴～底		8.6			回転横ナデ・ヘラ削り・ヘラ切	ミガキ状ナデ	10YR8/4	5YR6/6	9後～10C前・内面赤色塗彩
514	16-C-18 SA1	土・埦	胴～底		8.2			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/6	10YR7/6	9後～10C前
515	16-C-18 4層	土・埦	胴～底		7.6			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9後～10C前
516	16-C-18 4層	土・埦	胴～底		7.7			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	9後～10C前
517	16-C-18 4層	土・坏	胴～底		7.8			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	9後～10C前
518	16-C-18	土・坏	口～底	12.8	7.8	4.6		回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/6	10YR8/6	9後～10C前
519	16-C-18 SA1	土・坏	胴～底		8.2			摩滅・回転ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/6	10YR8/6	9後～10C前
520	16-C-18 SA1	土・埦	胴～底		7.4			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR8/6	7.5YR8/6	9後～10C前
521	16-C-18 4層	土・埦	胴～底		8.2			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	9後～10C前
523	16-C-18 SA1	土・坏	胴～底		8.0			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	5YR6/6	5YR6/6	9後～10C前
524	16-C-18 SA1	土・坏	胴～底		6.1			回転横ナデ・ヘラ削り・ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/3	10YR8/3	9後～10C前
525	16-C-18 4層	土・坏	胴～底		6.6			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/6	10YR7/6	9後～10C前
526	16-C-18 4層	須・瓶	胴～底		12.8			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10Y2/1～3/1	10Y5/1	9後～10C前
527	16-C-18 SA1	須・瓶	口～頸	19.0				回転横ナデ	回転横ナデ	5Y8/1	5Y8/1	9後～10C前
528	16-C-18 4層	須・壷	口～頸	13.2				回転横ナデ	回転横ナデ	7.5Y4/1	7.5Y6/1～7/1	内面に灰かぶり
529	16-C-18 4層	土・坏	胴～底		8.2			回転横ナデ	回転横ナデ	10YR6/3	10YR7/3	9後～10C前
530	16-C-18 SA1	土・坏	胴～底		8.0			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	9後～10C前
531	16-C-21 SZ1	土・坏	胴～底		7.5			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR6/6	7.5YR6/6	9C
532	16-C-21 SZ2	須・甕	胴					格子目叩き　0.4cm	当具後ナデ消し	7.5Y6/1～5/1	7.5Y6/1～5/1	8C～9C
533	16-2-22 SZ	土・坏	胴～底		6.8			摩滅	摩滅	7.5YR7/8	7.5YR7/8	9C～10C

No.	出土地点・遺構	器種	部位	法量(cm)				調整・文様等		色調		備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面	
534	16-C-29 SE1	須・長頸壷	頸部					回転横ナデ・しぼり痕	回転横ナデ・しぼり痕	5Y3/1	5Y7/1・3/1	7C前
535	16-C-29 SE1	須・坏身	口～胴	9.5				回転横ナデ	回転横ナデ	5Y6/1	5Y5/1	7C前・灰かぶり
536	16-C-29 SE1	須・甕	胴部					擬格子目叩き	同心円当具痕	10YR6/1	5Y5/1	7C前
537	16-D-11 ①一括	土・坏	口～底	16.9	6.5	7.3		摩滅	摩滅	7.5YR6/8	7.5YR6/8	8C
538	16-D-13 2	須・埦	胴～底	10.3				回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	5Y7/1	5Y6/1	8C前
539	16-D-13 2	須・高盤	口～底	30.0	14.6	4.2		回転横ナデ・ヘラ削り・ヘラ切り	回転横ナデ・不定ナデ	5Y6/1	5Y6/1	8C前
540	16-D-14 SA	須・擂鉢	口～胴	27.6				回転横ナデ	回転横ナデ	2.5Y5/1	2.5Y5/1	14C前
541	16-D-15 SA1	土・坏	口～底	12.3	3.0	4.2		ミガキ	摩滅	5YR7/6	5YR7/6	7C前
542	16-D-15 SA1	土・坏	口～底	15.2	6.0	5.0		ミガキ・摩滅	ミガキ	5YR6/6	5YR7/6	7C前
543	16-D-15 一括	土・坏	口～胴	11.6				回転横ナデ・ミガキ	回転横ナデ	5YR5/6	7.5YR6/8	7C前
544	16-D-15 SA1	土・甑	胴～底		9.8			縦削り・不定ナデ	縦ナデ・横ナデ	7.5YR8/6	7.5YR5/1～8/4	7C
545	17-3-1 SP1	須・坏	胴～底		8.0			回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ	7.5Y7/1	5Y7/1	8C
546	17-3-1 SP1	須・埦蓋	口	14.5				回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ	5Y5/1	5Y5/1	8C前
547	17-3-1 SP2	土・坏	胴～底		8.0			回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ	10YR7/4	10YR6/4	9C～10C
551	17-3-3 ③	須・高盤	口～底	26.0				回転横ナデ・ヘラ削り・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	7.5Y6/1	2.5Y6/1～5Y4/1	8C
552	17-3-6 SA1	土・高坏	口～底	25.6				細かいヘラミガキ	細かいヘラミガキ	5YR1/6	5YR1/6	7C前・赤色塗彩
553	17-3-6 SA1	土・坏	口～底	15.3	6.5	7.8		ミガキ	ミガキ	2.5YR6/8	5YR7/6	7C前・赤色塗彩
554	17-3-6 SA1	土・壷	口～胴	12.1			27.8	横ナデ・摩滅	斜めナデ・横ナデ	10YR8/3	10YR8/3	7C前・穿孔あり
555	17-3-6 SA1	土・甕	胴～底		10.2			縦ナデ・不定ナデ	摩滅	7.5YR7/8	7.5YR8/4	7C前
556	17-3-6 SA2	土・坏	口～底	14.6	6.0	4.8		ミガキ	摩滅	7.5YR5/4	7.5YR5/4	7C前
557	17-3-6 SA2	土・坏	口～底	13.5	5.5	4.1		横ナデ・ミガキ	ミガキ	5YR7/6	5YR7/6	7C前
558	17-3-6 SA2	土・高杯	口～底	18.8	10.4	10.2		ミガキ・縦ナデ	ミガキ	5YR6/6	5YR7/6	7C前
559	17-3-6 SA1	土・甕	底					縦ナデ・横ナデ	縦ナデ	10YR8/4	10YR8/4	6～7C
560	17-3-6 SA1	土・甕	底		7.8			縦ナデ・不定ナデ	不定ナデ・縦ナデ	10YR4/1～5/1	10YR8/2	6～7C
561	17-3-6 SA1	土・甕	胴～底		6.0			不定ナデ	横ナデ・縦ナデ	10YR5/1	10YR7/2～7/3	6～7C・丸底気味
562	17-3-5 ④	須・埦	胴～底		7.0			回転横ナデ・ヘラ削り・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	2.5Y6/1	2.5Y6/1	8C後半
563	17-3-5 ④	須・甕	口～頸	18.8				回転横ナデ	回転横ナデ	7.5Y5/1	7.5Y5/1	8C後半・灰かぶり
564	17-3-5 ④	須・蓋	口	13.6				回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ	5YR6/6	5YR6/6	8C後・還元不全
565	17-3-7	土・皿	口～底	16.0	11.5	2.3		回転横ナデ	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	12C～
566	17-3-7	土・長胴甕	口～底	18.2	9.2	22.6		回転横ナデ・縦ナデ・不定	横ナデ・縦ナデ	10YR6/4	10YR5/4	7C後・木の葉底
567	17-A-4 SZ1	須・甕	口～胴	19.6				回転横ナデ・平行叩き	回転横ナデ・同心円当具痕	5Y6/1	5Y6/1	8C
568	17-A-4 SZ1	須・埦	口～底	12.8	9.3	3.6		回転横ナデ	回転横ナデ	10Y5/1	10Y5/1	8C後
569	17-A-4 SE1	須・埦蓋	天					回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ・不定ナデ	5Y4/1	2.5Y5/2	8C後
570	17-A-4 SZ1	土・坏	口～底	14.2	8.0	4.5		横ナデ・摩滅	ミガキ	10YR8/4～7/4	10YR5/4	8C
571	17-A-4 SZ1	須・台付壷	胴～底		11.7			平行叩き後カキ目・回転横ナデ	回転横ナデ・工具ナデ	7.5YR3/1～3/2	2.5YR4/1～5/1	8C
572	17-A-5 SA1	土・甕	胴～底		2.3		17.3	工具縦ナデ・粘土単位が明確	工具横ナデ	10YR7/3～7/4	10YR7/3～7/4	6C後・土器埋設炉
573	17-C-1 SA1	土・高杯	底					横ナデ・縦ナデ	摩滅	10YR8/4	10YR8/4	
574	17-C-1 ①	須・甕	頸					回転横ナデ・格子目叩	ナデ・当具痕	5Y6/1	5Y6/1	8～9C
575	17-C-1 ③	須・坏蓋	天～口	10.6		2.0		回転横ナデ・削り	回転横ナデ	7.5Y5/1	10Y4/1	7C前
576	17-C-1 ③	須・坏	口～底	9.2	6.1	3.1		回転横ナデ・沈線・ヘラ削り	回転横ナデ	N4/	N4/	7C前
577	17-C-2 SA1	須・坏	底		6.0			回転横ナデ・ヘラ切後ナデ	回転横ナデ・不定ナデ	7.5Y5/1	7.5Y5/1	
578	17-C-2 ④	須・埦	胴～底		9.8			回転横ナデ・削り・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	5Y5/1	5Y8/1	7C後半
579	17-C-2 ④	須・坏蓋	天～口	10.7		3.0		回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ	5Y2/1	5Y4/1	7C後半
580	17-C-3 SA1	須・甕	胴					平行叩き・カキ目	同心円当具痕後ナデ	7.5Y6/1	7.5Y7/1	8C前
581	17-C-3 SA1	縄・鉢	口					条痕・外側から穿孔	条痕	10YR7/2	10YR8/4	孔列文系土器
582	17-C-3 SA2	須・坏蓋	天～口	12.0				回転横ナデ・削り	回転横ナデ	10Y5/1	10Y5/1	6C後半
583	17-C-3 SA1	土・甕	胴～底		10.0			斜めナデ・ナデ	横ナデ	10YR8/3	7.5YR8/4	6C後半
584	17-C-3 SA2	土・高杯	底～脚		10.5			ミガキ・摩滅	摩滅	5YR6/4	5YR7/4	6C後半
585	17-C-4 SA1	土・壷	頸～底		5.5		18.4	横ナデ・縦ナデ	横ナデ・縦ナデ	10YR5/2	10YR8/4	6C後半

No.	出土地点・遺構	器種	部位	法量(cm)				調整・文様等		色調		備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面	
586	17-C-4 SA1	須・坏身	口～底	13.0	7.7	3.4		回転横ナデ・削り	回転横ナデ	N6/	N6/	TK43
587	17-C-5 SA1	土・坏	口～胴	12.4				横ナデ	横ナデ・摩滅	10YR8/4	10YR8/4	7C
588	17-C-5 SA1	土・高坏	脚部		12.0			縦ナデ	摩滅	7.5YR6/6	7.5YR8/6	7C
589	17-C-6 SA1	土・甕	口	25.1				横ナデ	横ナデ・摩滅	10YR8/4	10YR8/4	7C後半
590	17-C-7 SA1	土・坏	口					ミガキ・摩滅	ミガキ	5YR7/8	7.5YR8/8	7～8C
591	17-C-7 SA1	土・坏	底	8.0				回転ヘラ切	摩滅	10YR8/4	10YR8/4	
592	17-C-7 SA1	土・坏	底		11.5			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	5YR7/6	5YR8/4	8C
593	17-C-7 SA1	土・坏	口～底	16.3	13.6	3.8		回転横ナデ・不定ナデ	回転横ナデ	7.5YR6/8	7.5YR6/8	8C
594	17-C-7 SA1	土・甕	底		11.8			横ナデ	斜め・横ナデ	7.5YR8/4	5YR8/4	7C後半
595	17-C-7 SA1	土・甕	口					横ナデ	横ナデ	7.5YR7/4	7.5YR7/4	7C
596	17-C-7 SA1	土・鉢	口～胴	21.0				細横ミガキ・横ナデ・斜めナデ	細かい横ミガキ(丁寧)	5YR5/6	5YR5/6	8C前半・赤色塗彩
597	17-C-8 SA1	土・甕	胴～底		7.7		17.1	縦ナデ・摩滅・底部縦ナデ・粘土帯の痕跡		10YR8/4・7/4	10YR8/4・2/1	7C後半・土器埋設炉
598	17-C-8 一括	土・高杯	脚部					摩滅	摩滅	7.5YR6/5	10YR8/3	7C・赤色塗彩
599	17-C-9	土・高杯	底～脚		10.1			摩滅	摩滅	7.5YR8/6	5YR7/6	7C・赤色塗彩？
600	17-C-23	土・甕	胴～底		6.0			摩滅・粘土単位が明瞭	横ナデ・不定ナデ	10YR8/4	10YR6/2	7C
601	17-C-40 一括	土・大甕	口～底	31.2	2.5	33.0	30.5	右上がりの平行叩き・平行叩き・底部やや上げ底	不定ナデ・横ナデ・斜めナデ・横ナデ	10YR7/2～8/4	10YR8/4～8/6	4世紀後半
602	17-C-45 SA1	土・小壷	口～胴	8.5			10.2	回転横ナデ	回転横ナデ	10YR7/2～7/3	2.5Y7/2	9～10C
603	17-C-45 SA2	土・埦	胴～底		7.8			回転横ナデ	摩滅	7.5YR7/4	7.5YR7/4	9～10C
604	17-C-45 SA3	土・埦	胴～底		7.6			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	9～10C
605	17-C-45 SA3	土・坏	胴～底		9.2			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/4	10YR8/4	9～10C
606	17-C-45 SA1	土・坏	底		6.8			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/4	7.5YR7/4	9～10C
607	17-C-45 SA3	土・埦	胴～底		8.0			摩滅・底部に花弁状ナデ	摩滅	7.5YR8/6	7.5YR8/6	9～10C
608	17-C-45 SA1	土・坏	底		6.8			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/4	10YR8/4	9～10C
609	17-C-45 SA3	土・皿	口～底	10.4	7.4	1.8		回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/4	10YR8/4	11～12C
610	17-C-45 SA2	土・甑	把手					ナデ		10YR8/4	10YR8/4	7～8C
611	17-C-45 SA1	土・甑	口～底	24.5	16.7	23.8	21.0	全体的に摩滅・横縦のナデ	摩滅	10YR7/3	10YR7/6	8C後半
614	17-C-45 SA1	須・埦	底		7.0			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	7.5Y4/1	7.5Y4/1	8C後半
615	17-C-45 SA1	須・埦	胴～底		7.4			回転横ナデ・ヘラ削・ヘラ切	回転横ナデ	7.5Y4/1	N5/	8C後半
616	17-C-45 SA1	土・坏	底		7.6			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR6/3	10YR6/3	10C
617	17-C-45 SA1	土・瓦器埦	底		7.6			回転横ナデ・ミガキ	ミガキ	10YR4/1～3/1	10YR4/1～6/3	11～12C
618	17-C-45 SA1	土・埦	胴～底		8.2			回転横ナデ	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	10C
619	16-3-3 ①一括	緑釉陶・碗	底					施釉	施釉・圏文あり	濃緑色	濃緑色	9～10C
620	16-4-2 ④	緑釉陶・碗	体部					施釉・	施釉	黄緑色	黄緑色	9～10C
621	16-3-2 ②一括	白磁・碗	口	17.6				施釉	施釉	7.5Y7/2	7.5Y7/2	碗Ⅳ類？11後～12C
622	16-4-24 一括2	白磁・碗	口	17.6				施釉	施釉	10Y8/1	10Y8/1	碗Ⅱ類？
623	16-4-2 ③一括	白磁・碗	口	17.3				施釉	施釉	5Y8/2	5Y8/2	碗Ⅳ類
624	17-C-45 SA1	緑釉陶・碗	底		5.8			施釉	施釉　胎土は青灰色	深緑色	深緑色	9C～10C
625	17-C-45 SA1	緑釉陶・皿	口破片					施釉	施釉	7.5Y6/3黄緑色	7.5Y6/3黄緑色	9C～10C
626	17-C-45 SA1	緑釉陶・皿	口破片					施釉	施釉・圏文	10Y5/2	10Y5/2	9C～10C
627	16-C-11 4層	白磁・碗	口	17.6				施釉・下半は釉なし	施釉	7.5Y7/1	7.5Y7/1	碗Ⅳ類？
628	17-C-14 ④	白磁・碗	口					施釉・下半は釉なし	施釉	10Y8/1	10Y8/1	碗Ⅳ類　11後～12C
629	16-3-4 ①	青磁・碗？	底					施釉	施釉・花文	褐色	10Y6/2～5/2	龍泉窯系15C～
630	16-4-10 ①一括	青磁・碗	底		5.6			設釉	施釉・花文・圏文	10Y6/2	10Y6/2	龍泉窯系12C後半
631	16-4-1 ③下	陶・擂鉢	口～胴	27.1				回転横ナデ	回転横ナデ・擂り目あり	口縁部のみ5YR4/2	2.5YR4/6	備前系
632	17-C-45 SA1	青磁・皿	口	16.2				施釉・圏文	施釉	7.5Y6/2	7.5Y6/2	15C～
678	16-1-4 SE1	須・甕	頸					平行叩き	同心円当て具痕	2.5Y4/3	2.5Y6/1	7C
679	16-1-6 SZ1	土・高杯	底～脚					ナデ・縦ナデ	ミガキ状ナデ・摩滅	5YR6/6	7.5Y7/6	6C後・赤色塗彩
680	16-1-7 SA1	須・坏蓋	天～口	13.8		4.2		回転ナデ・回転ヘラ削り	回転ナデ	5Y4/1～5/1	5Y4/1	MT85～TK43
681	16-1-7 SA1	土・甕	底		7.8			不定ナデ	横ナデ	10YR7/6	10YR7/4～4/1	6後～7C・木の葉底
682	16-1-7 SA1	土・壷	底					斜め工具ナデ・ミガキ状ナデ・強い横ナデ	横ナデ・斜めナデ・オサエ	10YR6/6	10YR8/4	6後～7C

No.	出土地点・遺構	器種	部位	法量(cm)				調整・文様等		色調		備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面	
683	16-1-8 3+4+一括	土・短頸壺	口～胴	17.4				横ナデ・右上工具ナデ	横ナデ・横斜め工具ナデ	10YR6/6	10YR7/6	7C
684	16-1-7 SA2	土・甕	頸～胴				13.5	摩滅	縦ナデ	10YR7/6	10YR8/4	7C
685	16-1-7 SA2	土・片口長胴甕	口～胴	26.0				横ナデ・粘土単位明瞭	横ナデ・摩滅・不定ナデ	10YR7/6	10YR7/6	6C後～7C
686	16-1-7 SA2	土・模倣蓋	天～口	11.4				横ナデ・摩滅	摩滅	5YR5/6	5YR5/6	7C・赤色塗彩
687	16-1-7 SA2	須・蓋	天～口	16.0				回転横ナデ	回転横ナデ	10YR5/1	2.5Y6/1	7C前半
688	16-1-7 SA2	土・甕	底部		5.7			強い工具ナデ	摩滅	10YR6/4	10YR7/3	7C前半
689	16-1-7 SA2	土・小型甕	口～胴	14.0				横ナデ・縦ナデ	横ナデ	10YR4/2	10YR4/3	7C前半
690	16-1-8	須・高杯	底～脚		9.8			回転ヘラ削り・しぼり痕・回転横ナデ	回転横ナデ	N3	7.5Y4/1	7C前半
691	16-1-9 SA1	土・埦	胴～底		11.5			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	7.5YR7/6～6/6	7.5YR7/6～6/6	8C後半
692	16-1-9 SZ1	須・高杯	底～脚					回転横ナデ	不定ナデ	2.5Y7/2	2.5Y7/2	8C
693	16-2-12 SA1	須・蓋	つまみ					ナデ	不定ナデ	5Y5/1	5Y5/1	8C
694	16-2-12 SA1	須・平瓶？	口破片					回転ナデ	回転ナデ	5Y4/1	7.5Y4/1	6～7C
695	16-2-12 埋土2	土・甕	底部		7.2			縦ナデ	不定ナデ	10YR8/4	10Y5/1～4/1	6～7C
696	16-B-3 5層	須・埦蓋	天					回転横ナデ	不定ナデ	5Y5/1	5Y5/1	8C
697	16-B-3 5層	土・皿	口～底	7.2	5.6	1.3		回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	10YR6/2	10YR6/2	13～14C
698	16-B-3 5層	土・埦	胴～底		7.1			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	7.5YR6/6	7.5YR6/6	9～10C
699	16-B-3 4層	土・坏	口～底	11.2	6.0	3.9		回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	7.5YR8/6	7.5YR8/6	8C前
700	16-B-4 SA1	土・大型鉢	口～底	24.5	8.0	15.4		回転横ナデ・ナデのち横ミガキ・縦ナデ	回転横ナデ・横ミガキ	10YR7/4	10YR7/4	6末～7C前
701	16-B-4 SA1	土・鉢	口～胴	16.2				工具横ナデ・縦ナデ	工具横・縦ナデ	10YR7/4	10YR7/4	6末～7C前
702	16-B-4 SA1	土・高杯	脚部		14.4			横ナデ	摩滅	7.5YR6/8	7.5YR6/8	6末～7C前
703	16-B-4 SA1	土・甕	口～底	19.2	5.5	25.0	25.4	横ナデ・工具横ナデ・工具斜めナデ・摩滅	横ナデ・工具横ナデ・不定ナデ	7.5YR8/6	口縁付近10YR8/6 底部付近10YR5/1	6末～7C前
704	16-B-4 SA1	土・甕	口～胴	18.6				横ナデ・平行叩き	横ナデ・斜めナデ	10YR8/4	10YR8/4	6末～7C前
705	16-B-4 SA1	須・坏身	口～胴	11.0				回転横ナデ	回転横ナデ	10BG5/1	10BG5/1	6末～7C前
706	16-B-4 SA1	須・大甕	胴破片					擬格子目叩き	同心円当具痕	5Y4/1～4/2	5Y4/1～4/2	6末～7C前
707	16-B-5 SA1	土・鉢	口	13.2				横ナデ・縦ナデ	横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	6～7C
708	16-B-5 SA1	土・甕	底		9.9			横ナデ	横ナデ	10YR8/4	10YR8/4	7C・木の葉底
709	16-B-5 SA1	須・埦	胴～底		12.4			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	2.5Y6/1	2.5Y7/1	8C前
710	16-B-5 SA1	土・鉢	底		6.0			ナデ・オサエ	不定ナデ	7.5YR8/6	7.5YR8/6	7C
711	16-B-5 SA1	土・高坏	脚部					縦ナデ	横ナデ	10YR8/4	10YR8/4	7C
712	17-2-5 SH1	須・甕	胴部					擬格子目叩き後カキ目	同心円当具痕	2.5Y6/1～5/1	2.5Y6/1	6末～7C前
713	17-2-8 SA1	須・埦	口～胴	11.6				回転横ナデ	回転横ナデ	7.5Y5/1	7.5Y6/1	8C後
714	17-2-8 SA1	須・埦	底		11.4			回転横ナデ	回転横ナデ	7.5Y5/1	7.5Y6/1	8C後
715	17-2-8 SA1	須・甕	胴部					平行叩き後カキ目	同心円当具痕	2.5Y6/2	2.5Y7/1	8C前・表面に砂
716	17-2-16 SE1	土・皿	底		10.3			回転ヘラ削り後ナデ	回転横ナデ・不定ナデ	10YR7/4	10YR7/4	8C後半
717	17-2-19 SE1	土・鞴羽口	破片					鉄滓付着		2.5Y6/1・2.5Y7/4	2.5Y7/4	
718	17-2-10 SA1	土・甕	口～胴	28.3				回転横ナデ・縦ハケ・横ハケ	回転横ナデ・横ハケ	7.5YR8/4	7.5YR7/6	9C
719	17-2-10 SA2	土・坩	口～胴	12.4				摩滅	摩滅	10YR5/4	10YR5/4	7C
720	17-2-10 SA2	土・皿	口～底	7.3	6.2	1.2		回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR6/4	10YR6/4	15C～
721	17-2-10 SA2	土・皿	口～底	7.7	6.2	1.2		回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR6/4	10YR6/4	15C～
722	17-2-10 SA2	土・坏	胴～底		8.5			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	8C
723	17-2-10 SA3	土・坏	胴～底		8.3			摩滅	摩滅	10YR7/4	7.5YR7/6	9C～10C
724	17-2-10 SA3	須・埦	胴～底		7.4			回転横ナデ・ヘラ削り・切	回転横ナデ	7.5Y5/1	10Y5/1	9C
725	17-2-10 SA1	土・製塩	胴～底		1.5			摩滅	摩滅	2.5YR5/6	2.5YR5/6	
726	17-2-10 SA1	須・坏	口～胴	12.0				回転横ナデ・カキ目	回転横ナデ	5Y6/1	5Y7/1	9C
727	17-2-10 SA1	土・坏	胴～底		8.9			摩滅・回転ヘラ切	摩滅	10YR7/4	10YR7/4	
728	17-2-11 SA2	土・甕	胴～底		9.5		24.3	斜め工具ナデ・不定ナデ	工具横ナデ・オサエ	10YR7/4	10YR7/4	7C前・土器埋設炉
729	17-2-11 SA1	土・坏	口～底	14.1	7.1	4.2		回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR8/6	7.5YR7/6	8～9C
730	17-2-11 SA3	土・製塩	胴～底		1.8			摩滅	摩滅	5YR5/6	5YR6/8	
731	17-2-11 SA3	須・短頸壺	口～胴	8.6			11.3	回転横ナデ	回転横ナデ	10Y7/1	7.5Y6/1	7C
732	17-2-35 SE1	土・坏	胴～底		7.4			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	8C
733	17-2-35 SE1	須・壺	胴～底		10.0			回転横ナデ	回転横ナデ	7.5Y7/1	7.5Y6/1	8C

No.	出土地点・遺構	器種	部位	法量(cm)				調整・文様等		色調		備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面	
734	17-2-35 SE1	須・埦	胴～底		7.4			回転横ナデ	回転横ナデ	5Y8/1	5Y8/1	8C
735	17-2-35 SE1	土・埦	胴～底					摩滅	摩滅	7.5YR8/6	7.5YR8/6	9～10C
736	17-2-35 SE1	土・皿	口～底	9.2	8.0	1.2		回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/4	10YR8/4	15C
737	17-A-7 SA1	土・甕	胴～底		2.1			縦ナデ・斜めナデ	工具横ナデ・縦ナデ	10YR7/4	10YR7/3	6末～7C前
738	17-A-7 SA1	土・製塩	口～胴	19.0				摩滅	布痕	7.5YR7/6	10YR5/1	
739	18-2-3 SA2	土・鉢	口～胴	14.0				横ナデ・摩滅	摩滅	5YR6/8	7.5YR8/6	9C～10C
740	18-A-9 SA1	須・台付瓶	底		10.0			回転ナデ・削り・ヘラ切	回転ナデ	10Y4/1	7.5Y5/1	8後～9C前
741	18-A-9 SA1	須・甕	胴					擬格子目叩き	平行当具痕	N3/～4/	7.5Y4/1	8C後
742	18-A-10 SE1	須・埦	胴～底		8.2			回転ナデ・削り	回転ナデ	2.5Y6/3	5Y6/1	8C
744	18-A-14 SH1	須・蓋	天～口	17.1				回転ヘラ削り・回転横ナデ	回転横ナデ・不定ナデ	5Y5/1	5Y5/1	TK43
745	18-A-16 SH1	土・甕	口～頸	16.0				横ナデ・工具ナデ	横ナデ・工具ナデ	10YR7/3	2.5Y4/1	7C
746	18-A-17 SH3	土・高坏	底～脚		11.0			回転横ナデ	不定ナデ	10YR8/4	10YR8/4	8C
747	18-A-3 SA1	土・甕	口～胴	21.0				横ナデ・粗い縦刷毛	横ナデ・工具横ナデ	10YR4/3 10YR7.5YR5/6	7.5YR5/4～5/6	8C末～9C前・外来系胎土・豊後大分系企救型甕？
748	18-A-12 炉跡	土・甕or甑	口～胴	28.6				粗い横ナデ・縦ナデ摩滅が著しい・粘土単位が明瞭	横ナデ丁寧・粘土単位を消す・摩滅	10YR7/4 7.5YR6/6～6/8	7.5YR7/6～8/6・7.5YR5/2	6～7C
749	18-A-12 SH5	須・埦蓋	天～口	13.8		3.0		回転ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ	5Y5/1	5Y5/1	8C後～9C前
750	18-A-12 SC1	須・高杯	脚部					回転ナデ・しぼり痕	不定ナデ	5Y5/1	5Y5/1	7C？
751	18-A-12 検	土・埦	底		8.0			回転横ナデ・ヘラ切	回転ナデ	10YR8/4	10YR8/4	9C後～10C
752	18-A-17 SZ1	須・甕	胴					平行叩き	同心円当具痕	10Y5/1	7.5Y5/1	8～9C
753	18-A-17 SZ1	須・甕	胴					平行叩きのちカキ目	同心円当具痕	5Y4/1	2.5Y6/2	6～7C
754	18-A-17 SZ1	須・壷	頸部					回転横ナデ	回転横ナデ	N6/	5Y6/1	8C
755	18-A-17 SZ1	須・埦	底	11.4				回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ後不定ナデ	N4/	N4/	8C後半
756	18-A-17 SE1	須・蓋	口	16.0				回転ヘラ削・回転横ナデ	不定ナデ	5Y6/1	5Y6/1	8C後半
757	18-A-18 SC1	須・蓋	つまみ					回転横ナデ	回転横ナデ	7.5Y5/1	5Y7/1	8C後半・灰かぶり
758	18-A-18 SC1	須・蓋	天					回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ	5Y5/1	7.5Y5/1	8C後半・内面磨研・転用硯？
759	18-A-18 SC1	須・甕	胴破片					格子目叩き 0.3	同心円当具痕後ナデ	7.5Y4/1	5Y5/1	8C
760	18-A-18 SC1	土・高杯	脚部					縦ナデ	摩滅	7.5YR7/6	7.5YR6/6	7C
761	18-A-18 SC1	土・高坏	脚部					削り(脚部)	摩滅	7.5YR5/6	7.5YR5/6	7C・外来系胎土
762	18-A-18 SC1	土・埦	胴～底	9.2				回転横ナデ	摩滅	7.5YR8/6	7.5YR8/6	9後～10C
763	18-A-18 検	土・坏	口～底	12.6	7.3	3.5		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR8/6	7.5YR8/6	9後～10C
764	18-A-18 SC1	土・高台付盤	胴～底	10.2				回転横ナデ	回転横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	8C
765	18-A-18 SC1	須・甕	口縁	20.4				回転横ナデ・カキ目	回転横ナデ	N5/	N5/	8C
766	18-A-18 SC1	須・甕	口～胴	17.9				回転横ナデ・格子目叩・ナデ	回転横ナデ・波状当具痕	7.5Y8/1	7.5Y8/1	8C
767	18-A-22 SA1	須・提瓶	口	6.0				回転横ナデ	回転横ナデ	5Y6/1	5Y6/1	6C・灰かぶり
768	18-A-26 SE1	須・埦	胴～底		9.2			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	2.5Y5/2	2.5Y5/2	7C末～8C
769	18-A-28 SZ1	須・甕	頸～胴					回転横ナデ・平行叩き	回転横ナデ・波状当具痕	5Y5/1	5Y5/1	8C
770	18-A-29 SE1	須・坏身	口～胴	10.3				回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ	7.5YR5/2	2.5Y5/1	TK10～MT85
771	18-A-29 SE1	須・坏	底		6.5			回転ヘラ削り・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	5Y5/1	5Y6/1～5/1	10C
772	18-F-10 SE1	土・甕	口～底	13.2	6.0	13.5	12.5	回転横ナデ・縦ナデ	回転横ナデ・摩滅	10YR8/6	10YR7/4	7C前
773	18-F-14 一括	縄・鉢	口					爪形文	ナデ	7.5YR7/4	10YR7/4	縄文早期
774	17-2-6 SZ一括	白磁・皿	底		5.8			施釉・高台は釉なし	施釉	2.5GY8/1	2.5GY8/1	12C後半
775	18-A-24 SE1	青磁？・碗	底		5.1			施釉・見込釉なし・スタンプ花文	施釉	10Y8/1灰白の釉	10Y8/1	龍泉窯系15C～
776	18-A-32 検一括	白磁・皿	底					施釉・高台は釉なし	施釉	7.5Y8/1	7.5Y8/1	皿Ⅹ1類？
777	17-1-24 SA	青磁・碗	口～胴	13.2				施釉・口縁下に波紋	施釉	10Y6/2	10Y6/2	龍泉窯系 15C
806	17-1-7 一括	須・甕	頸部					格子目叩きのちカキ目	回転ナデ・同心円当具痕	5Y5/1	5Y4/1	7C
807	17-1-E SA1	須・水瓶	頸部					回転ナデ	内面灰かぶり	N7/	N6/	7C後～8C
808	17-1-E SA1	土・埦	口～胴	15.0				回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ	10YR6/4	10YR7/4	8C
809	17-1-E SA2	須・埦	胴～底		8.0			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	N5/	7.5Y5/1	8C後
810	17-1-I SE1	土・埦	胴～底		6.7			摩滅	摩滅	7.5YR8/6	7.5YR8/6	9C後～10C
811	18-1-9 SE1	土・坏	底		6.6			回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	7.5YR6/6	7.5YR6/6	9C後～10C前
812	18-1-11 SE2	土・埦	底		9.5			回転横ナデ・底部花弁状ナデ	ミガキ・黒色処理	10YR8/4	10YR2/1	10C前
813	18-1-11 SZ1	土・埦	口～胴	15.2				回転横ナデ	回転横ナデ	10YR7/6	10YR7/6	9C後～10C

No.	出土地点・遺構	器種	部位	法量(cm)				調整・文様等		色調		備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面	
814	18-1-11 SE2	土・埦	胴～底		8.6			回転横ナデ	回転横ナデ	10YR7/6	10YR7/6	9C後半～10C前
815	18-1-11 SE2	土・坏	口～底	13.4	7.4	4.3		回転横ナデ・ヘラ切	回転横ナデ	10YR8/4	10YR6/4	9C後半～10C前
816	18-1-12 SA1	土・坏	口～胴	13.8				横ナデ・摩滅	摩滅	10YR7/3～7/4	10YR7/3～7/4	7C
817	18-B-15 SA1	須・埦	胴～底	6.8				回転横ナデ	回転横ナデ	5Y6/1	5Y6/1	9C後～10C・軟質焼成
818	18-B-20 SH3	須・甕	胴					平行叩きのちナデ	波状当て具痕のち平行当具	N6/	N6/	7C
819	18-B-20 SA1	弥生・壷	口～胴	13.4				横ナデ・縦ハケ後横ミガキ	横ハケ・横ミガキ・オサエ・縦ハケ	5YR4/4～6/8	5YR3/2～7.5YR6/4	弥生後期前半・赤色塗彩
820	18-B-21 SC1	弥生・甕	底部		6.6			縦ハケ・回転横ナデ	縦ナデ	10YR6/2 10YR4/1	10YR4/1	弥生中期末～後期前半
821	18-B-21 SP12	弥生・甕	底部		5.8			摩滅	縦ナデ	10YR5/3	10YR5/2	〃
822	18-B-21 検一括	弥生・甕	口～胴	25.6				横ナデ・オサエ・凸帯貼付・横ナデ・縦ナデ	横ナデ・斜めハケ・縦ハケ	10YR7/4～6/2	10YR7/4～2/1	〃・在地系甕
823	18-B-22 SA1	弥生・甕	底		8.0			摩滅	摩滅	10YR7/4	10YR6/2	6C後半
824	18-B-23 SA1	弥生・甕	口～胴	23.2				回転横ナデ・縦ハケ	横ナデ・横ハケ・縦ハケ	10YR5/2	10YR7/3	弥生後期前半
825	18-B-22 SE1	須・提瓶	口	7.2				回転横ナデ・線刻	回転横ナデ	2.5GY6/1	2.5GY6/1	6C後半
826	18-B-23 SC3	須・提瓶	口	8.8				回転横ナデ	回転横ナデ	2.5Y4/1	2.5Y5/2～5/1	6C
827	18-B-23 SA1	縄・鉢	口					条痕・外側から穿孔(貫通しない)	条痕文	2.5Y7/3	2.5Y7/3	孔列文系土器
828	18-B-24 SE1	須・坏or皿	底	9.6				回転横ナデ・削り・回転ヘラ切	回転横ナデ	2.5Y6/2	2.5Y6/1	8C
829	18-B-28 SE2	縄・鉢	口					条痕・外側から穿孔(貫通しない)	条痕文	7.5YR7/4	10YR8/2	孔列文系土器
830	19-C-1 SZ1	土・坏	口～底	9.8	7.0	1.9		回転横ナデ・回転ヘラ切	回転横ナデ・不定ナデ	10YR8/3	10YR8/3	11～12C
831	19-C-2 SD2	須・甕	胴					擬格子目叩きのちカキ目	同心円当具痕	2.5Y6/1	2.5Y5/1	6C後～7C
832	19-C-6 SE1	土・大甕	底		11.7			横ナデ	縦ナデ	10YR8/4	10YR8/4	6C後～7C
833	19-C-6 SE1	土・片口甕	口～胴	34.0				横ナデ	横工具ナデ	10YR8/4	10YR8/4	6C後半
834	19-C-8 SA1	須・埦	胴～底					摩滅	摩滅	2.5Y8/3	2.5Y6/1	軟質・7C後半
835	19-C-8 SA1	土・甕	口～胴	14.6			15.2	横ナデ・工具縦ナデ	横ナデ・工具斜めナデ	10YR8/4	10YR8/4	7C後半
836	19-C-7 地床炉上	土・甑	胴～底		6.7			横ナデ	縦ナデ・横ナデ	10YR7/3	10YR7/2	7C後半
837	19-C-7 地床炉上	土・甕	底		9.7			横ナデ	横ナデ	10YR7/3	10YR7/3	7C・木の葉底
838	19-C-7 地床炉上	土・甕	口					横ナデ	横ナデ	10YR7/3	10YR7/3	
839	19-C-7 地床炉上	土・高杯	脚					縦ナデ・横ナデ	縦ナデ	10YR8/3	10YR8/3	6C後～7C
840	19-C-7 SE1	須・埦	胴～底		8.4			回転横ナデ・ヘラ削り	不定ナデ	N5/	N5/	7C後半
841	19-C-7 SE1	須・甕	胴					擬格子目叩きのちカキ目	同心円当具痕	5Y7/1	2.5Y5/1	8C
842	19-C-7 地床炉	土・甕	胴～底		8.5		21.2	右上平行叩き・工具縦ナデ	工具横ナデ	10YR7/3	10YR4/1	7C
843	19-C-7 SA1	土・甕	口～胴	28.2				横ナデ	斜め工具ナデ	10YR7/4	10YR7/4	7C
844	19-C-7 SA1	土・浅鉢	口～胴	23.0				横ナデ・縦ナデ・摩滅	横ナデ・工具横ナデ	10YR8/4	10YR8/4	7C
845	19-C-7 SA1	須・埦蓋	天					回転横ナデ	回転横ナデ	N6/	N6/	8C
846	19-C-7 SA1	須・埦蓋	口～天	13.8				回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ	5Y6/2	5Y6/2	8C後
847	18-1-16 SA-4	緑釉陶・皿	口					施釉	施釉	淡緑色	淡緑色	9～10C
848	17-1-20 SZ一括	灰釉陶・瓶？	体～底		8.2			施釉	回転ナデ　釉なし	7.5Y6/3	7.5Y8/1	10C
849	18-1-16 SA4	青磁・碗	口破片					施釉・蓮弁文	施釉	明るいオリーブ灰の緑系	明るいオリーブ灰の緑系	龍泉窯系　15～16C
850	18-1-1 SE1	青磁・皿	底		6.7			施釉・高台内釉なし	施釉	淡緑色	淡緑色	龍泉窯系15～16
851	18-B-17 SE1	青磁・碗	体～底		5.0			施釉	施釉	深緑色	深緑色	龍泉窯系15C～
852	17-1-8 SE一括	染付・皿	底		4.0			施釉・畳付～底釉なし	見込に文字？	2.5GY8/1	2.5GY8/1	小野分類C群16C前半
853	18-B-16 SE1	染付・皿	口～底	12.0	6.9	2.8		施釉・圏線・唐草文	施釉・圏線・十字花文	10GY8/1	10GY8/1	小野分類B-1群16C前
854	18-1-1 SE1	陶・擂鉢	胴～底		13.2			回転横ナデ・ヘラ削り	回転横ナデ調整後底面まで擂り目が施される	5YR3/6	5YR3/6	16C末～17C
855	18-1-1 SE1	陶・擂鉢	胴～底		15.4			回転横ナデ・不定工具ナデ	擂り目あり。磨痕	5YR5/2	N5/	備前系

Tab. 5　　石器・石製品観察表

No	種別	出土地点	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	出土遺跡	縮尺
147	磨石	18-E-3 SE1一括②	砂岩	5.4	4.5	3.8	132.09	堂ヶ嶋遺跡	1/4
148	砥石	19-A-7 SZ1一括	頁岩	10.1	4.2	2.2	183.31	堂ヶ嶋遺跡	1/4
149	硯	18-3-15 SE1一括	輝緑凝灰岩？	10.8(残存部)	7	1.3	179.8	堂ヶ嶋遺跡	1/4
264	磨製石斧未製品	16-D-19 SA1 14	頁岩	8.7	5.4	2.5	214.96	寺崎遺跡	1/4
265	有肩打製石斧	20-B-4 SE1一括	頁岩	10.7	6.1	1.1	104.74	寺崎遺跡	1/4
266	磨製石斧	20-B-1 検一括	砂岩	11.4	5.6	3.3	323.88	寺崎遺跡	1/4
267	石錘	16-D-19 SA 一括	頁岩	6.15	4.5	1.65	72.74	寺崎遺跡	1/4
268	石錘	19-B-7 SE1 一括	頁岩	7.5	4.6	1.8	82.71	寺崎遺跡	1/4
269	磨敲石	20-1-6 SA1 一括2	尾鈴山酸性岩類	14	9	5	716.83	寺崎遺跡	1/4
270	砥石	20-1-9 SA1 2区一括	砂岩	9.1	2.5	1.25	57.33	寺崎遺跡	1/4
295	石錘	18-D-4 一括	頁岩	9.3	4.6	2.4	131.2	上妻遺跡	1/4
296	磨敲石	19-D-4 撹乱土一括-1	尾鈴山酸性岩類	7.9	7.4	4.6	401.1	上妻遺跡	1/4
297	石錘	19-D-4 撹乱土一括2	頁岩？	10.2	5.15	1.8	182.67	上妻遺跡	1/4
298	石錘	20-3-2 包含層一括	砂岩	8.65	5.7	1.75	157.4	上妻遺跡	1/4
633	有肩打製石斧	16-3-10 ①	頁岩	8	5.5	1.1	60.64	法元遺跡	1/4
634	打製石斧	17-3-1 SP4 一括	砂岩	6	4.5	1.3	60	法元遺跡	1/4
635	石錘	16-4-15	砂岩？	5.9	5.4	1.3	61.41	法元遺跡	1/4
636	石錘	16-4-18	頁岩	6	4.85	1.6	68.55	法元遺跡	1/4
637	石錘	16-4-20	砂岩	7.2	5.6	1.45	86.47	法元遺跡	1/4
638	石錘	16-4-24 2 一括1	頁岩	7.4	5.5	1.7	98.69	法元遺跡	1/4
639	石錘	16-4-24 ②一括2	頁岩	6.7	5.6	2.6	122.27	法元遺跡	1/4
640	石錘	16-4-24 ②一括3	砂岩	12.5	5	1.3	75.64	法元遺跡	1/4
641	石錘	16-4-25 ①	砂岩	6.5	4.65	1.9	94.31	法元遺跡	1/4
642	石錘	16-4-25 SA4	頁岩	8	4.4	1.9	98.71	法元遺跡	1/4
643	石錘	16-4-25 SA-6	砂岩	7.3	4.7	1.4	79.25	法元遺跡	1/4
644	石錘	16-4-26 SA1	頁岩	6.9	4.5	1.45	81.52	法元遺跡	1/4
645	石錘	16-4-26 SA1-2	頁岩	6.2	5.55	1.1	67.9	法元遺跡	1/4
646	石錘	16-4-27②	頁岩	8.9	5.8	2.3	193.81	法元遺跡	1/4
647	石錘	16-4-30 SA1一括	頁岩	7.3	5.45	2.4	144.67	法元遺跡	1/4
648	石錘	16-C-7 一括	頁岩	7.15	4.8	2.3	122	法元遺跡	1/4
649	石錘	16-C-14 SE1 一括	砂岩	8.6	3	1.2	353.66	法元遺跡	1/4
650	石錘	16-C-15 SA2 一括1	頁岩	6.5	5	1.3	75.34	法元遺跡	1/4
651	石錘	16-C-16 1(SE1)	頁岩	8.4	6.8	1.7	143.3	法元遺跡	1/4
652	石錘	16-C-16 SE3一括	頁岩	6.85	5	1.45	79.58	法元遺跡	1/4
653	石錘	16-C-16 4層一括1	頁岩	8.3	5.7	1.6	118.05	法元遺跡	1/4
654	石錘	16-C-17 SA一括4	砂岩	6.8	5.1	1.9	89.32	法元遺跡	1/4
655	石錘	16-C-18 SA	頁岩	4.8	4.7	1.75	63.05	法元遺跡	1/4
656	石錘	16-D-10 SC2一括	砂岩	8.45	5.2	0.95	74.33	法元遺跡	1/4
657	石錘	16-D-13 ②	砂岩	7.15	4.6	1.65	82.07	法元遺跡	1/4
658	石錘	16-D-14 ①	砂岩	6.6	5.5	1.3	63.98	法元遺跡	1/4
659	石錘	16-D-16 ②	砂岩	8	6.3	1.3	104.72	法元遺跡	1/4
660	石錘	16-D-16 SE一括1	頁岩	～	5.9	2.5	162.11	法元遺跡	1/4
661	石錘	16-D-16 SE一括2	砂岩	7.3	5.25	1.5	98.24	法元遺跡	1/4
662	石錘	16-D-16 SE一括3	砂岩	5.4	4.9	1.4	53.15	法元遺跡	1/4
663	石錘	17-3-3 ① 一括	頁岩	6.8	5.8	2.15	122.04	法元遺跡	1/4
664	石錘	17-C-3 SA2一括	頁岩	6.7	4.1	2	83.9	法元遺跡	1/4
665	石錘	17-C-7 SA2 2	頁岩	5.7	4.3	1.2	41.77	法元遺跡	1/4
666	石錘	17-C-38 一括	砂岩	7.5	5.05	1.5	85.4	法元遺跡	1/4
667	石錘	17-C-45 SA1 下層2	頁岩	8.05	8.1	2.25	217.59	法元遺跡	1/4
669	石錘	16-4-10 ① 一括	砂岩	6.8	5.6	1.2	83.96	法元遺跡	1/4
670	磨石	16-C-17 SA一括2-1	ホルンフェルス	8.3	4.7	2.5	153.86	法元遺跡	1/4
671	磨石	17-C-45 SA2一括1	砂岩	8.4	7.7	4	353.66	法元遺跡	1/4
672	磨敲石	16-C-17 SA一括2-2	尾鈴山酸性岩類	10.5	7.8	4.6	640.67	法元遺跡	1/4
673	磨石	17-C-45 SA3一括1	頁岩	7.1	7.2	5	379.39	法元遺跡	1/4
674	砥石	16-C-4 4層 2	頁岩	11	3	1.8	67.79	法元遺跡	1/4
675	砥石	16-C-29 SE 一括2	砂岩	9.3	2.85	1.2	66.12	法元遺跡	1/4
676	砥石	17-A-4 SZ 14	砂岩	22	11	6.1	2600	法元遺跡	1/4
677	磨製石斧	17-C-45 SA3一括1	砂岩	9.8	4.7	2.5	160.73	法元遺跡	1/4
778	砥石	17-1-20 SZ一括2	砂岩	5.3	2.7	0.7	21.65	童子丸遺跡	1/4
779	石錘	17-2-8 SA2	頁岩	6.9	4.9	1.2	65.14	童子丸遺跡	1/4
780	石錘	17-2-10 SA2 3	頁岩	9.3	7.9	1.45	166.05	童子丸遺跡	1/4
781	石錘	17-2-20 1	頁岩	6.2	5.25	1.25	60	童子丸遺跡	1/4
782	石錘	17-2-35 SE一括2	砂岩	5	5.9		60.86	童子丸遺跡	1/4
783	石錘	18-2-1 検一括-1	頁岩	6.2	5.3	0.6	34.55	童子丸遺跡	1/4
784	石錘	18-2-1 検一括-2	頁岩	4.3	3.5	0.7	15.62	童子丸遺跡	1/4
785	石錘	18-A-23 SH1一括	砂岩	9.1	7.6	2.1	250.28	童子丸遺跡	1/4
786	石錘	18-A-26 SE1一括-3	頁岩	7.3	6.3	2	142.52	童子丸遺跡	1/4

No	種別	出土地点	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	出土遺跡	縮尺
787	石錘	18-F-15 SC1一括-2	頁岩	8.8	5.5	1.5	118.97	童子丸遺跡	1/4
788	石錘	18-F-15 SC1一括-3	砂岩	8.3	5.65	1.5	136.41	童子丸遺跡	1/4
789	石錘	18-F-17 一括	砂岩	5.1	5.2	1.45	60.98	童子丸遺跡	1/4
790	砥石	18-A-22 SA1一括	砂岩	30.5	8.5	7	2600	童子丸遺跡	1/4
791	砥石	16-B-2 5層 一括	砂岩	11.1	2.55	1.7	85.19	童子丸遺跡	1/4
792	砥石	18-A-26 SE1一括-2	砂岩	11	5.5	2.2	180.04	童子丸遺跡	1/4
793	砥石	18-A-9 SA1一括	頁岩	8.5	3.8	2.3	142.16	童子丸遺跡	1/4
794	砥石	17-1-20 SZ一括1	砂岩	12.4	5.5	1.8	199.62	童子丸遺跡	1/4
795	砥石	18-A-26 SE1一括-1	頁岩	9.5	21.5	2.7	170.93	童子丸遺跡	1/4
796	打製石斧	18-F-16 一括	頁岩	12	4.3	1.5	96.6	童子丸遺跡	1/4
797	磨石斧未製品	17-2-35 SE一括1	砂岩	9.8	5.1	1.4	119.24	童子丸遺跡	1/4
856	石錘	18-1-1 SE 一括	砂岩	8.2	5.5	1.6	104.58	石貫遺跡	1/4
857	石錘	18-1-2 検一括	頁岩	9.5	7.7	1.6	180.39	石貫遺跡	1/4
858	石錘	18-1-6 SC1一括	頁岩	6	4.3	0.9	39.46	石貫遺跡	1/4

Tab. 6　銭貨観察表

No	出土位置	銭名	法量・直径(cm)	重量(g)	所見	出土遺跡
150	18-E-2 SD1	不明	2.8	2.86	鉄銭。	堂ヶ嶋遺跡
151	18-E-2 SD1	寛永通宝	2.5	3.54	古寛永。	堂ヶ嶋遺跡
152	18-E-2 SD1	寛永通宝	2.3	1.49	新寛永。	堂ヶ嶋遺跡
153	18-E-2 SD1	寛永通宝	2.3	2.49	新寛永。	堂ヶ嶋遺跡
154	18-E-2 SD1	寛永通宝	2.4	1.83	古寛永。	堂ヶ嶋遺跡
155	18-E-2 SD1	寛永通宝	2.3	2.91	新寛永。	堂ヶ嶋遺跡
156	18-E-2 SD2	寛永通宝	2.3	2.04	新寛永。	堂ヶ嶋遺跡
157	18-E-2 SD2	寛永通宝	2.4	3.07	古寛永。	堂ヶ嶋遺跡
158	18-E-2 SD2	寛永通宝	2.3	1.85	新寛永。	堂ヶ嶋遺跡
159	18-E-2 SD2	寛永通宝	2.2	1.88	新寛永。背文「元」。	堂ヶ嶋遺跡
160	18-E-2 SD2	寛永通宝	2.2	2.48	新寛永。	堂ヶ嶋遺跡
161	18-E-2 SD2	寛永通宝	2.3	2.64	新寛永。	堂ヶ嶋遺跡
162	18-E-2 SD2	寛永通宝	2.3	1.81	新寛永。	堂ヶ嶋遺跡
272	19-B-2 SD2	寛永通宝	不明	0.23	残存1/6。	寺崎遺跡
273	19-B-2 SD2	寛永通宝	不明	0.18	残存1/8。	寺崎遺跡
274	19-B-2 SD3	寛永通宝	2.6	3.23	新寛永。	寺崎遺跡
275	19-B-2 SD3	寛永通宝	2.5	2.34	新寛永。	寺崎遺跡
276	19-B-2 SD3	寛永通宝	2.4	2.09	新寛永。	寺崎遺跡
277	19-B-2 SD3	寛永通宝	2.5	1.66	古寛永。	寺崎遺跡
278	19-B-2 SD3	寛永通宝	2.4	2.39	新寛永。	寺崎遺跡
279	19-B-2 SD3	寛永通宝	2.4	2.96	古寛永。	寺崎遺跡
280	19-B-2 SD3	寛永通宝	2.5	2.83	新寛永。	寺崎遺跡
798	16-B-4 SD1	寛永通宝	2.4	3.36	古寛永。	童子丸遺跡
799	16-B-4 SD1	寛永通宝	2.5	3.15	古寛永。	童子丸遺跡
800	16-B-4 SD1	寛永通宝	2.4	3.16	新寛永。	童子丸遺跡
801	16-B-4 SD1	寛永通宝	2.4	3.54	新寛永。	童子丸遺跡
802	16-B-4 SD1	寛永通宝	2.4	3.33	古寛永。	童子丸遺跡
803	16-B-4 SD1	寛永通宝	2.4	2.19	古寛永。	童子丸遺跡
804	16-B-4 SD1	寛永通宝	2.5	3.56	古寛永。	童子丸遺跡
805	17-1-7 6層2	寛永通宝	2.3	1.04	新寛永。	童子丸遺跡
—	16-2-9 SE1	桐1銭青銅貨	2.3	3.75	大正5年改正青銅貨	童子丸遺跡
859	17-1-1 SE1	寛永通宝	–	2.49	背文「文」。	石貫遺跡
860	18-B-6 SE1	寛永通宝	2.3	1.53	新寛永。	石貫遺跡

Tab. 7　鉄製品観察表

No	出土位置	種別	法量(cm) 長	幅(最大)	厚	重量(g)	備考
271	16-D-19 SA1	鉄鏃	11.0	2.1	0.2	15.58	方頭鏃。SA1内出土。寺崎遺跡。
PL. 19鉄-4	19-A-20地点	鉄滓	7.5	5.0	2.5	86.95	椀型。堂ヶ嶋遺跡。
PL. 19鉄-1	19-A-21地点	鉄滓	7.1	5.3	2.0	88.73	椀型。堂ヶ嶋遺跡。
PL. 19鉄-2	19-A-21地点	鉄滓	5.0	2.8	2.5	42.63	椀型。堂ヶ嶋遺跡。
PL. 19鉄-3	19-A-21地点	鉄滓	8.0	5.8	2.3	108.79	椀型。堂ヶ嶋遺跡。
PL. 24	19-2-6	鉄滓	7.7	6.1	2.5	119.26	椀型。寺崎遺跡。
PL. 37鉄 - 1	16-C-17　1	鉄滓	6.7	5.0	1.4	100.29	椀型。法元遺跡。
PL. 37鉄 - 2	16-C-18　1	鉄滓	5.8	4.5	1.5	61.79	椀型。法元遺跡。
PL. 37鉄-3	16-C-18　2	鉄滓	7.8	4.6	3.2	70.15	椀型。法元遺跡。

報告書抄録

ふりがな	どうがしま　てらさき　かみつま　ほうが　どうじまる　いしぬき
書名	堂ヶ嶋遺跡、寺崎遺跡、上妻遺跡、法元遺跡、童子丸遺跡、石貫遺跡
副書名	妻北地区下水道敷設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第1集
シリーズ名	西都市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第60集
編著者名	蓑方政幾、　津曲大祐
編集機関	西都市教育委員会
所在地	〒881 - 0015 宮崎県西都市聖陵町２丁目１番地　　ＴＥＬ　0983-43-1111
発行年月日	西暦　2011年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	
どうがしま 堂ヶ嶋遺跡	みやざきけんさいとしおおあざ 宮崎県西都市大字	1016	日本測地系 32° 07′ 21″ 7753 ～	日本測地系 131° 23′ 39″ 4448 ～	20040617	
てらさき 寺崎遺跡	みぎまつあざはねだ 右松字刎田　外	1017	32° 06′ 32″ 9279	131° 24′ 23″ 8717	～	
かみつま 上妻遺跡		1018				
ほうが 法元遺跡		1020				
どうじまる 童子丸遺跡		1021	世界測地系 32° 07′ 34″ 2110 ～	世界測地系 131° 23′ 30″ 9237 ～		
いしぬき 石貫遺跡		1022	32° 06′ 45″ 3694	131° 24′ 15″ 3496	20090202	

調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
妻北地区下水道敷設事業に伴う発掘調査	散布地、集落跡	古墳時代後期・奈良・平安	消失古墳周溝、竪穴住居跡、溝状遺構	土師器･石錘・須恵器・磁器	

調査面積	試掘調査	本発掘調査
		8722.5㎡

『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第60集
堂ヶ嶋遺跡・寺　崎遺跡
上　妻遺跡・法　元遺跡
童子丸遺跡・石　貫遺跡
平成23年3月30日発行
編集発行　西都市教育委員会
印 刷 所　ふくしげ印刷